取　扱　書

よくお読みになってご使用ください。
取扱書は車の中に保管しましょう。

MARK X

TABLE OF CONTENTS

目次

メーカーオプションのナビゲーションシステムを装着された方は、別冊「ナビゲーションシステム取扱書」も併せてお読みください。

TABLE OF CONTENTS　目次

1 運転する前に

2 運転するときに

4 お手入れのしかた

5 トラブルが起きたら

6 車両の仕様

さくいん

外観

ドアミラー P. 74
ヘッドライト（ハイビーム）P. 163
ヘッドライト（ロービーム）P. 163
ワイパー P. 171
ボンネット P. 294
方向指示灯 P. 142
非常点滅灯 P. 333
BTO00AW001
フロントフォグライト* P. 168
方向指示灯 P. 142
非常点滅灯 P. 333
車幅灯 P. 163

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

フロント席

助手席 SRS エアバッグ P. 91
運転席 SRS エアバッグ P. 91
ヘッドレスト P. 56
シートベルト P. 58
A
B
C
グローブボックス
P. 263
フロントシート P. 49
リヤシート P. 52
SRS サイドエアバッグ
P. 91
BTO00AW003

A

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

B
パワーウインドウ
スイッチ P. 77
ロックレバー P. 40
ALL AUTO
BTO00AW005
ドアロックスイッチ P. 39
ウインドウロックスイッチ P. 77

C

シフトレバー P. 135

カップホルダー P. 266

BTO00AR006

モードセレクトスイッチ P. 137

シートヒータースイッチ * P. 275

＊：車両型式などで異なる装備やオプション装備

インストルメントパネル

A

オートエアコン（ミラーヒーター非装着車）

オートエアコン（ミラーヒーター装着車）

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

B
ワイパー&ウォッシャー
スイッチ P. 171
プリクラッシュブレーキ
OFF スイッチ * P. 208
VIEW
BTO00AW011
ワイドビューフロントモニター
スイッチ※
IPA(インテリジェントパーキング
アシスト) プレサポートスイッチ※
クリアランスソナー
メインスイッチ * P. 189
チルト&テレスコピック
ステアリングレバー *
P. 65
ハンドル位置調整
スイッチ * P. 65

＊：車両型式などで異なる装備やオプション装備
※：別冊「ナビゲーションシステム取扱書」を参照ください。

D
スマートエントリー&スタートシステム非装着車
エンジン（イグニッション）スイッチ P. 127
PUSH
ACC
ON
START
LOCK
OFF
SRS
KNEE AIRBAG
L R
BTO00AW010
ライトスイッチ P. 163
方向指示レバー P. 142
フォグライト
スイッチ P. 168
フロントワイパーデアイサー
スイッチ* P. 234
ドアミラースイッチ P. 74
ボンネットオープナー P. 294
手動光軸調整ダイヤル *P. 164

D

スマートエントリー&スタートシステム装着車

＊：車両型式などで異なる装備やオプション装備

知っておいていただきたいこと

本書の内容について

本書はオプションを含むすべての装備の説明をしています。
そのため、お客様のお車にはない装備の説明が記載されている場合があります。
また、車の仕様変更により、内容がお車と一致しない場合がありますのでご了承ください。
トヨタ販売店で取りつけられた装備（販売店オプション）の取り扱いについては、その商品に付属の取扱書をお読みください。

イラストは、記載している仕様などの違いにより、お客様のお車の装備と一致しない場合があります。

違法改造について

● トヨタが国土交通省に届け出をした部品以外のものを装着すると、違法改造になることがあります。

● 車高を下げたり、ワイドタイヤを装着するなど、車の性能や機能に適さない部品を装着すると、故障の原因となったり、事故をおこし、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

● ハンドルの改造は絶対にしないでください。ハンドルにはＳＲＳエアバッグが内蔵されているため、不適切に扱うと、正常に作動しなくなったり、誤ってふくらみ、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

● 次の場合はトヨタ販売店にご相談ください。

・ タイヤ・ディスクホイール・ホイール取りつけナットの交換。
異なった種類や指定以外のものを使用すると、走行に悪影響をおよぼしたり、違法改造になることがあります。
・ 電装品・無線機などの取りつけ、取りはずし。
電子機器部品に悪影響をおよぼしたり、故障や車両火災など事故につながるあそれがあり危険です。

● フロントガラス、および運転席・助手席の窓ガラスに着色フィルム（含む透明フィルム）などを貼りつけないでください。視界をさまたげるばかりでなく、違法改造につながるおそれがあります。

運転についてのご注意

他の車や歩行者など、周囲の状況に常に注意を払い、安全運転を心がけてください。

飲酒運転は絶対しないでください。お酒を飲むと注意力と判断力がにぶり、思いがけない事故を引き起こすおそれがあります。また、眠気をもよおす薬を飲んだときも運転を控えてください。

運転中に携帯電話を使用したり、装置の調節などをしないでください。周囲の状況などへの注意が不十分になり、大変危険です。ハンズフリー以外の自動車電話や携帯電話を運転中に使用することは法律で禁止されています。

お子さまを乗せるときは

お子さまを車の中に残したままにしないでください。車内が高温になって熱射病や脱水症状になり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

また、お子さまが車内の装置を操作し、ドアガラスなどに挟まれたり、ライター、発炎筒などでやけどしたり、運転装置を動かして、思いがけない事故につながるおそれがあり危険です。

お車にお子さまを乗せる場合は、お子さまの安全を確保するための注意事項やチャイルドシートの取りつけ方などをまとめた「チャイルドシートの取りつけ」(→P. 109)をお読みください。

保証および点検について

保証および点検整備については、別冊「メンテナンスノート」に記載していますので、併せてお読みください。

日常点検整備や定期点検整備は、お客様の責任において実施してください。(法律で義務づけられています。)

本書の中の表示について

警告、注意、知識について

⚠ 警告

ここに記載されていることをお守りいただかないと、生命の危険または、重大な傷害につながるおそれがあります。お客様自身と周囲の人々への危険を避けたり減少させたりするため必ずお読みください。

⚠ 注意

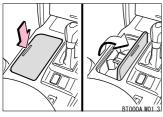
ここに記載されていることをお守りいただかないと、お車や装備品の故障や破損につながるおそれがあります。

知識

機能の説明や操作方法の説明以外で知っておいていただきたいこと、知っておくと便利なことを説明しています。

イラスト内の表示について

セーフティーシンボル

“してはいけません”“このようにしないでください”“このようなことを起こさないでください”という意味を表しています。

操作を示す矢印

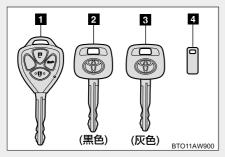
➡ スイッチなどの操作（押す、回すなど）を示しています。

⇨ 操作後の作動（フタが開くなど）を示しています。

運転する前に　1

キー

お客様へ次のキーをお渡しします。

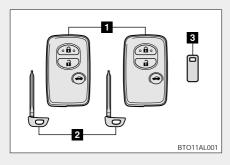
スマートエントリー&スタートシステム非装着車

1 キー（ワイヤレス機能装着）

ワイヤレス機能の作動（→P. 36）

2 キー（ワイヤレス機能非装着）

3 サブキー（ワイヤレス機能非装着）

4 キーナンバープレート

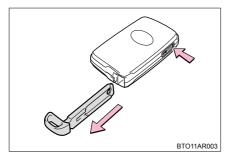
スマートエントリー&スタートシステム装着車

1 電子キー

- スマートエントリー＆スタートシステムの作動（→P. 25）
- ワイヤレス機能の作動（→P. 36）

2 メカニカルキー

3 キーナンバープレート

メカニカルキーを使うには

BTO11AR003

メカニカルキーを取り出すには、解除ボタンを押してキーを取り出す

使用後はもとに戻し、電子キーと一緒に携帯してください。電子キーの電池が切れたときやスマートエントリー＆スタートシステムが正常に作動しないとき、メカニカルキーが必要になります。（→P. 372）

知識

■キーナンバープレート

車の中以外の安全な場所（財布の中など）に保管してください。万一、キー（スマートエントリー＆スタートシステム非装着車）またはメカニカルキー（スマートエントリー＆スタートシステム装着車）を紛失した場合、トヨタ販売店でキーナンバーから新しいキーが作製できます。（→P. 371）

■航空機に乗るときは

航空機に電子キー・ワイヤレスキーを持ち込む場合は、航空機内で電子キーのスイッチを押さないでください。また、かばんなどに保管する場合でも、簡単にスイッチが押されないように保管してください。スイッチが押されると電波が発信され、航空機の運行に支障をおよぼすおそれがあります。

⚠ 注意

■キーの故障を防ぐために

- ●キーに衝撃を与えたり、直射日光のあたる高温な場所に置いたり、ぬらしたりしないでください。
- ●キーを磁気のあるものに近付けたり、電磁波を遮断するものをキー表面に貼り付けたりしないでください。
- ●キーを分解しないでください。

■電子キーについて

電子キー・ワイヤレスキーは電波法の認証に適合しています。必ず次のことをお守りください。

- ●電池交換時以外は、不用意に分解しないでください。分解、改造したものを使用することは法律で禁止されています。
- ●必ず日本国内でご使用ください。

■キーを携帯するときは

電源を入れた状態の電化製品とは10 cm以上離して携帯してください。10 cm以内にあると電化製品の電波と干渉し正常に機能しない場合があります。

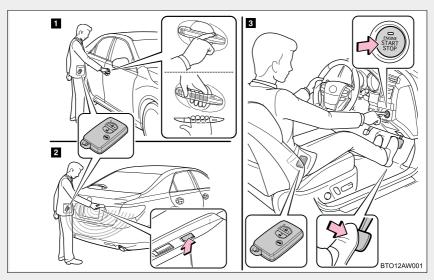
■スマートエントリー＆スタートシステムの故障などで販売店に車両を持っていくときは

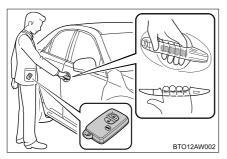
車両に付属しているすべての電子キーをお持ちください。

■キーを紛失したときは

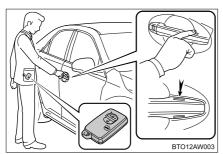
キーを紛失した状態で放置すると、盗難の危険性が極めて高くなります。車両に付属している残りのキーをすべてお持ちのうえ、ただちにトヨタ販売店にご相談ください。

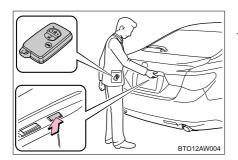
スマートエントリー&スタートシステム

電子キーをポケットなどに携帯していると、次の操作が行えます。
(必ず運転者が携帯してください)

1 ドアを解錠・施錠する　(→P. 26)
2 トランクを解錠する　(→P. 27)
3 エンジンを始動する　(→P. 130)

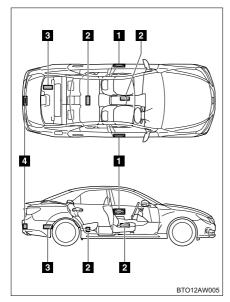
ドアの解錠・施錠（フロント席ドアハンドルのみ）

ハンドルを握って解錠する

ハンドル裏面のセンサー部に確実にふれてください。

施錠操作後３秒間は解錠できません。

ドアハンドル上側のロックセンサー部（ハンドルのくぼみ部）にふれ施錠する

トランクの解錠

トランクオープンスイッチを押して解錠する

アンテナの位置と作動範囲

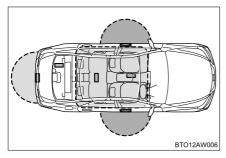
■ アンテナの位置

1 車外アンテナ

2 車内アンテナ

3 トランク内アンテナ

4 トランク外アンテナ

■ 作動範囲（電子キーの検知エリア）

BTO12AW006

:ドアの解錠・施錠時

フロント席ドアハンドルから周囲約 70 cm 以内で電子キーを携帯している場合に作動します。(電子キーを検知しているドアハンドルのみ作動します)

:トランクの解錠時

トランクオープンスイッチから周囲約 70 cm 以内で電子キーを携帯している場合に作動します。

:エンジン始動時または“エンジン スタート ストップ”スイッチ切りかえ時

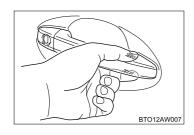
車内で電子キーを携帯している場合に作動します。

知識

■作動の合図

ブザーと非常点滅灯の点滅で知らせます。（解錠は 2 回、施錠は 1 回）

■ ドアハンドル上側のロックセンサーで施錠できないときは

BTO12AW007

ドアハンドル上側のロックセンサー部にふれても施錠できないときは、上下のロックセンサー部に同時にふれてください。

■警告音と警告表示について

誤動作などによる予期せぬ事故や盗難を防ぐため、車内や車外で警告音が鳴ったり、マルチインフォメーションディスプレイに警告が表示されることがあります。マルチインフォメーションディスプレイに警告が表示されたときは、ディスプレイの表示をもとに適切に対処してください。(→P. 347)

警告音のみが鳴る場合の状況と対処方法は次のようになります。

警告音	状況	対処方法
車外から“ピー”と10 秒間鳴る	いずれかのドアが開いているときにスマートエントリー&スタートシステムで施錠しようとした	全ドアを閉めたあと、再度施錠してください。
車内から“ポーン、ポーン”と鳴り続ける	運転席ドアが開いている状態で“エンジン スタート ストップ”スイッチをアクセサリーモードにした(アクセサリーモードのとき運転席ドアを開いた)	“エンジン スタート ストップ”スイッチをOFF にしたあと、運転席ドアを閉めてください。

■解錠操作のセキュリティ機能

解錠操作後、約 30 秒以内にドアを開けなかったときは盗難防止のため、自動的に施錠されます。

■節電機能

長期駐車時に電子キーの電池と車両のバッテリーあがりを防止するため、節電機能が働きます。

●次の状況では、スマートエントリー&スタートシステムによる解錠に時間がかかる場合があります。

・車の外約 2m 以内にスマートキーを 10 分以上放置した。
・5 日間以上スマートエントリー&スタートシステムを使用しなかった。

●14 日間以上スマートエントリー&スタートシステムを使用しなかった場合、運転席以外での解錠ができなくなります。この場合は、運転席のドアハンドルを握る、もしくは、ワイヤレス機能、メカニカルキーで解錠してください。

■機能が正常に働かないおそれのある状況

スマートエントリー＆スタートシステムは微弱な電波を使用しています。次のような場合は電子キーと車両間の通信をさまたげ、スマートエントリー＆スタートシステムやワイヤレスリモコン、イモビライザーシステム*が正常に作動しない場合があります。(対処方法：→P. 372)

●電子キーの電池が消耗しているとき

●近くにテレビ塔や発電所・ガソリンスタンド・放送局・大型ディスプレイ・空港があるなど、強い電波やノイズの発生する場所にいるとき

●無線機や携帯電話・コードレス式電話などの無線通信機器を携帯しているとき

●電子キーが、次のような金属製のものに接していたり、覆われたりしているとき

・アルミ箔などの金属の貼られたカード
・アルミ箔を使用したタバコの箱
・金属製の財布やかばん
・小銭
・カイロ
・ＣＤ や ＤＶＤ などのメディア

●近くで他の電波式ワイヤレスリモコンを使用しているとき

●電子キーを、次のような電波を発信する製品と同時に携帯しているとき

・他の車の電子キーや電波式ワイヤレスリモコン
・パソコンや携帯情報端末（ＰＤＡ など）
・デジタルオーディオプレーヤー
・ポータブルゲーム機器

●リヤガラスに金属を含むフィルムなどが貼ってあるとき

■ご留意いただきたいこと

●電子キーが作動範囲内（検知エリア内）にあっても、次のような場合は正しく作動しないことがあります。

・ドアの解錠・施錠時に電子キーがドアガラスやドアハンドルに近付きすぎる、または地面の近くや高い場所にある場合
・トランクの解錠時に電子キーが地面の近くや高い場所にある、またはリヤバンパー中央に近付きすぎた場合
・エンジン始動時または“エンジン スタート ストップ”スイッチの切りかえ時に、電子キーがインストルメントパネルやフロア上・リヤシート後方のパッケージトレイ上・ドアポケット・またはグローブボックス内などに置かれていた場合

●電子キーが作動範囲内にあれば、電子キーを携帯している人以外でも解錠・施錠できます。

●車外でもドアガラスに近い位置に電子キーがあるときは、エンジンの始動が可能になる場合があります。

●電子キーが作動範囲内にある場合、洗車や大雨などでドアハンドルに大量の水がかかると、ドアが解錠することがあります。（ドアの開閉操作がなければ約 30 秒後に自動的に施錠されます）

●手袋を着用していると、ドアハンドルを握っても解錠されない場合があります。

●車両に近い位置に電子キーがあるときにワイヤレス機能などで施錠を行うと、スマートエントリー＆スタートシステムによる解錠ができなくなることがあります。（ワイヤレス機能を使って解錠すると復帰します）

●車外アンテナの作動範囲内への急な接近やドアハンドル操作では、解錠されない場合があります。その場合は、ドアハンドルを一度もとの位置にもどし、解錠されたことを確認してからドアハンドルを引いてください。

■施錠時の留意事項

- 手袋を着けてロックセンサーにふれた場合、施錠が遅れたり、施錠されなかったりすることがあります。その場合、手袋をはずしてロックセンサーにふれてください。
- ロック操作は、連続で 2 回まで有効で、3 回目以降はロック動作しません。
- キーを携帯して洗車などで水をドアハンドルにかけた場合、解錠／施錠動作をくり返すことがあります。その場合はキーを車両から 2m 以上離れた場所に保管して、洗車などをしてください。(キーの盗難に注意してください)
- 車内にキーがあるときに、洗車機で洗車するなどして水をドアハンドルにかけた場合、警報がマルチインフォメーションディスプレイに表示され、車外のブザーが吹鳴することがあります。その場合は全ドアを施錠すれば警報表示は消え、ブザーは停止します。
- ロックセンサーの表面に氷や雪、泥が付着した場合、センサーが反応しない場合があります。反応しない場合は表面に付着した氷や雪、泥を取り除いて再度操作するか、ドアハンドル下部のロックセンサーを使って操作してください。
- ドアハンドルを操作するときに、爪がドアにあたる場合があります。ドアを傷付けたり、爪を割ったりしないよう注意してください。

■解錠時の留意事項

●急なドアハンドル操作や、車外アンテナの作動範囲内へ急に入ってドアハンドルを操作したときは、解錠されない場合があります。その場合は、ドアハンドルを一度もとの位置にもどし、解錠されたことを確認してからドアハンドルを引いてください。

●手袋を着けてドアハンドルを握った場合は、解錠が遅れたり、解錠されなかったりすることがあります。その場合、手袋をはずしてハンドル裏面のセンサー部にふれてください。

●キーを携帯して洗車などで水をドアハンドルにかけた場合、解錠／施錠動作をくり返すことがあります。その場合はキーを車両から 2m 以上離れた場所に保管して、洗車などをしてください。（キーの盗難に注意してください）

●作動範囲内に他の電子キーがあるときは、ドアハンドルを握ってから解錠するまでの時間が少し長くなる場合があります。

●ドアハンドルを操作するときに、爪がドアにあたる場合があります。ドアを傷付けたり、爪を割ったりしないよう注意してください。

■長期間運転しないときは

●盗難防止のため、電子キーを車から 2 m 以上離しておいてください。

●あらかじめスマートエントリー＆スタートシステムを非作動にすることができます。（→P. 390）

■システムを正しく作動させるために

電子キーを必ず携帯した上で作動させてください。また、車外から操作する場合は電子キーを車両に近付けすぎないようにしてください。
作動時の電子キーの位置や持ち方によっては、電子キーが正しく検知されず、システムが正しく作動しないことがあります。（誤って警報が鳴ったり、キー閉じ込み防止機能が働かないこともあります）

■スマートエントリー＆スタートシステムが正常に作動しないときは

●ドアの解錠・施錠、トランクの解錠：→P. 372

●エンジンの始動：→P. 373

■電池の消耗について

●電池の標準的な寿命は 1 ～ 2 年です。

●電池残量が少なくなると、エンジンを停止した際に車内から警告音が鳴ります。(→P. 356)

●電子キーは常に電波を発信しているため、使用していないあいだでも電池が消耗します。次のような状態になったときは、電池が消耗している可能性があります。新しい電池に交換してください。

・スマートエントリー＆スタートシステムやワイヤレスリモコンが作動しない
・作動範囲が狭くなった
・電子キーの LED が点灯しない

●電池の著しい消耗を防ぐために次のような磁気を発生する電化製品の 1 m 以内に電子キーを置かないでください。

・ＴＶ
・パソコン
・携帯電話やコードレス電話機、および充電器
・電気スタンド
・電磁調理器

■電池が切れたときは

→P. 323

■販売店で設定可能な機能

スマートエントリー＆スタートシステムを非作動にするなどの変更ができます。(カスタマイズ一覧 →P. 390)

警告

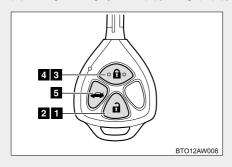
■電波がおよぼす影響についての警告

- 植え込み型心臓ペースメーカーおよび植え込み型除細動器を装着されている方は、室内アンテナ・車外アンテナ（→P. 27）から約 22 cm 以内に近づかないようにしてください。電波により植え込み型心臓ペースメーカーおよび植え込み型除細動器の作動に影響を与えるおそれがあります。
- 植え込み型心臓ペースメーカーおよび植え込み型除細動器以外の医療用電気機器を使用される場合は、電波による影響について医療用電気機器製造業者などに事前に確認してください。電波により医療用電気機器の動作に影響を与えるおそれがあります。

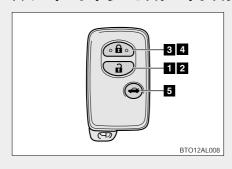
スマートエントリー＆スタートシステムを非作動にすることもできます。詳しくは販売店にお問い合わせください。

ワイヤレスリモコン

ドアを解錠・施錠、トランクを解錠できます。

スマートエントリー&スタートシステム非装着車

1 全ドアを解錠する
2 ドアガラスとムーンルーフを開ける (押し続ける) ※
3 全ドアを施錠する
4 ドアガラスとムーンルーフを閉める (押し続ける) ※
5 トランクを解錠する(長押し)

※: トヨタ販売店での設定が必要です。

スマートエントリー&スタートシステム装着車

1 全ドアを解錠する
2 ドアガラスとムーンルーフを開ける (押し続ける) ※
3 全ドアを施錠する
4 ドアガラスとムーンルーフを閉める (押し続ける) ※
5 トランクを解錠する(長押し)

※: トヨタ販売店での設定が必要です。

知識

■作動の合図

ドア　　：ブザー（スマートエントリー&スタートシステム装着車）と非常点滅灯の点滅で知らせます。（解錠は 2 回、施錠は 1 回）

トランク：ブザー（スマートエントリー&スタートシステム装着車）で知らせます。

■半ドア警告ブザー

ドアが完全に閉まっていない状態で、ドアを施錠しようとすると、ブザーが鳴ります。ドアを完全に閉めてからもう一度施錠してください。

■電池の消耗について

スマートエントリー&スタートシステム非装着車

電池の標準的寿命は 1 ～ 2 年です。（ワイヤレス機能を使用しなくても電池は消耗します）ワイヤレス機能が作動しない場合は、電池が消耗している可能性があります。新しい電池と交換してください。(→P. 323)

スマートエントリー&スタートシステム装着車

→P. 34

■解錠操作のセキュリティ機能

スマートエントリー&スタートシステム非装着車

解錠操作後、約 30 秒以内にドアを開けなかったときは盗難防止のため、自動的に施錠されます。

スマートエントリー&スタートシステム装着車

→P. 29

■電池が切れたときは

→P. 323

■機能が正常に働かないおそれのある状況（スマートエントリー&スタートシステム装着車）

→P. 30

■販売店で設定可能な機能

ワイヤレスリモコンを非作動にするなどの変更ができます。
（カスタマイズ機能一覧 →P. 390）

注意

■機能が正常に働かないおそれのある状況（スマートエントリー＆スタートシステム非装着車）

次のような場合、ワイヤレス機能が正常に働かないおそれがあります。

- 近くにテレビ塔や発電所、放送局、空港など強い電波を発生する設備、電波式のオーディオ機器など電波を発生する電子機器、大型ディスプレイがあるとき
- 無線機や携帯電話、コードレス式電話などの無線通信機器を携帯しているとき
- 複数のワイヤレスキーが近くにあるとき
- ワイヤレスキーが金属製のものに接したり、覆われているとき
- 近くで電波式ワイヤレスキーを使用しているとき
- ワイヤレスキーをパソコンなどの電化製品の近くに置いているとき

ドア

スマートエントリー＆スタートシステムやワイヤレス機能、キー、ドアロックスイッチを使って解錠・施錠できます。

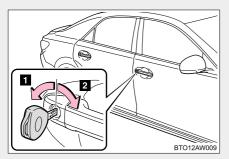
■ スマートエントリー＆スタートシステム（スマートエントリー＆スタートシステム装着車）

→P. 26

■ ワイヤレス機能

→P. 36

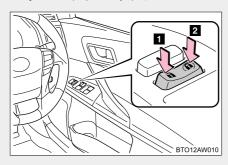
■ キー

スマートエントリー＆スタートシステム非装着車

1 全ドアを解錠する

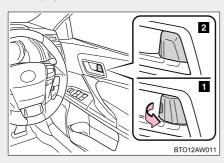
2 全ドアを施錠する

スマートエントリー＆スタートシステム装着車

メカニカルキーを使ってドアを解錠・施錠できます。（→P. 372）

■ ドアロックスイッチ

1 全ドアを解錠する

2 全ドアを施錠する

■ ロックレバー

1 ドアを解錠する

2 ドアを施錠する

運転席ドアは、ロックレバーが施錠側になっていても、車内のドアレバーを引くと開けられます。

キーを使わずに外側からフロント席を施錠するときは

手順 1 ロックレバーを施錠側にする

手順 2 ドアハンドルを引いたままドアを閉める

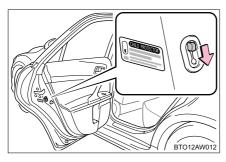
スマートエントリー&スタートシステム非装着車

キーがエンジン スイッチに差し込まれているときは施錠されません。

スマートエントリー&スタートシステム装着車

“ エンジン スタート ストップ ” スイッチがアクセサリーモードまたはイグニッションONモードのときや車内に電子キーが放置されているときは施錠されません。

キーが正しく検知されずに施錠される場合があります。

チャイルドプロテクター

施錠側にすると、リヤ席ドアが車内から開かなくなります。

お子さまが車内からリヤ席ドアを開けられないようにできます。両側のリヤ席ドアを施錠側にしてください。

オートドアロック・アンロック機能

次の機能を設定・解除することができます。

機能	作動内容
シフト連動オートロック	エンジン回転中にシフトレバーを P から動かすと全ドアが施錠されます。
シフト連動オートアンロック	シフトレバーを P に入れると全ドアが解錠されます。
車速感応オートロック	車速が 20km/h 以上になると全ドアが施錠されます。
運転席ドア連動 オートアンロック	**スマートエントリー&スタートシステム非装着車** エンジン スイッチを“ LOCK”にしてから 10 秒以内に運転席ドアを開けると全ドアが解錠されます。 **スマートエントリー&スタートシステム装着車** “ エンジン スタート ストップ ”スイッチを OFF にしてから 10 秒以内に運転席ドアを開けると全ドアが解錠されます。

■ 設定・解除のしかた

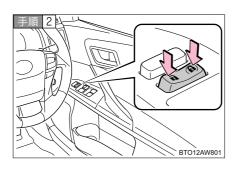
次の手順で、各機能の設定と解除が交互に切りかわります。

手順 1

スマートエントリー&スタートシステム非装着車

すべてのドアを閉め、エンジン スイッチを“ ON”にする（その後 10 秒以内に手順 2 を行う）

スマートエントリー&スタートシステム装着車

すべてのドアを閉め、“ エンジン スタート ストップ ”スイッチをイグニッション ON モードにする（その後 10 秒以内に手順 2 を行う）

シフトレバーを P または N にいれ、運転席ドアロックスイッチの 🔒 または 🔓 を約 5 秒間押して離す

設定を行う機能によってシフトレバーとスイッチの位置を次の表から選択します。

機能を解除するには、同じ手順を行います。

機能	シフトレバーの位置	ドアロックスイッチの位置
シフト連動オートロック	P	🔒
シフト連動オートアンロック		🔓
車速感応オートロック	N	🔒
運転席ドア連動 オートアンロック		🔓

設定または解除の切りかえ操作が完了すると、全てのドアが施錠されたあと、解錠されます。

知識

■チャイルドプロテクター使用時のドアの開け方

ドアを解錠して車外のドアハンドルを引くと開きます。万一車内から開ける場合は、ドアガラスを下げて手を出し、車外のドアハンドルを引いてください。

■衝撃感知ドアロック解除システム

車両が前後左右から強い衝撃を受けると、すべてのドアが解錠されます。衝撃の度合いや事故の形態によっては作動しないことがあります。

■販売店で設定可能な機能

キー操作によって解錠されるドアの設定などを変更できます。
(カスタマイズ機能一覧 →P. 390)

警告

■事故を防ぐために

運転中は次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、思いもよらずドアが開き、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- シートベルトを必ず使用する
- 全てのドアを施錠する
- 全てのドアを確実に閉める
- 走行中はドア内側のドアハンドルを引かない
  ドアが開き車外に放り出されたりして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。特に、運転席はロックレバーが施錠側になっていてもドアが開くため、注意してください。
- お子さまをリヤ席に乗せるときは、チャイルドプロテクターを使用して車内からドアが開かないようにする

■ドアを開閉するときは

傾斜地、ドアと壁などのあいだが狭い場所、強風など周囲の状況を確認し、予期せぬ動きにも対処できるよう、ドアハンドルを確実に保持してドアを開閉してください。

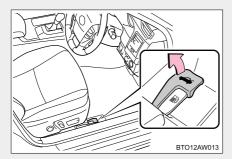
注意

■オートドアロック・アンロック機能の切りかえについて

設定または解除の切りかえ操作が完了すると、全てのドアが施錠されたあと、解錠されます。解錠・施錠の作動がない場合、切りかえられていない場合があります。

トランク

トランクオープナーやスマートエントリー＆スタートシステム、ワイヤレス機能を使って開けることができます。

■ 車内からトランクを開けるには

レバーを引き上げて、トランクのロックを解除する。

■ 車外からトランクを開けるには

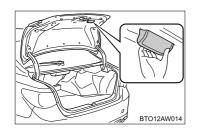
ワイヤレス機能

→P. 36

スマートエントリー＆スタートシステム

→P. 27

知識

■ トランクグリップ

トランクを閉めるときにお使いください。

引き下げるときは、トランクグリップを持って、横方向に力をかけないように引き下げます。

■ トランクライト

トランクを開けたとき、トランクライトが点灯します。

■ トランク内キー閉じ込み防止機能について（スマートエントリー＆スタートシステム装着車）

● 全てのドアが施錠されている場合、トランク内に電子キーを置いたままトランクを閉めると、警告音が鳴ります。この場合トランクオープンスイッチ（車外）で開けられます。

● 全てのドアが施錠されている状態で、予備のキーをトランクに入れたときも、キー閉じ込み防止機能が働き、トランクを開けることができます。盗難防止のため、車から離れるときは必ず全ての電子キーを携帯してください。

● 全てのドアが施錠されている状態でトランク内に電子キーを置いていても、電子キーが置かれた場所や、周囲の電波状況によっては、トランク内の電子キーを検知できないことがあります。この場合は、キー閉じ込み防止機能が働かず、トランクを閉めたときに施錠されてしまいます。トランクを閉めるときには、必ず電子キーの所在を確認してください。

● ドアがひとつでも解錠されている場合は、キー閉じ込み防止機能は働きません。この場合は、車内のトランクオープナーでトランクを開けてください。

注意

■**バッテリーあがりを防止するために**

トランクが開いた状態でトランクライトが点灯したまま長時間放置しないでください。

警告

■**走行中の警告**

●走行中はトランクを閉じてください。
開けたまま走行すると、トランクが車外のものにあたったり荷物が投げ出されたりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
また、排気ガスが車内に侵入し、重大な健康障害や死亡につながるおそれがあり危険です。走行する前に必ずトランクが閉まっていることを確認してください。

●走行前にトランクが完全に閉まっていることを確認してください。トランクが完全に閉まっていないと、走行中にトランクが突然開き、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●トランク内には絶対に人を乗せないでください。急ブレーキをかけたときや衝突したときなどに、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあり危険です。

■**お子さまを乗せているときは**

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあり危険です。

●トランクの中でお子さまを遊ばせないでください。
誤って閉じ込められた場合、熱射病や窒息などを引き起こすおそれがあります。

●お子さまにはトランクの開閉操作をさせないでください。
不意にトランクリッドが作動したり、閉めるときに手、頭、首などを挟んだりするおそれがあります。

⚠ 警告

■トランクの使用にあたって

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、体を挟むなどして重大な傷害につながるおそれがあり危険です。

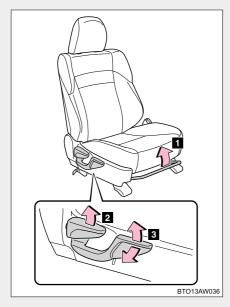
- トランクを開ける前に、トランクリッド上の雪や氷などの重量物を取り除いてください。開いたあとに重みでトランクリッドが落下するおそれがあります。
- トランクを開閉するときは、十分に周囲の安全を確かめてください。
- 人がいるときは、安全を確認し動かすことを知らせる「声かけ」をしてください。
- 強風時の開閉には十分注意してください。
  トランクリッドが風にあおられ、勢いよく開いたり閉じたりするおそれがあります。

- 半開状態で使用すると、トランクリッドが落ちて重大な傷害を受けるおそれがあります。特に傾斜地では、平坦な場所よりもトランクの開閉がしにくく、急にトランクが開いたり閉じたりするおそれがあります。必ずトランクが全開で静止していることを確認して使用してください。

BTO12AW015

- トランクを閉めるときは、トランクリッドで指などを挟まないよう十分注意してください。
- トランクは必ず外からトランク上面を軽く押して閉めてください。トランクグリップで直接トランクを閉めると、手や腕を挟むおそれがあります。
- トランクリッドにトヨタ純正品以外のアクセサリー用品を取り付けないでください。トランクリッドの重量が重くなると、開いたあとに落ちるおそれがあります。

フロントシート

マニュアルシート装着車

1 前後位置調整

2 リクライニング調整

3 シート全体の上下調整
（運転席のみ）

パワーシート装着車

1 前後位置調整

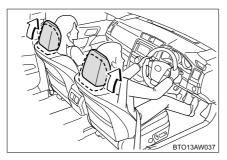
2 リクライニング調整

3 クッション前端の上下調整
（運転席のみ）

4 シート全体の上下調整
（運転席のみ）

5 腰部硬さ調整
（運転席のみ）

6 腰部高さ調整
（運転席のみ）

アクティブヘッドレスト

背もたれに強い衝撃を受けると、フロント席乗員のむち打ちの症状を軽減させるためにヘッドレストが少し前方上側に動きます。

知識

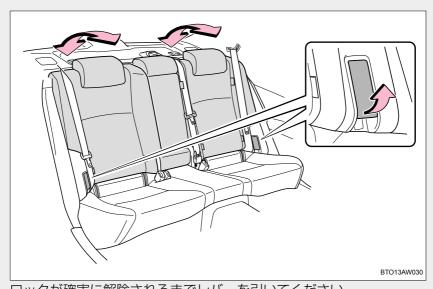
■アクティブヘッドレストについて

背もたれに弱い衝撃を受けてもヘッドレストが動く場合がありますが、故障ではありません。

警告

■シート調整について

●背もたれは必要以上に倒さないでください。
必要以上に倒しすぎると、事故のときに体がシートベルトの下にもぐり、腹部などに強い圧迫を受けたり肩部ベルトが首にかかるなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●マニュアルシート装着車は、シート調整後はシートがきちんと固定されていることを確認してください。

リヤシート

ロックが確実に解除されるまでレバーを引いてください。

リヤシートの前倒しをする前に

手順 1 車を停止させ、しっかりとパーキングブレーキをかける

手順 2 ヘッドレストをいちばん下に下げる（→P. 56）

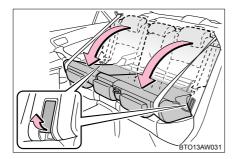
手順 3 リヤ中央席用シートベルトを分離・格納する（→P. 60）

運転席側のシートのみを操作する場合、この手順は不要です。

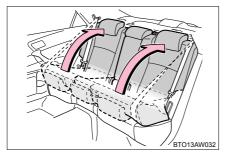
手順 4 リヤセンターアームレストを格納する（→P. 277）

運転席側のシートのみを操作する場合、この手順は不要です。

リヤシートの前倒し

BTO13AW031

レバーを引きながら、背もたれを前方に倒す

■ もどすときは

BTO13AW032

背もたれを起こし、固定する

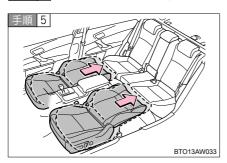
フラットシートにするには

手順 1 車を停止させ、しっかりとパーキングブレーキをかける

手順 2 フロントシートのヘッドレストをはずす（→P. 56）

手順 3 フロントシートをいちばん前まで移動させる（→P. 49）

手順 4 フロントシートの背もたれを後方いっぱいまで倒す（→P. 49）

手順 5

リヤシートとのすき間がなくなるようにシートを移動させる（→P. 49）

※ 4WD 車は運転席側のみフラットにできます。

手順 6 もとにもどすときは、逆の手順で操作する

警告

■ **リヤシートを操作するときは**

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

● 走行中にリヤシートを操作しない

● 平坦な場所でパーキングブレーキを確実にかけ、シフトレバーを P にする

● 操作中は、パッケージトレイとまわりの部品とのあいだに指や腕などを入れない

● 倒した背もたれやトランクに人を乗せて走行しない

● お子さまがトランクに入らないよう注意する

■ **リクライニング調整について**

背もたれは必要以上に倒さないでください。
事故のときに体がシートベルトの下にもぐり、腹部などに強い圧迫を受けるなど生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

警告

■**フラットシートについて**

フラットにした状態で人や荷物をのせて走行しないでください。

■**背もたれをもとの位置にもどしたあとは**

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●シートを前後に軽くゆさぶり、確実に固定する

●シートのあいだにシートベルトが挟み込まれていないか確認する

注意

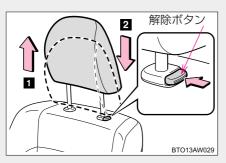
■**シートを操作するときは**

●可動部や結合部に手や足などを挟まないように注意してください。

●シートに人が乗っている状態でシートアレンジ操作をしないでください。

■**フラットシートについて**

●マニュアルシート装着車では背もたれをもどすときは、背もたれを押さえながらリクライニング調整を行ってください。

●フラットにした状態でシートの上を走りまわらないでください。またシートの上を移動するときは、シートの中央を踏んでゆっくり移動してください。

ヘッドレスト

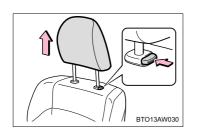
1 上がる

2 下がる

下げるときは、解除ボタンを押しながら操作します。

グレードによりリヤ左右席のヘッドレストは固定式の為、調整することができません。

知識

■ヘッドレストを取りはずすときは

解除ボタンを押しながら取りはずします。

■ヘッドレストの高さについて

必ずヘッドレストの中心が両耳のいちばん上のあたりになるよう調整してください。

■リヤ席のヘッドレストの使用について

使用するときは、常に格納位置（ヘッドレストが最も下がった位置）から“カチッ”と音がするまで上げた位置にしてください。また、ヘッドレストを押し下げ、確実に固定されていることを確認してください。

警告

■ヘッドレストについて

次のことをお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ヘッドレストは、それぞれのシート専用のものを使用する
- ヘッドレストを正しい位置に調整する
- ヘッドレストを調整したあとは、固定されていることを確認する
- ヘッドレストをはずしたまま走行しない
- リヤ席に乗車するときは、必ずヘッドレストを上げた状態にする

シートベルト

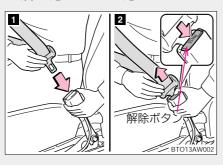
走行前にすべての乗員は必ずシートベルトを正しく着用してください。

■ 正しく着用するには

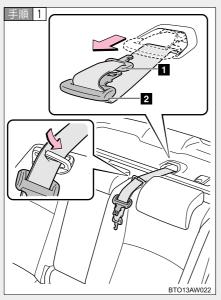
BTO13AW001

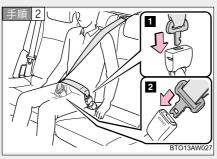
- 肩部ベルトを肩に十分かける
  首にかかったり、肩からはずれないようにしてください。
- 腰部ベルトを必ず腰骨のできるだけ低い位置に密着させる
- 背もたれを調整し、上体を起こし、深く腰かけて座る
- ねじれが無いようにする

■ 着け方、はずし方

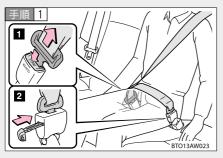
BTO13AW002

1 ベルトを固定するには、“カチッ”と音がするまでプレートをバックルに挿し込む

2 ベルトを解除するには解除ボタンを押す

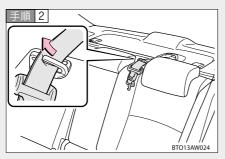
■ 分離格納式シートベルトの着け方（リヤ中央席）

1 プレート A
2 プレート B

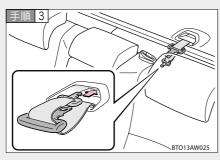
シートベルトを引き出し、ガイドに通す

1 プレート A を取り付ける
2 プレート B を取り付ける

“カチッ”と音がするまで挿し込みます。

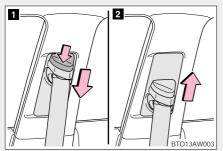
■ 分離格納シートベルトの格納のしかた（リヤ中央席）

1 バックルの解除ボタンを押す

2 キー（→P. 22）などでバックル B の解除ボタンを押す

※ 図はメカニカルキーで説明しています。

シートベルトをガイドからはずす

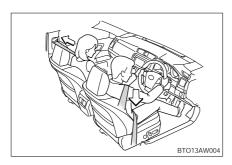
ガイドの切り込みのあいだを通して、シートベルトをガイドからはずします。

プレート A、B を重ねてもとに戻す

確実に固定されるよう、しっかりと奥まで挿し込みます。

■ シートベルトの高さ調節（フロント席）

1 解除ボタンを押しながら、アジャスターを下げる

2 アジャスターを上げる

“カチッ”と音がして固定されるところまで動かしてください。

シートベルトプリテンショナー (フロント席)

前方から強い衝突を受けたとき、シートベルトを引き込むことで適切な乗員拘束効果を確保します。

前方からの衝撃が弱いときや、横やうしろからの衝撃のときは作動しない場合があります。

プリクラッシュシートベルト(プリクラッシュセーフティシステム装着車のフロント席)

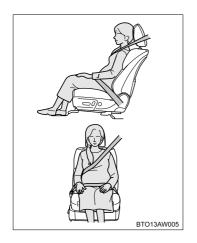
プリクラッシュセンサーにより衝突物が検知され、衝突が避けられないと判断したとき、衝突の前にフロントシートベルトを巻き込み、プリテンショナーの効果を高めます。

急ブレーキをかけたときや、車がコントロールを失ったときも同様に作動します。(→P. 207)

知識

■緊急時シートベルト固定機構

急停止や衝撃があったときベルトがロックされます。急に体を前に倒したり、シートベルトをすばやく引き出してもロックする場合があります。一度ベルトを強く引いてからゆるめ、ゆっくり動かせば、ベルトを引き出すことができます。

■妊娠中の女性の場合

医師に注意事項を確認の上、必ず正しく着用してください。(→P. 58)
妊娠中の方も、通常の着用のしかたと同じように、腰部ベルトが腰骨のできるだけ低い位置にかかるようにお腹のふくらみの下に着用してください。また、肩部ベルトは確実に肩を通し、お腹のふくらみを避けて胸部にかかるように着用してください。
ベルトを正しく着用していないと、衝突したときなどに、母体だけでなく胎児までが重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■疾患のある方の場合

医師に注意事項を確認の上、必ず正しく着用してください。

■お子さまのシートベルトの使い方

この車のシートベルトは、シートベルトを装着するのに十分な、大人の体格を持った人用に設計されています。

- シートベルトが正しい位置で着用できない小さなお子さまの場合は、お子さまの体に合ったチャイルドシートを使用してください。(→P. 100)
- シートベルトが正しい位置で着用できるお子さまの場合は、シートベルトの着用のしかたに従ってください。(→P. 58)

■シートベルトプリテンショナーについて

シートベルトプリテンショナーは、一度しか作動しません。玉突き衝突などで連続して衝撃を受けた場合でも、一度作動したあとは、その後の衝突では作動しません。

警告

■シートベルトの着用について

急ブレーキや事故の際のけがを避けるため、次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 全員がシートベルトを着用する
- シートベルトを正しく着用する
- シートベルトは一組につき一人で使用する
  お子さまでも一組のベルトを複数の人で使用しない
- お子さまはリヤ席に座らせてシートベルトを着用させる
- 背もたれは必要以上に倒さない
  上体を起こし、シートに深く座る
- 肩部ベルトを腕の下に通して着用しない
- 腰部ベルトはできるだけ低い位置に密着させ着用する
- リヤシートベルトを使用するときは、シートベルトがガイド（→P. 59）に通っていることを確認してください。

- リヤ中央席のシートベルトを使用するときは、プレート A とバックルを結合してください。

⚠警告

■お子さまを乗せるときは

お子さまをシートベルトで遊ばせないでください。万一ベルトが首に巻き付いた場合、窒息など重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
誤ってそのような状態になってしまい、バックルもはずせない場合は、ハサミなどでシートベルトを切断してください。

■プリテンショナー付シートベルトについて

シートベルトプリテンショナーが作動すると SRS エアバッグ／プリテンショナー警告灯が点灯します。その場合はシートベルトを再使用することができないため、必ずトヨタ販売店で交換してください。

■シートベルトの損傷・故障について

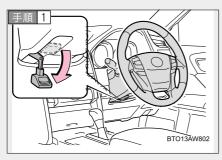
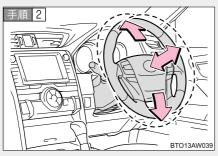
- ベルトやプレート・バックルなどは、シートやドアに挟むなどして損傷しないようにしてください。
- シートベルトが損傷したときは、シートベルトを修理するまでシートは使用しないでください。
- プレートがバックルに確実に挿し込まれているか、シートベルトがねじれていないかを確認してください。うまく挿し込めない場合はただちにトヨタ販売店に連絡してください。
- もし重大な事故にあったときは、明らかな損傷が見られない場合でも、シート・シートベルトを交換してください。
- プリテンショナー付シートベルトの取り付けや取りはずし・分解・廃棄などは、トヨタ販売店以外でしないでください。
  不適切に扱うと、正常に作動しなくなり、重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■プリクラッシュシートベルトについて

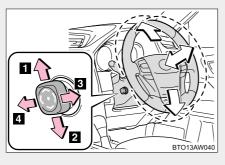
プリクラッシュシートベルトを過信しないでください。
運転するときは常に周囲の状況に注意し、安全運転を心がけてください。

ハンドル

ハンドル位置を運転しやすいように調整できます。

マニュアルチルト&テレスコピックステアリング

ハンドルを持ち、レバーを下げる

ハンドルを上下・前後に動かし、適正な位置にする

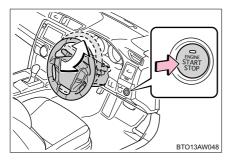
位置が決定したら、レバーを上げてハンドルを固定してください。

電動チルト&テレスコピックステアリング

1 上方へ

2 下方へ

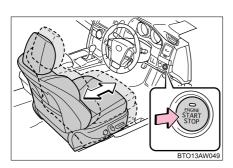
3 手前へ

4 前方へ

オートチルトアウェイ＆リターン機能＊

“エンジン スタート ストップ”スイッチを OFF にすると、乗降がしやすくなるように、ハンドルが動きます。

“エンジン スタート ストップ”スイッチをアクセサリーモードまたはイグニッション ON モードにすると、もとの位置にもどります。

オートシートスライドアウェイ＆リターン機能＊

運転者が乗り降りする際に、運転席シートが自動で、次のように動きます。

降車時：運転席シートが後方に移動（オートアウェイ機能）

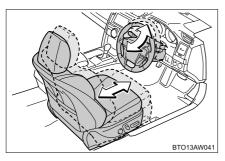
乗車時：運転席シートがもとの位置※に移動（オートリターン機能）

※オートアウェイ機能が作動する前のシートの位置

＊：車両型式などで異なる装備やオプション装備

パワーイージーアクセスシステム＊

運転者が乗り降りする際に、ハンドルと運転席シートが自動で、次のように動きます。

BTO13AW041

降車時：ハンドルが最上段、最前方に移動、運転席シートが後方に移動（オートアウェイ機能）

乗車時：ハンドル、運転席シートがもとの位置※に移動（オートリターン機能）

※ハンドルの上下前後位置、運転席シートの前後位置をお好みの位置に調整しておけば、ハンドル・シートがその位置で記憶されます。

＊：車両型式などで異なる装備やオプション装備

知識

■電動チルト＆テレスコピックステアリングの作動条件

“ エンジン スタート ストップ ”スイッチがアクセサリーモードまたはイグニッション ON モードのとき

■電動チルト＆テレスコピックステアリングのハンドル位置調整について

パワーイージーアクセスシステム装着車では、販売店で設定可能な機能での「降車時運転席シート移動量調節」で「OFF」以外を選択しているときは、“ エンジン スタート ストップ ” スイッチが OFF でも、シートベルトのバックルを装着すると、ハンドルの位置を調整することができます。

■降車時の運転席シートのオートアウェイ機能について（オートシートスライドアウェイ＆リターン機能 / パワーイージーアクセスシステム機能装着車）

降車時に、シートの位置が最後方に近い位置にある場合、オートアウェイ機能を行わない場合があります。

■オートアウェイ機能の作動条件（オートシートスライドアウェイ＆リターン機能装着車）

●次の条件を満たすと作動します。

- シフトレバーを P にする
- “ エンジン スタート ストップ ” スイッチを OFF にする
- シートベルトのバックルをはずす
  （販売店で設定可能な機能での「降車時運転席シート移動量調節」で「OFF」以外を選択しているときのみ）

●作動中に次の操作をすると作動が停止します。

- シフトレバーを操作する
- 運転席のシート調整スイッチ（→P. 50）のいずれかを操作する (腰部調整スイッチを除く)

■オートリターン機能の作動条件（オートシートスライドアウェイ＆リターン機能装着車）

●次の条件のいずれかを行うと作動します。

・“ エンジン スタート ストップ ” スイッチをアクセサリーモードまたはイグニッション ON モードにする
・運転席シートベルトのバックルを装着する
（販売店で設定可能な機能での「降車時運転席シート移動量調節」で「OFF」以外を選択しているときのみ）

●作動中に次の操作をすると作動が停止します。

・運転席のシート調整スイッチ（→P. 50）のいずれかを操作する（ 腰部調整スイッチを除く）
・車両を発進させる

■オートシートスライドアウェイ＆リターン機能でのシートの作動について

●オートアウェイ機能作動中・オートアウェイ機能作動終了後に、運転席のシート調整スイッチ（→P. 50）のいずれかを操作した場合、オートリターン機能は作動しません。

●エンジン始動時にシートの作動が一時停止し、エンジン始動後に作動が再開することがあります。

●オートリターン機能作動中に、車両を発進させるとシートの作動が停止します。停止したときは、車両を停止しシートの前後位置を適切な位置に調整してください。

■販売店で設定可能な機能

オートシートスライドアウェイ＆リターン機能のシートスライドを非作動にしたり、シートスライド量の変更ができます。
（カスタマイズ機能一覧 →P. 390）

■オートアウェイ機能の作動条件（パワーイージーアクセスシステム装着車）

●次の条件を満たすと作動します。

・シフトレバーを P にする
・“ エンジン スタート ストップ ” スイッチを OFF にする
・シートベルトのバックルをはずす
（販売店で設定可能な機能での「降車時運転席シート移動量調節」で「OFF」以外を選択しているときのみ）

●作動中に次の操作をすると作動が停止します。

・シフトレバーを操作する

●作動中に次の操作をするとシートの作動のみが停止します。

・運転席のシート調整スイッチ（→P. 50）のいずれかを操作する（ 腰部調整スイッチを除く ）

■オートリターン機能の作動条件（パワーイージーアクセスシステム装着車）

●次の条件のいずれかを行うと作動します。

・“ エンジン スタート ストップ ” スイッチをアクセサリーモードまたはイグニッション ON モードにする
・運転席シートベルトのバックルを装着する
（販売店で設定可能な機能での「降車時運転席シート移動量調節」で「OFF」以外を選択しているときのみ）

●作動中に次のいずれかを行うとシートの作動のみが停止します。

・運転席のシート調整スイッチ（→P. 50）のいずれかを操作する（ 腰部調整スイッチを除く ）
・車両を発進させる

●作動中に次のスイッチを操作するとハンドルの作動のみが停止します。

・電動チルト＆テレスコピックステアリングのスイッチ（→P. 65）を操作する

■パワーイージーアクセスシステムでのハンドル、シートの作動について

- ●オートアウェイ機能作動中・オートアウェイ機能作動終了後に、運転席のシート調整スイッチ（→P. 50）のいずれかを操作した場合、オートリターン機能は作動しません。
- ●エンジン始動時にハンドル、シートの作動が一時停止し、エンジン始動後に作動が再開することがあります。
- ●オートリターン機能作動中に、車両を発進させるとシートの作動が停止します。停止したときは、車両を停止しシートの前後位置を適切な位置に調整してください。
  なお、この場合、ハンドルはリターン機能作動を継続します。

■販売店で設定可能な機能

パワーイージーアクセスシステムのシートスライドを非作動にしたり、シートスライド量の変更ができます。シートスライドを非作動にした場合、パワーイージーアクセスシステムはハンドルのみの作動になります。
（カスタマイズ機能一覧 →P. 390）

警告

■走行中の警告

走行中はハンドル位置の調整をしないでください。
運転を誤り、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ハンドル位置を調整したあとは（マニュアルチルト＆テレスコピックステアリング装着車）

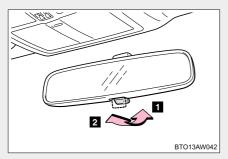
ハンドルが確実に固定されていることを確認してください。
固定が不十分だと、ハンドルの位置が突然かわり、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■オートシートスライドアウェイ＆リターン機能でシート、パワーイージーアクセスシステムでハンドル・シートが作動しているときは

体や荷物などが挟まれないようにしてください。けがをしたり、荷物が破損するおそれがあります。

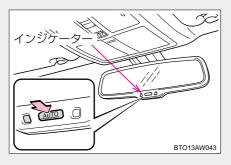
インナーミラー

手動防眩ミラー

後続車のライトがまぶしいときは、レバーを操作して反射光を減少（防眩）できます。

1 通常使用状態

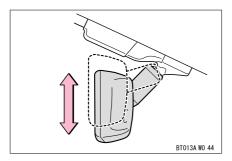
2 防眩時

自動防眩ミラー

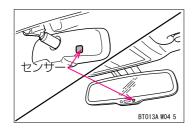
自動（AUTO）モードにしておくと、センサーが後続車のライトを感知し、自動で反射光を減少させます。

自動モードの ON・OFF を切りかえる

自動モードのときはインジケーターが点灯します。

“ エンジン スタート ストップ ”スイッチをイグニッション ON モードにしたときは、ミラーは常に自動モードになっています。

上下調整のしかた

インナーミラー本体を持って、上下方向に調整する。

知識

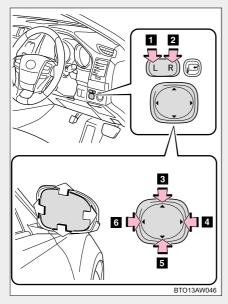
■センサーの誤作動防止（自動防眩ミラー装着車）

センサーの誤作動を防ぐため、センサーに触れたり、センサーを覆ったりしないでください。

警告

■運転中の警告

運転中はミラーの調整をしないでください。
運転を誤って、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

ドアミラー

スイッチで鏡面の角度調整をします。

調整するミラーを選ぶには、スイッチを押す

1 左

2 右

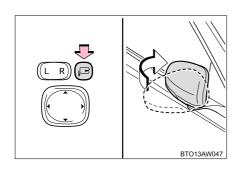
ミラーの鏡面を調整するにはスイッチを押す

3 上

4 右

5 下

6 左

ドアミラーを格納するときは

ボタンを押してドアミラーを格納する。

もう一度押すと、もとの位置にもどります。

知識

■作動条件

スマートエントリー&スタートシステム非装着車

エンジン スイッチが"ACC"または"ON"のとき。

スマートエントリー&スタートシステム装着車

" エンジン スタート ストップ "スイッチがアクセサリーモードまたはイグニッション ON モードのとき

■ミラーが曇ったときは*

ミラーヒーターを作動させて、曇りを取ることができます。(→P. 232)

■レインクリアリングミラー*

雨天時など鏡面に付着した水滴を膜状に広げる(親水効果)ことにより、後方を見やすくします。次の場合、一時的に親水効果が失われますが、晴天時に太陽光を 1・2 日間あてると回復します。

- ミラーの汚れをふき取ったとき
- ミラーが曇ったとき
- 自動洗車機でワックス洗車をしたとき
- 長期間、地下駐車場などの日のあたらない場所に駐車していたとき

*: 車両型式などで異なる装備やオプション装備

⚠ 警告

■走行しているときは

走行中は次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、運転を誤って重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ●ミラーの調整をしない
- ●ミラーを格納したまま走らない
  走行前に必ず、運転席側および助手席側のミラーをもとの位置にもどして、正しく調整する

■ミラーが動いているときは

手をふれないでください。
手を挟んでけがや、ミラーの故障などの原因になるおそれがあります。

■ミラーヒーターが作動しているときは

鏡面が熱くなるのでふれないでください。

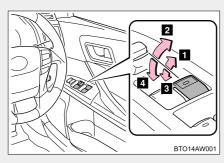
⚠ 注意

■ミラーが凍結したとき

親水膜の効果を持続させるため、ミラー鏡面の凍結部分はプラスチックの板などで削り落とさずに、温水をかけるか、ミラーヒーター (ミラーヒーター装着車) を作動させるなどして解氷してください。

パワーウインドウ

スイッチでドアガラスを開閉できます。

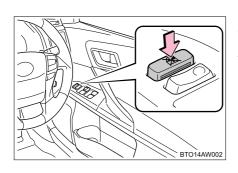
スイッチを操作すると、ドアガラスを下記のように動かします。

1 閉める

2 自動全閉※

3 開ける

4 自動全開※

※途中で停止するときは、スイッチを反対側へ操作します。

ウインドウロックスイッチ

スイッチを押すと、運転席以外のドアガラスが作動不可になります。

お子さまが誤ってドアガラスを開閉することを防止できます。

知識

■作動条件

スマートエントリー&スタートシステム非装着車

エンジン スイッチが“ ON ”のとき

スマートエントリー&スタートシステム装着車

“ エンジン スタート ストップ ”スイッチがイグニッション ON モードのとき

■エンジン スイッチ“ LOCK ”(スマートエントリー&スタートシステム非装着車) または“ エンジン スタート ストップ ”スイッチ OFF(スマートエントリー&スタートシステム装着車) 後の作動

スマートエントリー&スタートシステム非装着車

エンジン スイッチを“ ACC ”または“ LOCK ”にしたあとでも、約 45 秒間ドアガラスを開閉できます。ただし、そのあいだに運転席ドアを開閉すると作動しなくなります。

スマートエントリー&スタートシステム装着車

“ エンジン スタート ストップ ”スイッチをアクセサリーモード、または OFF にしたあとでも、約 45 秒間ドアガラスを開閉できます。ただし、そのあいだに運転席ドアを開閉すると作動しなくなります。

■挟み込み防止機能

ドアガラスを閉めているときに、窓枠とドアガラスのあいだに異物が挟まると、作動が停止し、少し開きます。

■販売店で設定可能な機能

ドアロック連動ドアガラス開閉機能などの設定を変更できます。
(カスタマイズ機能一覧→ P. 390)

警告

■ドアガラスを開閉するときは

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●ドアガラスを開閉するときは、乗員の手・腕・頭・首などを挟んだり巻き込んだりしないようにしてください。とくにお子さまへは手などを出さないよう声かけをしてください。

●お子さまには、ドアガラスの操作をさせないでください。
ドアガラスに挟まれたり巻き込まれたりするおそれがあります。

■挟み込み防止機能

●挟み込み防止機能を故意に作動させるため、乗員の手・腕・頭・首などを挟んだりしないでください。重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●挟み込み防止機能は、ドアガラスが完全に閉まる直前に異物を挟むと作動しない場合があります。また、挟み込み防止機能は、スイッチを引き続けた状態では作動しません。指などを挟まないように注意してください。重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

注意

■ドアガラスを開閉するときは

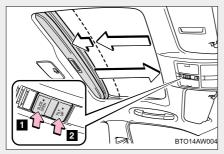
以下のことをお守りください。

●運転席スイッチと他のドアのスイッチを同時に逆方向に動かさない

●ドアガラスの全開、全閉後に同じ方向にスイッチを押し続けない

ムーンルーフ*

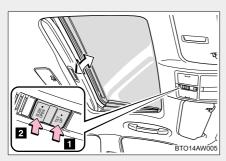
頭上のスイッチでムーンルーフを開閉、またはチルトアップ / ダウンできます。

■ 開閉

1 ムーンルーフを開く※

全開の手前の位置で止まります。
(風切音の低減機能)
全開にしたいときは、スイッチをもう一度押してください。

2 ムーンルーフを閉める※

※途中で止めるときは、スイッチを軽く押します。

■ チルトアップ / ダウン

1 チルトアップ※

2 チルトダウン※

※途中で止めるときは、スイッチを軽く押します。

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

知識

■作動条件

スマートエントリー&スタートシステム装着車

“ エンジン スタート ストップ ” スイッチがイグニッション ON モードのとき

スマートエントリー&スタートシステム非装着車

エンジン スイッチが “ ON ” のとき

■“ エンジン スタート ストップ ” スイッチ OFF（またはエンジン スイッチ “ LOCK ”）後の作動

スマートエントリー&スタートシステム装着車

“ エンジン スタート ストップ ” スイッチをアクセサリーモードまたは OFF にしたあとでも、約 45 秒間操作できます。ただし、そのあいだに運転席ドアを開閉すると作動しなくなります。

スマートエントリー&スタートシステム非装着車

エンジン スイッチを “ACC ” または “ LOCK ” にしたあとでも、約 45 秒間操作できます。ただし、そのあいだに運転席ドアを開閉すると作動しなくなります。

■挟み込み防止機能

ムーンルーフを閉めるとき、またはチルトダウンするときに、ムーンルーフが異物の挟み込みを感知すると、作動が停止し、少し開きます。

■サンシェード

手動で開閉できます。ただし、ムーンルーフが開くときは連動して開きます。

■閉め忘れ警告表示

スマートエントリー&スタートシステム装着車

ムーンルーフが完全に閉まっておらず、“ エンジン スタート ストップ ” スイッチを OFF にして、運転席ドアを開けるとマルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。（→ P, 350）

スマートエントリー&スタートシステム非装着車

ムーンルーフが完全に閉まっておらず、エンジンスイッチを “ LOCK ” にして、運転席ドアを開けるとマルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。（→ P, 350）

■ムーンルーフが正常に閉まらないときは

下記の操作を行ってください。

●閉まるときに反転し、閉じ切らない場合

手順 1 スイッチの“ TILT UP ”を押し続ける※[1]

ムーンルーフが閉じ、再び開き、10秒間停止します。※[2]その後再び閉じ、チルトアップし、1秒間停止します。チルトダウン後、いったん開いてから閉じます。

手順 2 ムーンルーフが完全に閉まったことを確認し、スイッチから手を離す

●チルトダウン時に反転し、閉じ切らない場合

手順 1 スイッチの“ SLIDE OPEN ”を押し続け※[1]、ムーンルーフをチルトアップ位置にする

手順 2 スイッチから一度手を離し、再度“ SLIDE OPEN ”を押し続ける※[1]

ムーンルーフがチルトアップの状態で10秒間停止し、※[2]微調節後1秒間停止します。チルトダウン後、いったん開いてから閉じます。

手順 3 ムーンルーフが完全に閉まったことを確認し、スイッチから手を離す

※[1] 途中でスイッチから手を離すと、最初からやり直しとなります。

※[2] 10秒間停止した後にスイッチから手を離すと、それ以降オート作動できなくなります。その場合は、スイッチの“ TILT UP ”を押し続けてください。ムーンルーフがチルトアップし、1秒間停止します。その後、チルトダウンし、いったん開いてから閉じます。ムーンルーフが完全に閉まったことを確認したら、スイッチから手を離してください。

以上の操作を行っても反転して閉じ切らない場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。

■販売店で設定可能な機能

ドアロック連動ムーンルーフ開閉機能などの設定を変更できます。
（カスタマイズ機能一覧→ P. 390）

警告

■ムーンルーフを開けているときは

次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

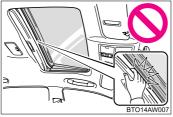
●走行中はルーフから手や顔を出さない

●開口部に腰かけない

■ムーンルーフを開閉するときは

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、骨折など重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

BTO14AW006

BTO14AW007

●ムーンルーフを開閉や、チルトダウンするときは、乗員の手・腕・頭・首を挟んだり巻き込んだりしないように注意してください。

●お子さまには、ムーンルーフの操作をさせないでください。
ムーンルーフに挟まれたり巻き込まれたりするおそれがあります。

■挟み込み防止機能

●挟み込み防止機能を故意に作動させるため、乗員の手・腕・頭・首などを挟んだりしないでください。重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●挟み込み防止機能は、ムーンルーフが完全に閉まる直前に異物を挟むと作動しない場合があります。また、挟み込み防止機能は、スイッチを押し続けた状態では作動しません。指などを挟まないように注意してください。重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

給油口の開け方

次の手順で給油口を開けてください。

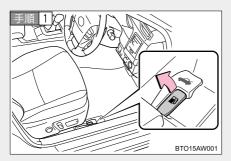
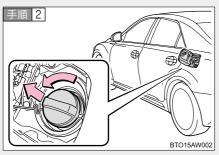
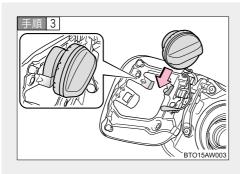
■ 給油する前に

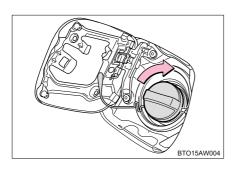
スマートエントリー&スタートシステム非装着車

ドアとドアガラスを閉め、エンジン スイッチを“ LOCK ”にしてください。

スマートエントリー&スタートシステム装着車

ドアとドアガラスを閉め、“ エンジン スタート ストップ ”スイッチを OFF にしてください。

■ 給油口の開け方

レバーを引き上げて、給油口を開ける

キャップをゆっくり回して開ける

キャップをハンガーにかける

給油口のキャップを閉めるときは

キャップを“カチッ”と音がするまで回して閉めます。

手を離すと、キャップが逆方向に少しもどります。

知識

■燃料の種類

4GR-FSE エンジン車：無鉛レギュラーガソリン

2GR-FSE エンジン車：無鉛プレミアムガソリン（無鉛ハイオク）

■燃料タンク容量

約 71 L

⚠ 警告

■給油について

給油前には次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ●ボデーなどの金属部分にふれて体の静電気を除去する
  除去しないと放電による火花で燃料に引火するおそれがあります。
- ●キャップをゆるめたときに、"シュー"という音がする場合は、その音が止まってからゆっくり開けてください。
  キャップを開けるとき、キャップのツマミ部分を持ち、ゆっくりと開けます。
  ゆっくりと開けないと気温が高いとき、給油口から燃料が吹き返すおそれがあります。
- ●給油口に、静電気を除去していない人を近付けない
- ●気化した燃料を吸わないようにする
  燃料の成分には、有害物質を含んでいるものもあります。
- ●喫煙しない
  引火して火災を引き起こすおそれがあります。
- ●車内にもどったり、静電気を除去していない人や帯電しているものにふれない
  再び帯電する可能性があります。

■給油時の注意

- ●給油をするときは給油口にノズルを確実に挿入してください。
  ノズルを浮かして継ぎ足し給油を行うと、オートストップが作動せず、燃料がこぼれる場合があります。
- ●正常に給油できない場合は、スタンドの係員を呼んで指示に従ってください。

■キャップ交換時の警告

トヨタ純正以外のキャップを使用しないでください。
純正品を使わないと火災などを引き起こし、その結果重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

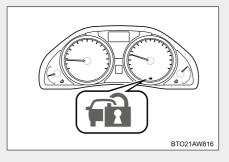
注意

■**給油するときは**

指定以外のガソリンや他の燃料（粗悪ガソリン、軽油、灯油、アルコール系燃料）を使用したり、燃料をこぼしたりしないでください。
次のような状態になるおそれがあります。

- エンジンの始動性が悪くなる
- ノッキングが発生する
- エンジン出力が低下する
- 排気制御システムが正常に機能しない
- 燃料系部品が損傷する
- 塗装が損傷する

エンジンイモビライザーシステム*

キーに信号発信機が内蔵してあり、あらかじめ登録されたキー以外ではエンジンを始動できません。

“エンジン スタート ストップ” スイッチを OFF にすると、システムの作動を知らせるためにメーター内の表示灯が点滅します。

知識

■システムが正常に作動しないとき

●キーが金属製のものに接したり、覆われているとき

●キーが他の車両のセキュリティシステム用キー（信号発信機内蔵キー）と重なっているときや接近しているとき

■機能が正常に働かないおそれのある状況

→P. 30

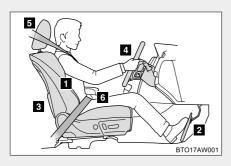
注意

■エンジンイモビライザーシステムを正常に作動させるために

システムの改造や取りはずしをしないでください。システムが正常に作動しないおそれがあります。

＊：車両型式などで異なる装備やオプション装備

正しい運転姿勢

次の条件にあった正しい姿勢で運転してください。

1 まっすぐ座り、背もたれから背を離さない（→ P. 49）
2 シートをペダルが十分に踏み込めるようなシート位置にする（→ P. 49）
3 各装置が操作しやすい背もたれの角度にする
4 SRS エアバッグが自分の胸の方へ向くようなハンドルの位置にする（→ P. 65）
5 ヘッドレストの中央が耳のいちばん上のあたりになるようにする（→ P. 56）
6 シートベルトが正しく着用できる（→ P. 58）

警告

■走行中は

●走行中は運転席の調整をしないでください。
運転を誤るおそれがあり危険です。

●背もたれと背のあいだにクッションなどを入れないでください。
正しい運転姿勢がとれないばかりか、衝突したとき、シートベルトやヘッドレストなどの効果が十分に発揮されずに、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

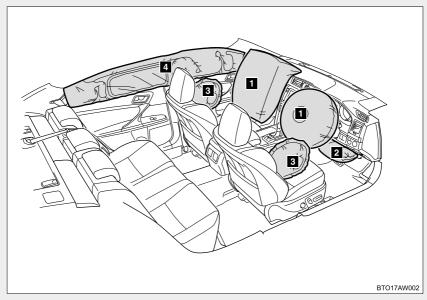
●フロントシートの下にものを置かないでください。
ものが挟まるとシートが固定されず、思わぬ事故の原因になって、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。また、調整機構の故障の原因になります。

■シートを調整するときは

●同乗者がシートにあたってけがをしないように注意してください。

●シートの下や動いている部分に手を近付けないでください。
指や手を挟み、重大な障害を受けるおそれがあり危険です。

SRS エアバッグ

SRS エアバッグは乗員に重大な危害がおよぶような強い衝撃を受けたときにふくらみ、シートベルトが体を拘束する働きと併せて乗員への衝撃を緩和させます。

フロント SRS エアバッグ

1 運転席 SRS エアバッグ／助手席 SRS エアバッグ
（運転者と助手席乗員の頭や胸などへの衝撃を緩和）

2 SRS ニーエアバッグ
（運転者の衝撃緩和を補助）

SRS サイドエアバッグ& SRS カーテンシールドエアバッグ

3 SRS サイドエアバッグ
（フロント席乗員の胸などへの衝撃を緩和）

4 SRS カーテンシールドエアバッグ
（フロント席とリヤシート外側席乗員のおもに頭部への衝撃を緩和）

知識

■SRS エアバッグが展開すると

●SRS エアバッグとの接触により、打撲やすり傷などを受けることがあります。

●作動音とともに白いガスが発生します。

●フロント席・フロントピラー・リヤピラー・ルーフサイドレールの一部分などだけでなくエアバッグモジュールの各部品（ハンドルのハブ・エアバッグカバー・インフレーター）も数分間熱くなることがあります。エアバッグそのものも熱くなります。

●フロントウインドウガラスが破損することがあります。

■SRS エアバッグが作動するとき（フロント SRS エアバッグ）

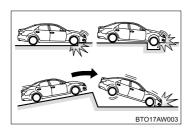
●フロント SRS エアバッグは、衝撃の強さが設定値（移動も変形もしない固定された壁に、約 20 ～ 30 km/h の速度で正面衝突した場合の衝撃の強さに相当する値）以上の場合に作動します。
ただし、駐車している車や標識のような衝撃によって移動や変形するものに衝突した場合や、もぐりこむような衝突（例えば、車両前部がもぐりこむ、下に入り込む、トラックの下敷きになる、など）の場合は、展開車速は設定値より高くなります。

●衝撃の強さが設定値に近い場合での前方からの衝突の場合には、フロント SRS エアバッグとシートベルトプリテンショナーが同時に作動しない場合があります。

■SRS エアバッグが作動するとき（SRS サイドエアバッグ& SRS カーテンシールドエアバッグ）

SRS サイドエアバッグと SRS カーテンシールドエアバッグは、衝撃の強さが設定値（約 1.5 t の車両が、約 20 ～ 30 km/h の速度で客室へ直角に衝突した場合の衝撃の強さに相当する値）以上の場合に作動します。

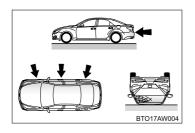
■衝突以外で作動するとき（フロント SRS エアバッグ）

次のような状況で、車両下部に強い衝撃を受けたときも、作動する場合があります。

●縁石や歩道の端など、固いものにぶつかったとき

●深い穴や溝に落ちたり、乗り越えたとき

●ジャンプして地面にぶつかったり、道路から落下したとき

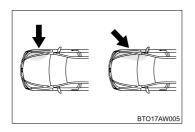
■SRS エアバッグが作動しないとき（フロント SRS エアバッグ）

フロント SRS エアバッグは、側面や後方からの衝撃、横転、または低速での前方からの衝撃で作動するようには設計されていません。ただし、それらの衝撃が前方への減速を十分に引き起こす場合には、フロント SRS エアバッグが作動することがあります。

●側面からの衝突

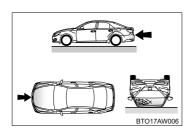
●後方からの衝突

●横転

■SRS エアバッグが作動しないとき
（SRS サイドエアバッグ＆ SRS カーテンシールドエアバッグ）

斜めから衝撃を受けた場合や、客室部分以外の側面に衝撃を受けたときには、SRS サイドエアバッグと SRS カーテンシールドエアバッグが作動しない場合があります。

●客室部分以外の側面への衝撃

●斜めからの衝撃

SRS サイドエアバッグと SRS カーテンシールドエアバッグは、前方や後方からの衝撃、横転、または低速での側面からの衝撃で作動するようには設計されていません。

●前方からの衝突

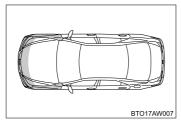
●後方からの衝突

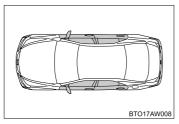
●横転

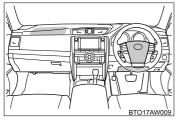
■トヨタ販売店に連絡が必要な場合

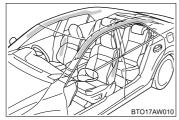
次のような場合には、できるだけ早くトヨタ販売店へご連絡ください。
トヨタ販売店に連絡する前にバッテリーのケーブルをはずさないでください。

●いずれかの SRS エアバッグがふくらんだとき

BTO17AW007

●フロント SRS エアバッグはふくらまなかったが、事故で車両の前部が衝突したとき、または破損・変形などがあるとき

BTO17AW008

●SRS サイドエアバッグと SRS カーテンシールドエアバッグはふくらまなかったが、事故でドア部分が衝突したとき、または破損・変形などがあるとき

BTO17AW009

●ハンドルのパッド部分やダッシュボードの助手席 SRS エアバッグ付近、インストルメントパネル下部が傷付いたり、ひび割れたり、その他の損傷を受けたとき

BTO17AW010

●SRS　サイドエアバッグが内蔵されているシート表面が、傷付いたり、ひび割れたり、その他の損傷を受けたとき

●SRS カーテンシールドエアバッグが内蔵されているフロント・リヤピラー部、ルーフサイド部が、傷付いたり、ひび割れたり、その他の損傷を受けたとき

⚠ **警告**

■**SRS エアバッグについて**

必ず次のことをお守りください。
お守りいただかないと重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 運転者と乗員全てがシートベルトを正しく着用してください。
  SRS エアバッグはシートベルトを補助するためのものです。
- 助手席 SRS エアバッグは強い力でふくらむため、特に乗員がエアバッグに近付きすぎると、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。乗員が SRS エアバッグのふくらむ場所に近い場合は特に危険です。シートの背もたれを調整して、シートをできるだけ SRS エアバッグから離し、まっすぐに座ってください。
- お子さまがシートにしっかり座っていないと、SRS エアバッグのふくらむ衝撃で重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。お子さまが小さくてシートベルトが使えないときは、チャイルドシートでしっかり固定してください。
  お子さまはリヤ席に乗せ、チャイルドシートまたはシートベルトを着用させることをおすすめします。(→P. 109)

BTO17AW011

- シートの縁に座ったり、ダッシュボードにもたれかかったりしない。

BTO17AW012

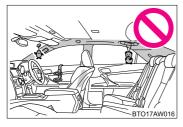
- お子さまを助手席SRSエアバッグの前に立たせたり、ひざの上に抱いたりしない。
- 運転者および助手席乗員は、ひざの上に何も持たない。

警告

■SRS エアバッグについて

●ドアやフロント・センター・リヤピラー・ルーフサイドレールへ寄りかからない。

●助手席や、リヤシート外側席でドアに向かってひざをついたり、窓から顔や手を出したりしない。

●ダッシュボード、ハンドルのパッド部・インストルメントパネル下部などには何も取りつけたり、置いたりしない。

●ドア、フロントガラス、ドアガラス、フロントおよびリヤピラー、ルーフサイドレール、アシストグリップなどには何も取り付けない。

警告

■SRS エアバッグについて

●SRS　ニーエアバッグがふくらむ場所にビニールカバーが付いている場合は、取り除いてください。

●SRS サイドエアバッグがふくらむ場所を覆うようなシートアクセサリーを使用しないでください。エアバックが展開する際、アクセサリーが干渉するおそれがあります。そのようなアクセサリーがエアバッグが正常に作動するのをさまたげ、システムを不能にしたり、またはエアバッグが誤って展開したりして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●SRS エアバッグシステム構成部品の周辺は、強くたたくなど過度の力を加えないでください。
SRS エアバッグが正常に作動しなくなるおそれがあります。

●SRS エアバッグがふくらんだ直後は、構成部品が熱くなっているため、ふれないでください。

●SRS エアバッグがふくらんだあとに、もし呼吸が苦しく感じたら、ドアやドアガラスを開けて空気を入れるか、安全を確認して車外に出てください。皮膚の炎症を防ぐため、残留物はできるだけ早く洗い流してください。

●SRS　エアバッグが収納されているパッド部およびフロントピラーガーニッシュ部に傷が付いていたり、ひび割れがあるときは、そのまま使用せずトヨタ販売店で交換してください。

警告

■改造・廃棄について

トヨタ販売店への相談なしに、次の改造・廃棄をしないでください。
SRS エアバッグが正常に作動しなくなったり、誤ってふくらむなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- SRS エアバッグの取りはずし・取り付け・分解・修理
- ハンドル、インストルメントパネル、ダッシュボード、シート、シート表皮、フロント・センター・リヤピラー・ルーフサイドレール周辺の修理、取りはずし、改造
- フロントフェンダー、フロントバンパー、車両客室側面部の不適切な修理・改造
- グリルガード（ブルバー・カンガルーバーなど）、除雪装置、ウインチなどの取りつけ
- サスペンションの改造
- CD プレーヤー、無線機などの電化製品の取り付け

子供専用シート

子供専用シートの固定機構を使用して、子供専用シートを固定することができます。

知っておいていただきたいこと

- お子さまの年齢や体格に合わせて、適切な子供専用シートをお選びください。
- 子供専用シートの取り付け方法および取りはずし方は、それぞれの子供専用シートに付属の取り扱い説明書をお読みください。
- この車は2006年10月1日施行の保安基準に適合したISOFIX対応チャイルドシート固定専用バーを標準装備しています。

子供専用シートの適合性一覧表について

■ 質量グループについて

ECE R44 ※の基準に適合する子供専用シートはお子さまの体重により次の5種類に分類されます。

グループ0　：10kgまで
グループ0^{+}　：13kgまで
グループⅠ　：9～18kg
グループⅡ　：15～25kg
グループⅢ　：22～36kg

この本では代表的な次の3種類の子供専用シートをシートベルトで固定する方法を紹介します。

※ ECE R44は、子供専用シートに関する国際法規です。

■ サイズ等級、固定具について

子供専用シートに表示される分類記号と、それにともなう取り付け器具の記号になります。

ベビーシート

BTO13AW006

ECE R44 基準のグループ 0、0^{+} に相当

チャイルドシート

BTO13AW007

ECE R44 基準のグループ 0^{+}、Ⅰ に相当

ジュニアシート

BTO13AW008

ECE R44 基準のグループⅡ、Ⅲ に相当

シート位置別子供専用シート適合性一覧表（シートベルトでの取り付け）

質量グループ	着席位置（または他の場所）		
	フロントシート	リヤシート	
	助手席	左右席	中央席
0 （10kg まで）	×	U	UF
0^{+} （13kg まで）	×	U	UF
Ⅰ （9 ～ 18kg）	前向き UF うしろ向き ×	U	UF
Ⅱ （15 ～ 25kg）	UF	U	UF
Ⅲ （22 ～ 36kg）	UF	U	UF

● 上記に記入する文字の説明

U：この質量グループでの使用を許可された汎用（ユニバーサル）カテゴリーの子供専用シートに適しています。

UF：この質量グループでの使用を許可された汎用（ユニバーサル）カテゴリーの前向き子供専用シートに適しています。

×：子供専用シートを取り付けることはできません。

子供専用シートの装着に際しては子供専用シートの取扱い説明書もご確認ください。

シート位置別子供専用シート適合性一覧表（ISOFIX 対応トップテザーアンカーでの取り付け）

質量グループ	サイズ等級	固定具	車両 ISOFIX 位置
			リヤシート左右席
キャリコット	F	ISO/L1	×
	G	ISO/L2	×
0 （10kg まで）	E	ISO/R1	IL
0^{+} （13kg まで）	E	ISO/R1	IL
	D	ISO/R2	×
	C	ISO/R3	×
Ⅰ （9 ～ 18kg）	D	ISO/R2	×
	C	ISO/R3	×
	B	ISO/F2	IUF
	B1	ISO/F2X	IUF
	A	ISO/F3	IUF
Ⅱ （15 ～ 25kg）		（1）	×
Ⅲ （22 ～ 36kg）		（1）	×

● 上表に記入する文字の説明

（1）：サイズ等級表示（A から G）のない子供専用シートの各シート位置での ISOFIX 対応子供専用シート固定機構の取り扱いについては、子供専用シート製造業者または販売業者にご相談ください。

IUF：この質量グループでの使用を許可された汎用（ユニバーサル）カテゴリーの ISOFIX 対応の前向き子供専用シートに適しています。

IL：ISOFIX 子供専用シートのリストに示す「特定自動車」、「限定」、または「準汎用」カテゴリーの子供専用シートに適しています。

×：ISOFIX 子供専用シートを取り付けることはできません。

子供専用シートの装着に際しては子供専用シートの取扱い説明書もご確認下さい。

ISOFIX 子供専用シートのリスト

質量グループ	サイズ等級	固定具	ISOFIX 子供専用シート	カテゴリー
0 （10kg まで）	E	ISO/R1	トヨタ純正 NEO G-Child ISO BABY	準汎用
0+ （13kg まで）	E	ISO/R1	トヨタ純正 NEO G-Child ISO BABY	準汎用

表に記載されていない子供専用シートを使用する場合は、子供専用シート製造業者または販売業者にご相談下さい。

知識

■ISOFIX 対応チャイルドシート固定専用バーについて

この車に標準装備されている ISOFIX 対応チャイルドシート固定専用バーは、ECE R44 に適合している子供専用シートの取り付け専用です。それ以外のものを使用することはできません。

■子供専用シートの選択・使用について

- お子さまに最適な子供専用シートについては、子供専用シート製造業者、または販売業者にご相談ください。
- 体が十分大きく、子供専用シートが不必要なお子さまは、リヤシートに乗せて車のシートベルトを使用してください。

■シートベルトで取り付ける（→P. 109）タイプの子供専用シートの選択について

「シート位置別子供専用シート適合性一覧表」（→P. 102）を参照し、子供専用シートを取り付け可能な位置と、対応する子供専用シートの種類（記号）をご確認の上、適したものを選択してください。

■ECE R44 適合の ISOFIX 対応子供専用シートの選択について

「シート位置別子供専用シートの適合性一覧表」（→P. 103）を確認して、適切なシートを選択してください。

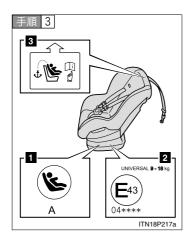
手順 1 お子さまの体重から、該当する「質量グループ」を確認する

（例 1）：体重が 12kg の場合、質量グループは「0+」になります。
（例 2）：体重が 15kg の場合、質量グループは「Ｉ」になります。

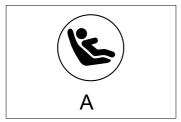
手順 2 サイズ等級を選択する

手順 1 で確認した「質量グループ」から該当するサイズ等級を確認します。※

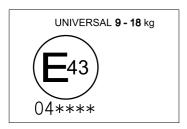
（例 1）：質量グループが「0+」の場合、サイズ等級は「C」・「D」・「E」が該当します。
（例2）：質量グループが「Ｉ」の場合、サイズ等級は「A」・「B」・「B1」・「C」・「D」が該当します。

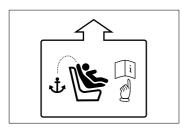
※ただし、該当のサイズ等級でも適合性一覧表の「車両 ISOFIX 位置」に「×」と記載されているものは選択できません。また、「IL」と記載されている場合は、「ISOFIX 子供専用シートのリスト」（→P. 104）で指定されている製品を使用してください。

子供専用シートに表示されているマーク／ラベルを確認して、基準に適合したシートであることを確認する

汎用（ユニバーサル）子供専用シートには、次に示すマーク・ラベル類が表示されています。※

※表示されている位置・記号などは、商品により異なります。

1 ISOFIX 対応子供専用シートであることを示す表示

サイズ等級が示されています。（表示される文字は、製品により異なります）

手順 2 で確認したサイズ等級に適合しているものを選択してください。

2 汎用（ユニバーサル）子供専用シートの認可マーク

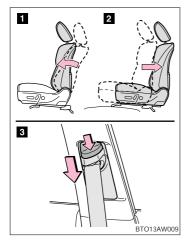
UNIVERSAL は汎用品の認可であることをあらわし、併せて、対象となるお子さまの体重の範囲が記載されています。

3 トップテザー（→P. 109）を示すマーク

商品の取り付け装置の位置により、意匠は異なります。

■ISOFIX 対応子供専用シートの種類（サイズ等級別）

A-ISO/F3	全高前向き幼児用チャイルドシート
B-ISO/F2	低型前向き幼児用チャイルドシート
B1-ISO/F2X	低型前向き幼児用チャイルドシート （B-ISOFIX/F2 と別形状のもの）
C-ISO/R3	大型後向き幼児用チャイルドシート
D-ISO/R2	小型後向き幼児用チャイルドシート
E-ISO/R1	後向き乳児用チャイルドシート
F-ISO/L1	左向き位置用チャイルドシート（キャリコット）
G-ISO/L2	右向き位置用チャイルドシート（キャリコット）

■助手席に子供専用シートを取り付けるとき

やむを得ず助手席に子供専用シートを取り付ける場合には、助手席シートを次のように調整し、子供専用シートを前向きに取り付けてください。

●背もたれを直立状態にする

●シートをいちばんうしろに下げる

●シートベルトの高さをいちばん低い位置まで下げる

■キャリコットについて

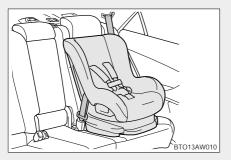
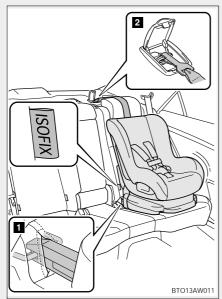
キャリコットは横向きに取り付けることのできるベビーシートのことです。詳しくは子供専用シート製造業者または販売業者にお尋ねください。

警告

■子供専用シートを使用しない場合

- 子供専用シートを使用しないときであっても、シートに適切にしっかりと取り付けた状態にしてください（→ P. 110、P. 111）。ゆるめた状態で客室内に置くことは避けてください。
- 子供専用シートの取りはずしが必要な場合は、車両からはずして保管するか、トランク内に容易に動かないように収納してください。

チャイルドシート(子供専用シート)の取り付け

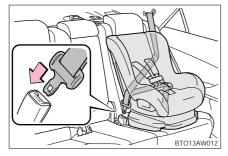
**シートベルトを正しく着用できない小さなお子さまを乗せるときは、チャイルドシートをお使いください。お子さまの安全のために、チャイルドシートはリヤシート外側シートに取付けてください。
取り付け方法は、商品に付属の取扱説明書に必ず従ってください。**

シートベルトによる取り付け
(→ P. 110)

1 ISOFIX 対応チャイルドシート固定専用バー(→ P. 111)

リヤシートの外側の座席に装備されています。(固定専用バーが装備されていることを示すタグがシートについています。)

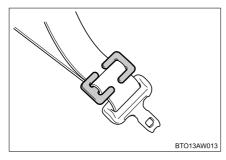
2 トップテザーアンカー
(→ P. 112)

テザーベルトを固定するときに使います。
トップテザーアンカーはリヤシート後方のパッケージトレイに装備されています。

シートベルトで固定する

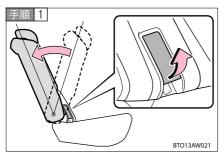
BTO13AW012

チャイルドシートにシートベルトを取り付け、プレートをバックルに“カチッ”と音がするまで挿し込む。ベルトがねじれていないようにする

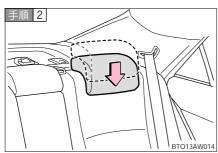
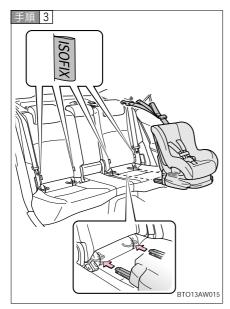
チャイルドシートに付属の取扱書に従い、シートベルトをチャイルドシートにしっかりと固定させてください。

BTO13AW013

チャイルドシートにシートベルトの固定装置が備わっていない場合は、ロッキングクリップ（別売）を使用して固定する

ロッキングクリップの購入にあたっては、トヨタ販売店にご相談ください。（ロッキングクリップ 品番：73119-22010）

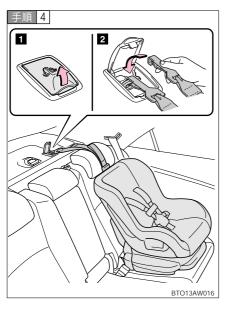
取り付け後はチャイルドシートを軽くゆさぶり、しっかりと固定されていることを確認してください。

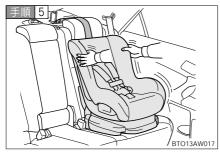
ISOFIX 対応チャイルドシート固定専用バー&トップテザーアンカーで固定する

背もたれの角度を調整する

リクライニングレバーを引き上げながらいったん背もたれを前に倒し、一段目の固定位置まで起こします。
(→ P. 52)

上下位置調整が可能なヘッドレスト装着車はヘッドレストをいちばん下まで下げる(→ P. 56)

固定専用バーの位置を確認して、チャイルドシートをシートに取り付ける

固定専用バーは、シートクッションの奥にあります。

チャイルドシートの取り付け金具をチャイルドシート固定専用バーに取り付けます。

取り付け方法は、それぞれの商品に付属の取扱説明書に従ってください。

フタを開けて、トップテザーアンカーにフックを固定し、テザーベルトを締める

テザーベルトをピンと張り、フックがしっかり固定されていることを確認します。

取り付けたチャイルドシートを軽くゆさぶり、確実に取り付けられていることを確認する

⚠警告

■チャイルドシートについて

●事故や急停止の際、効果的にお子さまを保護するために、必ずお子さまの年齢や体の大きさに合ったシートベルトまたはチャイルドシートを使用してください。お子さまを腕の中に抱くのはチャイルドシートのかわりにはなりません。事故の際、お子さまがフロントガラスや乗員、室内の装備にぶつかり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●お子さまの年齢や体の大きさに合ったチャイルドシートを使用してリヤシートに取り付けてください。

●チャイルドシートに座らせている場合でも、ドア・シート・フロントピラー付近にお子さまの頭や体のどの部分ももたれかけさせないようにしてください。SRS エアバッグがふくらんだ場合、大変危険であり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●チャイルドシートによっては、取り付けができない、または取り付けが困難な場合があります。必ずチャイルドシートに付属の取扱説明書をよくお読みの上、確実に取り付け、使用方法をお守りください。使用方法を誤ったり、確実に固定されていないと、急ブレーキや衝突時などに、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■チャイルドシートを取り付けるときは

●お子さまをシートベルトで遊ばせないでください。万一ベルトが首に巻き付いた場合、窒息など重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
誤ってそのような状態になってしまい、バックルもはずせない場合は、ハサミなどでシートベルトを切断してください。

●シートベルトとバックルが固定されていて、ベルトがねじれていないか確認してください。

●チャイルドシートを左右に動かして、しっかり固定されているか確認してください。

●チャイルドシートを固定したあとは、シートを調整しないでください。

警告

■チャイルドシートを取り付けるときは

BTO13AW018

●運転席とチャイルドシートが干渉し、チャイルドシートが正しく取り付けられない場合は、助手席側のリヤ席に取り付けてください。

●助手席シートとチャイルドシートが干渉しないように、助手席シートを調整してください。

BTO13AW019

●やむを得ず助手席にチャイルドシートを取り付ける場合には、チャイルドシートをうしろ向きに取り付けないでください。
うしろ向きに取り付けていると、事故などで助手席 SRS エアバッグがふくらんだとき、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
助手席側のサンバイザーに、同内容の警告文が表示されています。併せて参照してください。

⚠ 警告

■チャイルドシートを取り付けるときは

BTO13AW020

●やむを得ず助手席に前向きにチャイルドシートを取り付ける場合には、助手席シートをいちばんうしろに下げて取り付けてください。
助手席SRSエアバッグはかなりの速度と力でふくらむので、お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●ジュニアシートを使用している場合は、肩部ベルトが常にお子さまの肩の中心にくるようにしてください。ベルトを首から離すと供に肩から落ちないようにしてください。お守りいただかないと、事故や急ブレーキの際に重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●ISOFIX 対応チャイルドシート固定専用バーを使用するときは、周辺に障害物が無いか、シートベルトが挟まっていないかなどを確認してください。

⚠ 注意

■トップテザーアンカーについて

使用しないときはフタを確実に閉めてください。開けたままにしておくとフタが破損するおそれがあります。

運転するときに 2

2-1. 運転のしかた

2-2. メーターの見方

2-3. ライトのつけ方・ワイパーの使い方

2-4. その他の走行装置の使い方

2-5. 様々な状況での運転

運転にあたって

安全運転を心がけて、次の手順で走行ください。

■ エンジンをかける（→P. 127、P. 130）

■ 発進する

手順 1 ブレーキペダルを踏んだまま、シフトレバーを D にする（→P. 135）

手順 2 パーキングブレーキを解除する（→P. 143）

手順 3 ブレーキペダルから徐々に足を離し、アクセルペダルをゆっくり踏み発進する

■ 停車する

手順 1 シフトレバーは D のまま、ブレーキペダルを踏む

手順 2 必要に応じて、パーキングブレーキをかける

長時間停車する場合は、シフトレバーを P または N にする。（→P. 135）

■ 駐車する

手順 1 シフトレバーは D のまま、ブレーキペダルを踏む

手順 2 パーキングブレーキをかける（→P. 143）

手順 3 シフトレバーを P にする（→P. 135）

坂道の途中で駐車をする場合は必要に応じて、輪止めを使用してください。

※輪止めはトヨタ販売店で購入することができます。

手順 4

スマートエントリー&スタートシステム非装着車

エンジン スイッチを回してエンジンを停止する

スマートエントリー&スタートシステム装着車

“ エンジン スタート ストップ ”スイッチを押してエンジンを停止する（→P. 130）

手順 5 キーを携帯していることを確認し、ドアを施錠する

上り坂の発進のしかた

手順 1 パーキングブレーキをしっかりかけ、シフトレバーをDにする

手順 2 アクセルペダルをゆっくり踏む

手順 3 車が動き出す感触を確認したら、パーキングブレーキを解除し発進する

知識

■雨の日の運転について

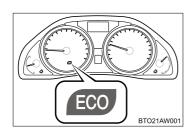
●雨の日は視界が悪くなり、またガラスが曇ったり、路面がすべりやすくなったりするので、慎重に走行してください。

●雨の降りはじめは路面がよりすべりやすいため、慎重に走行してください。

●雨の日の高速走行などでは、タイヤと路面のあいだに水膜が発生し、ハンドルやブレーキが効かなくなるおそれがあるので、スピードは控えめにしてください。

■運転標識の取り付け

磁石式の初心者運転標識や高齢者運転標識などをアルミボデー部に取り付けることはできません。

■環境にやさしい運転をするには

エコドライブインジケーターランプが点灯すると環境にやさしい運転をしていることをお知らせします。
必要以上にアクセルペダルを踏むと消灯します。
なお、次の2つの条件を満たすと作動します。

●Dで走行中(シフトパドル装着車は、シフトパドル未使用時)

●走行モードが通常走行モードまたはエコドライブモード

⚠ 警告

■発進するときは

エンジンがかかったまま停車しているときは、常にブレーキペダルを踏んでいてください。クリープ現象で車が動き出すのを防ぎます。

■運転するときは

●踏み間違いを避けるため、ブレーキペダルとアクセルペダルの位置を把握しない状態で運転しないでください。

・アクセルペダルをブレーキペダルと間違えて踏むと、車が急発進して思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
・後退するときは体をひねった状態となるため、ペダルの操作がしにくくなります。ペダル操作が確実にできるよう注意してください。
・車を少し移動させるときも正しい運転姿勢をとり、ブレーキペダルとアクセルペダルが確実に踏めるようにしてください。
・ブレーキペダルは右足で操作してください。左足でのブレーキ操作は緊急時の反応が遅れるなど、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●燃えやすいものの上を走行したり、可燃物付近に車を止めたりしないでください。
排気管や排気ガスは高温になり、可燃物が近くにあると火災になるおそれがあり危険です。

●シフトレバーを前進側のシフトポジションに入れたまま惰性で後退したり、Rに入れたまま惰性で前進することは絶対にやめてください。
エンジンが止まり、ブレーキの効きが悪くなったり、ハンドルが重くなったりして、思わぬ事故や故障の原因となるおそれがあります。

●車内で排気ガス臭に気付いたら、ドアガラスを開け、トランクが閉まっていることを確認してください。多量の排気ガスが眠気を招き事故の原因になるほか、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがありますすみやかにトヨタ販売店で点検整備を受けてください。

●走行中に決してシフトレバーをＰの位置に動かさないでください。
機械に重大なダメージを与えると共に、車がコントロールを失う場合があります。

警告

●前方走行中に決してシフトレバーを R の位置にしないでください。
トランスミッションに重大なダメージを与えると共に、車がコントロールを失う場合があります。

●走行中はシフトレバーを N にしないでください。
N にすると、エンジンブレーキがまったく効かないため、思わぬ事故につながるおそれがあります。

●走行中はエンジンを停止しないでください。
パワーステアリングおよびブレーキ倍力装置は、エンジン回転中でないと作動しません。

●急な下り坂では、エンジンブレーキを使用してスピードを下げてください。
フットブレーキを連続して使いすぎると、ブレーキがオーバーヒートして正常に機能しなくなります。(→P. 135)

●走行中はハンドル・シート・ドアミラー・インナーミラーの調整をしないでください。
運転を誤り、思わぬ事故の原因になって重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。ハンドル・シート・ドアミラー・インナーミラーの調整をしないでください。
運転を誤り、思わぬ事故の原因となって重大な傷害や死亡のおそれがあり危険です。

●すべての乗員は頭や手、その他の体の一部を車から出さないようにしてください。重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●オフロード走行をしないでください。

●本格的なオフロード走行を目的とした 4WD 車ではありません。やむを得ずオフロードを走行するときは、慎重に運転してください。

●渡河などの水中走行はしないでください。
電装品のショートやエンジンの破損など、重大な車両故障の原因になるおそれがあります。

警告

■すべりやすい路面を運転するときは

- ●急ブレーキ・急加速・急ハンドルはタイヤがスリップし、車両の制御ができなくなり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- ●シフトアップやシフトダウンによるエンジンブレーキなど、エンジン回転数の急な変化は、車が横すべりするなどして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- ●水たまり走行後はブレーキペダルを軽く踏んでブレーキが正常に働くことを確認してください。ブレーキパッドが濡れるとブレーキの効きが悪くなったり、ぬれていない片方だけが効いたりしてハンドルを取られ、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

■シフトレバーを操作するときは

アクセルペダルを踏み込んだまま操作しないように気をつけてください。
シフトレバーが P または N 以外にあると、車が急発進して思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

■きしみやひっかき音が聞こえたら（ブレーキパッドウェアインジケーター）

できるだけ早くトヨタ販売店で点検を受け、ブレーキパッドを交換してください。
必要なときにパッドの交換が行われないと、ローターの損傷につながる場合があります。
ブレーキパッドやディスクローターなどの部品は、役割を果たすと共に摩耗していきます。摩耗の限界をこえて走行すると故障を引き起こすばかりでなく、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

■停車するときは

- ●空ぶかしをしないでください。
  シフトレバーが P または N 以外にあると、車が急発進して思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- ●長時間エンジンをかけたままにしないでください。
  どうしても必要な場合は、開かれた場所に車を停め、排気ガスが車内に入ってこないことを確認してください。

警告

- 車が動き出すことによる事故を防ぐため、エンジン回転中は常にブレーキペダルを踏み、必要に応じてパーキングブレーキをかけてください。
- 坂道で停車するときは、前後に動き出して事故につながるのを防ぐため、常にブレーキペダルを踏み、必要に応じてパーキングブレーキをかけてください。

■**駐車するときは**

- 炎天下では、メガネ、スプレー缶や炭酸飲料の缶などを車内に放置しないでください。
  放置したままでいると、次のようなことが起こるおそれがあり危険です。
  - ・ライターやスプレー缶からガスがもれたり、出火する
  - ・プラスチックレンズ・プラスチック素材のメガネが、変形またはひび割れを起こす
  - ・炭酸飲料の缶が破裂して車内を汚したり、電気部品がショートする原因になる
- ライターを車内に放置したままにしないでください。ライターをグローブボックスなどに入れておいたり、車内に落としたままにしておくと、荷物を押し込んだりシートを動かしたときにライターの操作部が誤作動し、火災につながるおそれがあり危険です。
- ウインドウガラスなどには吸盤を貼りつけないでください。また、インストルメントパネルやダッシュボードの上に芳香剤などの容器を置かないでください。
  吸盤や容器がレンズの働きをして、車両火災につながるおそれがあり危険です。
- シルバー色などの金属蒸着フィルムを曲面ガラスに貼った場合は、ドアやウインドウを開けたまま放置しないでください。直射日光が曲面ガラスの内側に反射し、レンズの働きをして火災につながるおそれがあり危険です。
- 車から離れるときは、必ずパーキングブレーキをかけ、シフトレバーをＰにしてエンジンを止め施錠してください。
  エンジンがかかっているあいだは、車から離れないでください。
- エンジン回転中または停止直後はマフラーに触れないでください。
  やけどをするおそれがあります。

警告

- 降雪時や雪が積もった場所では、エンジンをかけたままにしないでください。
  まわりに積もった雪で排気ガスが滞留して車内に入り、重大な健康障害や死亡に至るおそれがあり危険です。

■排気ガスについて

排気ガスには無色・無臭で有害な一酸化炭素（CO）が含まれているため、排気ガスを吸い込むと重大な健康障害や死亡に至るおそれがあり危険です。

- 換気が悪い場所ではエンジンを停止してください。
  とくに車庫内など囲まれた場所では排気ガスが充満し、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- 排気管はときどき点検してください。排気管の腐食などによる穴や亀裂、および継ぎ手部の損傷、また、排気管の異常などに気づいた場合は必ずトヨタ販売店で点検整備を受けてください。そのまま使用すると排気ガスが車内に侵入し、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■仮眠するときは

必ずエンジンを停止してください。
エンジンをかけたまま仮眠すると、無意識にシフトレバーを動かしたり、アクセルペダルを踏み込んだりして、事故やエンジンの異常過熱による火災が発生するおそれがあります。さらに、風通しの悪い場所に停めると、排気ガスが車内に侵入し、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ブレーキをかけるときは

- ブレーキがぬれているときは、普段よりも注意して走行してください。
  ブレーキがぬれていると、制動距離が長くなり、ブレーキのかかりに、左右の違いが出るおそれがあります。また、パーキングブレーキがしっかりとかからないおそれもあります。
- ブレーキ倍力装置が機能しないときは、他の車に近付いたりしないでください。また、下り坂や急カーブを避けてください。
  この場合ブレーキは作動しますが、通常よりも強く踏む必要があります。また制動距離も長くなります。

警告

- 万一エンジンが停止したときは、ブレーキペダルをくり返し踏まないでください。ペダルを踏むたびに、ブレーキのアシスト力の蓄えを使い切ってしまいます。
- ブレーキシステムは２つの独立したシステムで構成されており、一方の油圧システムが故障しても、もう一方は作動します。この場合、ブレーキペダルを通常より強く踏む必要があり、制動距離が長くなります。一方のブレーキシステムしか作動していない状態で走行しないでください。ただちにブレーキの修理を受けてください。

■万一脱輪したときは（4WD 車）

いずれかのタイヤが宙に浮いているときは、むやみに空転させないでください。駆動系部品の損傷や、車両の飛び出しによる思わぬ事故につながるおそれがあります。

注意

■運転中は

坂道で停車するために、アクセルペダルを使ったり、アクセルペダルとブレーキペダルを同時に踏んだりしないでください。

■駐車するときは

必ずシフトレバーを P にしてください。P にしておかないと、車が動き出したり、誤ってアクセルペダルを踏み込んだときに急発進するおそれがあります。

■部品の損傷を防ぐために

- パワーステアリングモーターの損傷を防ぐため、ハンドルをいっぱいに回した状態を長く続けないでください。
- ディスクホイールなどの損傷を防ぐため、段差などを通過するときは、できるだけゆっくり走行してください。

注意

■走行中にタイヤがパンクしたら

次のようなときはタイヤのパンクや損傷が考えられます。ハンドルをしっかり持って徐々にブレーキをかけ、スピードを落としてください。

- ●ハンドルがとられる
- ●異常な振動がある
- ●車両が異常に傾く

タイヤがパンクした場合は新しいタイヤに交換してください。（→P. 360）

■冠水路走行に関する注意

大雨などで冠水した道路では、次のような重大な損傷を与えるおそれがあるため、走行しないでください。

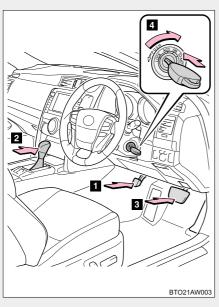
- ●エンストする
- ●電装品がショートする
- ●水を吸い込んでのエンジン破損

万一、冠水した道路を走行し、水中に浸かってしまったときは必ずトヨタ販売店で次の点検をしてください。

- ●ブレーキの効き具合
- ●エンジン・オートマチックトランスミッション・トランスファー（4WD 車）、ディファレンシャルなどのオイルやフルードの量および質の変化
- ●プロペラシャフト、各ベアリング、各ジョイント部などの潤滑不良

エンジン（イグニッション）スイッチ（スマートエントリー&スタートシステム非装着車）

■ エンジンのかけ方

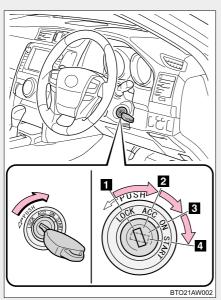
BTO21AW003

1 パーキングブレーキがかかっていることを確認する

2 シフトレバーがＰの位置にあることを確認する

3 運転席に座ってブレーキペダルをしっかり踏む

4 エンジンスイッチを“START”の位置にまわす

■ エンジン スイッチの位置の切りかえ

BTO21AW002

1 “LOCK”（OFF）

- ステアリングロックがかかります。
- シフトレバーの位置が P のとき、キーを抜き挿しすることができます。

2 “ACC”

オーディオなどの電装品が使用できます。

3 “ON”

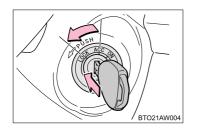
すべての電装品が使用できます。

4 “START”

エンジンが始動できます。

知識

■キーを“ ACC ”から“ LOCK ”にまわすには

手順 1 シフトレバーが P の位置にあることを確認する

キーを押し込みながら“ LOCK ”までまわす

■ステアリングロックを解除するには

ハンドルを左右に動かしながら、エンジン スイッチをまわしてください。

■キー抜き忘れ警告ブザー

キーが挿してあり、エンジン スイッチが“ ACC ”または“ LOCK ”のとき、運転席ドアを開けると警告音が鳴ります。

警告

■エンジンを始動するときは

必ず運転席に座って行ってください。このとき決してアクセルペダルは踏まないでください。思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

走行中の警告

走行中はエンジンスイッチを“LOCK”にしないでください。

緊急時は走行中にエンジンを切り、“ACC”にしてください。走行中にエンジンが停止すると思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

注意

■バッテリーあがりを防止するために

エンジンがかかっていないときは、エンジン スイッチを“ ACC ”または“ ON ”にしたまま長時間放置しないでください。

■エンジンを始動するとき

- 一度に 30 秒以上スターターをまわさないでください。
- エンジンが冷えた状態で空ぶかししないでください。
- もしエンジンが始動しにくかったり、ひんぱんにエンストする場合は、ただちにエンジンの点検を受けてください。

エンジン（イグニッション）スイッチ（スマートエントリー&スタートシステム装着車）

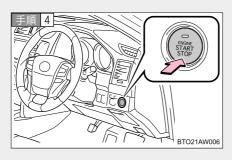
電子キーを携帯して次の操作を行うことで、エンジンの始動またはモードを切りかえることができます。

■ エンジンのかけ方

手順 1 パーキングブレーキがかかっていることを確認する

手順 2 シフトレバーが P の位置にあることを確認する

手順 3 ブレーキペダルをしっかり踏む
スイッチ上のインジケーターが緑色に点灯します。

緑色に点灯していないと、エンジンは始動しません。

"エンジン スタート ストップ" スイッチを押す

エンジンが始動するまで最大 25 秒間スターターが回転します。

完全にエンジンが始動するまでブレーキペダルを踏み続けてください。

どのモードからでもエンジンを始動できます。

■ エンジンの停止方法

手順 1 車両を完全に停止させる

手順 2 パーキングブレーキをかける（→P. 143）

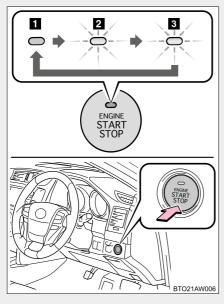
手順 3 シフトレバーを P の位置にする（→P. 135）

シフトポジションが P であることをメーターで確認する。（→P. 145）

手順 4 " エンジン スタート ストップ " スイッチを押す

手順 5 ブレーキペダルからゆっくり足を離した状態にして " エンジン スタート ストップ " スイッチのインジケーターが消灯していることを確認する

■“ エンジン スタート ストップ ” スイッチのモード切りかえ

ブレーキペダルを踏まずに“ エンジン スタート ストップ ”スイッチを押すと、モードを切りかえることができます。（スイッチを押すごとにモードが切りかわります）

1 OFF

シフトレバーが P 以外のときは OFF になりません。

2 アクセサリーモード

アクセサリーソケットなどの電装品が使用できます。

3 イグニッション ON モード

すべての電装品が使用できます。

スイッチ上のインジケーターが橙色に点灯します。

※：シフトレバーが P 以外のときはアクセサリーモードになり、OFF になりません。

シフトレバーが P 以外でエンジンを停止したときは

シフトレバーが P 以外でエンジンを停止させた場合、エンジンは停止しますが、“ エンジン スタート ストップ ” スイッチのモードは OFF になりません。次の手順で OFF にしてください。

手順 1 パーキングブレーキがかかっていることを確認する

手順 2 シフトレバーを P の位置にする

手順 3 “ エンジン スタート ストップ ” スイッチのインジケーターが橙色に点灯していることを確認し、“ エンジン スタート ストップ ” スイッチを 1 回押す

手順 4 “ エンジン スタート ストップ ” スイッチのインジケーターが消灯していることを確認する

知識

■自動電源 OFF 機能

シフトレバーが P にあるとき 1 時間以上アクセサリーモードかイグニッション ON モード（エンジン始動していない状態）にしたままにしておくと、“エンジン スタート ストップ ” スイッチが自動で OFF になります。
ただし、自動電源 OFF 機能は、バッテリーあがりを完全に防ぐものではありません。エンジンがかかっていないときは、“ エンジン スタート ストップ ” スイッチをアクセサリーモードまたはイグニッション ON モードにしたまま長時間放置しないでください。

■“ エンジン スタート ストップ ” スイッチの操作について

“ エンジン スタート ストップ” スイッチを操作する際は、短く確実に押してください。確実に押せてない場合は、モードの切りかえやエンジン始動ができない場合があります。また、確実に操作すれば押し続ける必要はありません。

■電子キーの電池の消耗について

→P. 34

■スマートエントリー＆スタートシステムが正常に働かないおそれのある状況

→P. 30

知識

■ご留意いただきたいこと

→P. 31

■エンジンが始動しないときは

エンジンイモビライザーシステムが解除されていない可能性があります。(→P. 88)

■ステアリングロックについて

“エンジン スタート ストップ”スイッチを OFF にしたあとにドアを開閉すると、ステアリングロック機能によりハンドルが固定されます。“エンジン スタート ストップ”スイッチを操作すると、ステアリングロックは自動で解除されます。

■ステアリングロックが解除できないときは

マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示され、“エンジン スタート ストップ”スイッチ上のインジケーターが緑色に点滅します。ハンドルを左右にまわしながら再操作してください。

■ステアリングロックモーターのオーバーヒート防止について

短時間にエンジン始動・停止をくり返すと、モーターのオーバーヒート防止のために作動制限することがあります。その場合は操作を控えてください。2 秒程度でもとの状態にもどります。

■“エンジン スタート ストップ”スイッチ上のインジケーターが橙色に点滅したときは

システムに異常があるおそれがあります。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

■電子キーの電池が切れたときは

→P. 373

警告

■エンジンを始動するときは

必ず運転席に座って行ってください。このとき決してアクセルペダルは踏まないでください。思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■緊急時のエンジン停止方法

走行中にエンジンを緊急停止したい場合には、3秒以上 “ エンジン スタート ストップ ” スイッチを押し続けてください。
ただし、緊急時以外は走行中に “ エンジン スタート ストップ ” スイッチに触れないでください。走行中にエンジンが停止すると、思わぬ事故につながるおそれがあります。

注意

■バッテリーあがりを防止するために

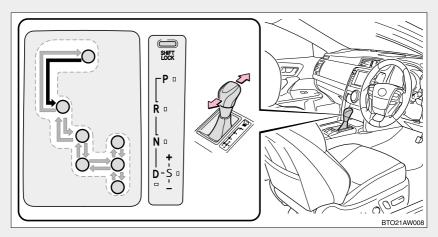
エンジンがかかっていないときは、“エンジン スタート ストップ” スイッチをアクセサリーモードまたはイグニッション ON モードにしたまま長時間放置しないでください。

■エンジンを始動するとき

- エンジンが冷えた状態で空ぶかししないでください。
- もしエンジンが始動しにくかったり、ひんぱんにエンストする場合は、ただちにエンジンの点検を受けてください。

オートマチックトランスミッション

状況に応じてシフトポジションをお選びください。

■ シフトレバーの動かし方

スマートエントリー&スタートシステム非装着車

⬅ エンジン スイッチが“ ON”の状態で、ブレーキペダルを踏んだまま操作します。

スマートエントリー&スタートシステム装着車

⬅ “ エンジン スタート ストップ ”スイッチがイグニッション ON モードの状態で、ブレーキペダルを踏んだまま操作します。

P と D のあいだの操作は、ブレーキペダルを踏み、車を完全に止めてから行ってください。

■ シフトポジションの使用目的

シフトポジション	目的
P	駐車またはエンジン始動・停止
R	後退
N	動力が伝わらない状態
D	通常走行※1
S	S モード走行※2 (→P. 138)

※1　燃費向上や騒音の低減のために、通常は D ポジションを使用してください。

※2　S モードではエンジンブレーキ力の選択が可能です。また、D ポジションにくらべエンジン回転数を高く制御するため、加速応答性が向上します。

■ 走行モードの選択

走行使用条件にあわせて次のモードを選択できます。

1 エコドライブモード

車両駆動力とエアコンの作動を抑え、燃費を向上させる走行に適しています。

2 通常走行モード

エコドライブモード、スポーツモード、スノーモードのすべてがOFF の状態です。

3 スポーツモード

カーブの多い山道や高速で走行するときに適しています。

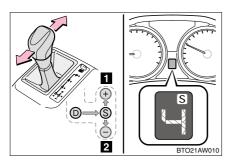
4 スノーモード

雪道などすべりやすい路面での発進や走行に適しています。

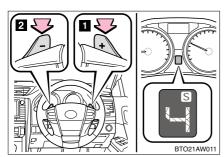
各モードを OFF にするには、もう一度同じモードのスイッチを押すか、他のモードのスイッチを押します。
また、スポーツモードまたは、エコドライブモードが ON の状態はエンジン スイッチを “LOCK” (スマートエントリー&スタートシステム非装着車) または “ エンジン スタート ストップ ” スイッチを OFF(スマートエントリー&スタートシステム装着車) にしても記憶されています。

S モードでのシフトレンジ切りかえ

シフトレバーを S の位置にして、シフトレバーまたはシフトパドル*を操作します。

シフトレバー

1 シフトレンジを上げる

2 シフトレンジを下げる

シフトパドル*

1 シフトレンジを上げる

2 シフトレンジを下げる

S ポジションへ操作したときの初期シフトレンジは、車速に応じて 5 レンジまたは4レンジに設定されます。ただしDポジションにてAI-SHIFT制御中はそれに従い、初期のシフトレンジが 3 レンジまたは 2 レンジになる場合があります。(→P. 140)

＊：車両型式などで異なる装備やオプション装備

■ シフトレンジ機能

シフトレンジ	機能
6	スピードや走行条件に応じて、1 速から 6 速のギヤが自動的に変わります。
5	スピードや走行条件に応じて、1 速から 5 速のギヤが自動的に変わります。
4	スピードや走行条件に応じて、1 速から 4 速のギヤが自動的に変わります。
3	スピードや走行条件に応じて、1 速から 3 速のギヤが自動的に変わります。
2	スピードや走行条件に応じて、1 速から 2 速のギヤが自動的に変わります。
1	ギヤが 1 速に固定されます。

シフトレンジの数字が小さい方がエンジンブレーキ力は大きくなります。

知識

■リバース警告ブザー

シフトレバーを R に入れるとブザーが鳴り、R にあることを運転者に知らせます。

■S モード

4 レンジ以下のとき、シフトレバーを“＋”側へ保持すると、6 レンジに設定されます。

■シフトダウン制限警告ブザー（S モード走行時）

安全や走行性能を確保するため、シフト操作には制限があり、シフトレバーを操作してもシフトできない場合があります。シフト操作によるシフトダウンが行われない場合は警告ブザーが鳴ります。

■レーダークルーズコントロール*を使って走行しているとき

S モードで走行時に５または４へシフトダウンしてもエンジンブレーキは効きません。

■S モードに関する自動変速について

1 ～ 5 レンジが選択された状態で加速し、エンジン回転数がレッドゾーン付近になると、自動的に 1 レンジずつシフトレンジアップされます。

■シフトレバーを P からシフトできないときは

→P. 370

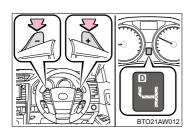
■NAVI・AI-SHIFTについて（メーカーオプションのナビゲーションシステム装着車）

ナビゲーションシステムの機能を利用した、高度な自動変速制御の機能です。使用方法は、別冊「ナビゲーションシステム取扱書」を参照してください。

■AI-SHIFT について

AI-SHIFT は、運転者の運転操作と走行状況により、自動的に最適なシフトレンジに切りかえます。AI-SHIFT は、シフトレバーを D にしているときに自動的に作動します。（シフトレバーを S にすると、機能が解除されます。）

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

■一時的なシフトパドルの操作について

シフトレバーを D の位置で走行中、シフトパドルを操作することにより任意の変速段を選択することができます。この場合、シフトポジション・シフトレンジ表示灯に D が点灯し、変速段が表示されます。
一時的な S モードは次の状態になると解除されます。

●同一変速段で、アクセルペダルを一定時間以上踏み続けたとき

●シフトパドルのシフトアップ側を一定時間以上押し続けたとき

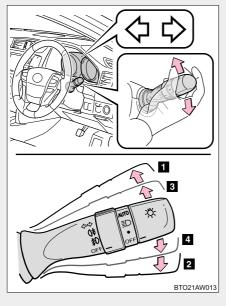
●車両停止状態のとき

警告

■すべりやすい路面では

急なアクセル操作や、エンジンブレーキ力の急激な変化が横すべりやスピンの原因となりますので注意してください。

方向指示レバー

レバー操作により、次のように運転者の意思を表示することができます。

1 左折

2 右折

3 左側へ車線変更（レバーを途中で保持）

レバーを離すまで左側方向指示灯が点滅します。

4 右側へ車線変更（レバーを途中で保持）

レバーを離すまで右側方向指示灯が点滅します。

知識

■作動条件

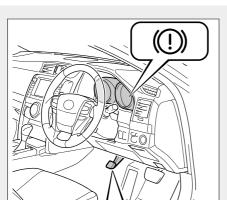
スマートエントリー&スタートシステム非装着車

エンジン スイッチが“ ON ”のとき

スマートエントリー&スタートシステム装着車

“ エンジン スタート ストップ ”スイッチがイグニッション ON モードのとき

■表示灯の点滅が異常に速くなったときは

方向指示灯の電球が切れていないか確認してください。

パーキングブレーキ

パーキングブレーキをかけるには、右足でブレーキペダルを踏みながら、左足でパーキングペダルをいっぱいまで踏み込む（再度踏み込むと解除される）

知識

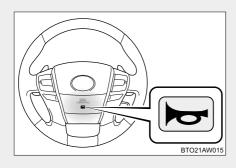
■パーキングブレーキ未解除警告ブザー

→P. 355

警告

■走行前の注意

パーキングブレーキを完全に解除してください。
パーキングブレーキをかけたまま走行すると、ブレーキ部品が過熱し、ブレーキの効きが悪くなったり、早く摩耗したりするおそれがあります。

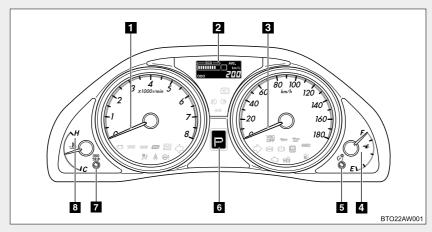
ホーン（警音器）

ハンドルの [ホーンマーク] 周辺部を押すとホーンが鳴ります。

知識

■ハンドル位置を調整した後は（マニュアルチルト＆テレスコピック装着車）

ハンドルが確実に固定されていることを確認してください。
固定が不十分だとホーンが鳴らない場合があります。(→P. 65)

計器類

常時発光式メーター

エンジン スイッチを“ON”にするとメーターが点灯します。

1 タコメーター

毎分のエンジン回転数を示します。

2 オドメーター／トリップメーター／ドライブモニター

● オドメーター

走行した総距離を表示します。

● トリップメーター

リセットしてからの走行距離を表示します。
区間距離は、トリップＡ、トリップＢの２種類で使い分けることができます。

● ドライブモニター

平均燃費、エコドライブインジケーターゾーン表示 / 瞬間燃費 / 外気温 / エコドライブインジケーターランプユーザーカスタマイズを表示させることができます。

3 スピードメーター

車両の走行速度を示します。

4 燃料計

燃料残量を示します。

5 メーター明るさ調整ボタン

→P.150

6 シフトレンジ表示

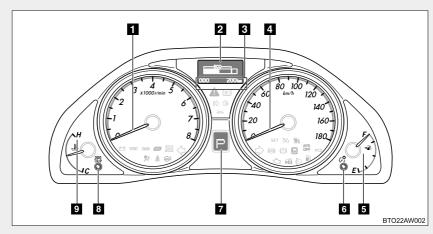
→ 選択しているシフトレンジを表示します。

7 表示切りかえボタン

オドメーター／トリップメーター表示／ドライブモニター表示の切りかえができます。
また、トリップメーター表示中に押し続けると、走行距離が 0 にもどります。

8 水温計

エンジン冷却水の温度を示します。

オプティトロンメーター＊

“ エンジン スタート ストップ ” スイッチをイグニッション ON モードにするとメーターが点灯します。

1 タコメーター

毎分のエンジン回転数を示します。

2 マルチインフォメーションディスプレイ

→P.159

3 オドメーター／トリップメーター／エコドライブインジケーターランプユーザーカスタマイズ

● オドメーター

走行した総距離を表示します。

● トリップメーター

リセットしてからの走行距離を表示します。
区間距離は、トリップ A、トリップ B の２種類で使い分けることができます。

● エコドライブインジケーターランプユーザーカスタマイズ

エコドライブインジケーターランプの点灯 / 消灯をキャンセルできます。

＊：グレード等によりメーターの意匠は異なります。

4 スピードメーター

車両の走行速度を示します。

5 燃料計

燃料残量を示します。

6 メーター明るさ調整ボタン

→P.150

7 シフトレンジ表示

→ 選択しているシフトレンジを表示します。

8 表示切りかえボタン

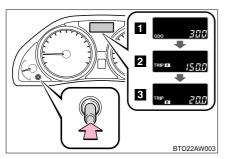
オドメーター／トリップメーター／エコドライブインジケーターランプユーザーカスタマイズの切りかえができます。また、トリップメーター表示中に押し続けると、走行距離が 0 にもどります。

9 水温計

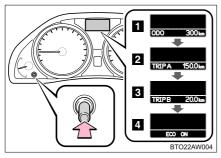
エンジン冷却水の温度を示します。

表示の切りかえ

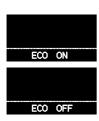
ボタンを押すごとに次のように切りかわります。

常時発光式メーター

1 オドメーター
2 トリップメーター A ※
3 トリップメーター B ※
4 ドライブモニター表示
(→P.156)

※押し続けると 0 にもどります。

オプティトロンメーター

1 オドメーター
2 トリップメーター A ※
3 トリップメーター B ※
4 エコドライブインジケーターランプユーザーカスタマイズ

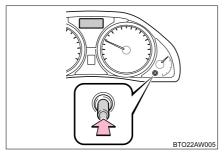
※押し続けると 0 にもどります。

■ エコドライブインジケーターランプユーザーカスタマイズ

エコドライブインジケーターランプの点灯／消灯をキャンセルするには、エコドライブインジケーターランプユーザーカスタマイズ表示中に、表示切りかえボタンを 1 秒以上押します。

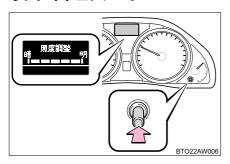
メーター明るさ調整ボタン

ボタンを押すごとにメーター照明の明るさを 5 段階で調整できます。

常時発光式メーター

BTO22AW005

車幅灯点灯時に明るさレベルを設定できます。

オプティトロンメーター

BTO22AW006

ボタンを押すとマルチインフォメーションディスプレイの表示が切りかわります。

車幅灯消灯時と点灯時それぞれ 5 段階に、明るさのレベルを調整することができます。

知識

■メーター・ディスプレイの作動条件

スマートエントリー&スタートシステム非装着車

エンジンスイッチが“ON”のとき

スマートエントリー&スタートシステム装着車

“エンジン スタート ストップ”スイッチがイグニッション ON モードのとき

■メーターの明るさの調整について(オプティトロンメーター装着車)

車幅灯消灯時と点灯時それぞれの明るさのレベルを調整することができます。

■メーター照度の減光制御について

ライトスイッチが ON になると、メーター照明が減光されます。ただし、メーター照度が最大状態では、ライトスイッチが ON になってもメーター照明は減光されません。

注意

■エンジンや構成部品への損傷を防ぐために

- タコメーターの針がレッドゾーン(エンジンの許容回転数を超えている範囲)に入らないようにしてください。
- 水温計の針がHのレッドゾーンに入ったときは、オーバーヒートのおそれがあるので、ただちに安全な場所に停車してください。完全に冷えたあと、エンジンを確認してください。(→P.378)

表示灯／警告灯

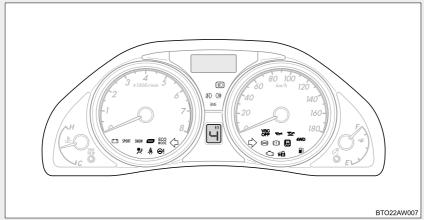
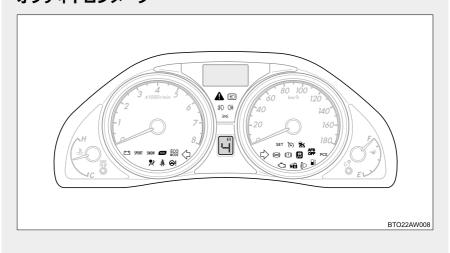
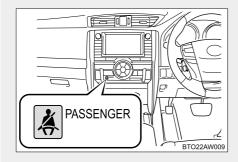
メーター・センターパネル内の表示灯・警告灯でお車の状況をお知らせします。

常時発光式メーター

BTO22AW007

オプティトロンメーター＊

BTO22AW008

＊：グレード等によりメーターの意匠は異なります。

センターパネル

■ 表示灯

システムの作動状況を表示します。

方向指示表示灯（→P.142）

尾灯表示灯（→P.163）

※

AFS OFF 表示灯*（→P.165）

ヘッドライト上向き表示灯（→P.163）

※

エコドライブインジケーターランプ（→P.119）

※

スリップ表示灯（→P.200）

セキュリティ表示灯*（→P.88）

クルーズコントロール表示灯*（→P.178）

レーダークルーズコントロール表示灯*（→P.178）

ECO MODE

エコドライブモード表示灯（→P.137）

※SPORT

SPORT 表示灯（→P.137）

※VSC OFF

VSC OFF 表示灯*（→P.200）

SNOW

SNOW 表示灯（→P.137）

フロントフォグライト表示灯*（→P.168）

リヤフォグライト表示灯*（→P.169、P.170）

シフトポジション表示灯（→P.138）

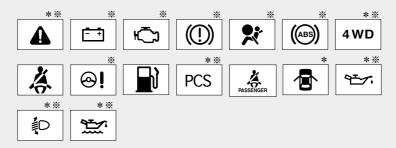
SET

SET 表示灯*（→P.178）

※作動確認のためにエンジン スイッチを“ ON ”（スマートエントリー&スタートシステム非装着車）または、“ エンジン スタート ストップ ”スイッチをイグニッション ON モード（スマートエントリー&スタートシステム装着車）にすると点灯し、数秒後またはエンジンをかけると消灯します。点灯しない場合や点灯したままのときはシステム異常のおそれがあります。トヨタ販売店で点検を受けてください。(SPORT 表示灯は AVS 装着車のみ作動確認の点灯を行います。)

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

■ 警告灯

万一のシステム異常などを警告します。（→P.343）

※　作動確認のためにエンジン スイッチを“ ON ”（スマートエントリー＆スタートシステム非装着車）、または“ エンジン スタート ストップ ”スイッチをイグニッション ON モード（スマートエントリー＆スタートシステム装着車）にすると点灯し、数秒後またはエンジンをかけると消灯します。点灯しない場合や点灯したままのときはシステム異常のおそれがあります。トヨタ販売店で点検を受けてください。

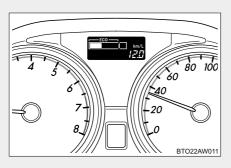
警告

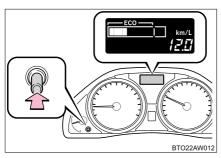
■安全装置の警告灯が点灯しないときは

ABS や SRS エアバッグなどの安全装置の警告灯が、エンジン スイッチを“ ON ”（スマートエントリー＆スタートシステム非装着車）、または“ エンジン スタート ストップ ”スイッチをイグニッション ON モード（スマートエントリー＆スタートシステム装着車）にしても点灯しない場合や点灯したままの場合は、事故にあったときに正しく作動せず、重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

＊：車両型式などで異なる装備やオプション装備

ドライブモニター（常時発光式メーター装着車）

ドライブモニターは、走行に関するさまざまな情報を表示します。

- 平均燃費、エコドライブインジケーターゾーン表示（→P.156）
- 瞬間燃費（→P.156）
- 外気温（→P.157）
- エコドライブインジケーターランプユーザーカスタマイズ表示（→P.157）

表示切りかえ

項目を切りかえるには、表示切りかえボタンを押します。

- 平均燃費、エコドライブインジケーターゾーン表示

エコドライブインジケーターゾーン表示と平均燃費を表示します。

リセットするには、平均燃費表示中に表示切りかえボタンを 1 秒以上押します。

- 瞬間燃費

現在の瞬間燃費を表示します。

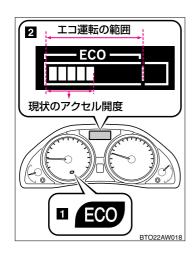
● 外気温

外気温を表示します。
－ 40 ℃～ 50 ℃の間で表示します。

● エコドライブインジケーターランプユーザーカスタマイズ表示

エコドライブインジケーターランプの点灯／消灯をキャンセルするには、エコドライブインジケーターランプユーザーカスタマイズ表示中に、表示切りかえボタンを 1 秒以上押します。

知識

■エコドライブインジケーターゾーン表示について

環境にやさしいアクセル操作（エコ運転）の範囲と、現状のアクセル開度を表示します。エコ運転中は、エコドライブインジケーターランプ（1）が点灯します。
アクセルの踏み過ぎなど、エコ運転の範囲をこえた場合には、エコドライブインジケーターゾーン表示（2）の右側が点滅し、エコドライブインジケーターランプが消灯します。なお、次の2つの条件を満たすと作動します。

- ●Dで走行中（シフトパドル装着車は、シフトパドル未使用時）
- ●走行モードが通常走行モードまたはエコドライブモード

上記以外の場合は、エコドライブインジケーターゾーン表示が非表示になります。

■外気温表示について

次の場合は、正しい外気温が表示されなかったり、温度表示の更新が遅くなったりすることがありますが、故障ではありません。

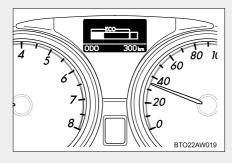
- ●停車しているときや、低速走行(約25km/h以下)のとき
- ●外気温度が急激に変化したとき(車庫、トンネルの出入り口付近など)
- ●外気温の測定が正しく行われないときは「－－℃」または、「E℃」と表示されます。

■バッテリー端子の脱着をしたときは

バッテリー端子の脱着を行うと、次のデータはリセットされます。

- ●平均燃費

マルチインフォメーションディスプレイ（オプティトロンメーター装着車）

マルチインフォメーションディスプレイは、次のような情報を表示します。

● トリップインフォメーション（→P.149）

航続可能距離や燃費など走行に関する情報を表示します。

● レーダークルーズコントロール表示*（→P.178）

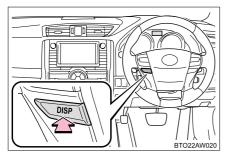
レーダークルーズコントロール使用時に自動で表示されます。

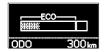
● クリアランスソナー表示*
クリアランスソナー使用時に、障害物を感知すると自動で表示されます。

● 警告メッセージ（→P.347）

各システムに異常が発生すると自動で表示されます。

● メーター明るさ調整（→P.150）

表示の切りかえ

表示を切りかえるには、DISP スイッチを押します。

● エコドライブインジケーターゾーン表示

エコドライブインジケーターゾーン表示を表示します。

● 平均燃費

リセットしてからの平均燃費を表示します。

・リセットするには、平均燃費表示中に DISP スイッチを 1 秒以上押します。
スーパーライブサウンドシステム装着車では、「区間燃費画面」も更新されます。「区間燃費画面」については「ナビゲーションシステム取扱書」を参照してください。

● 瞬間燃費

現在の瞬間燃費を表示します。

● 給油後平均燃費

給油してからの平均燃費を表示します。

● 航続可能距離

現在の燃料残量で走行できるおよその距離を表示します。

- 表示される距離は、過去の平均燃費をもとに算出されるため、表示される距離を実際に走行できるとは限りません。
- 燃料給油量が少量の場合、表示が更新されないことがあります。

● 平均車速

通算の平均車速を表示します。

- リセットするには、平均車速表示中に DISP スイッチを 1 秒以上押します。

● 走行時間

エンジンを始動してから停止までの間に、走行した時間を表示します。

● 外気温

外気温を表示します。

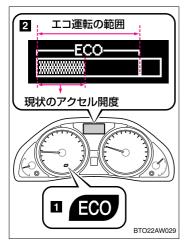
－ 40 ℃～ 50 ℃の間で表示します。

知識

■外気温表示について

●次の場合は、正しい外気温が表示されなかったり、温度表示の更新が遅くなったりすることがありますが、故障ではありません。

・停車しているときや、低速走行 (約 25km/h 以下) のとき
・外気温度が急激に変化したとき (車庫、トンネルの出入り口付近など)
・外気温の測定が正しく行われないときは「－－ ℃」または、「 E ℃」と表示されます。

■エコドライブインジケーターゾーン表示について

環境にやさしいアクセル操作（エコ運転）の範囲と、現状のアクセル開度を表示します。エコ運転中は、エコドライブインジケーターランプ（1）が点灯します。
アクセルの踏み過ぎなど、エコ運転の範囲を超えた場合には、エコドライブインジケーターゾーン表示（2）の右側が点滅し、エコドライブインジケーターランプが消灯します。
なお、次の 2 つの条件を満たすと作動します。

●Dで走行中(シフトパドル装着車は、シフトパドル未使用時)

●走行モードが通常走行モードまたはエコドライブモード

上記以外の場合は、エコドライブインジケーターゾーン表示は左図の表示になります。

■バッテリー端子の脱着をしたときは

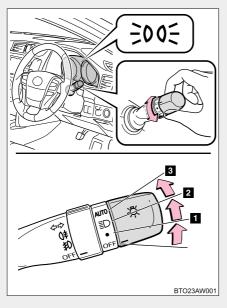
バッテリー端子の脱着を行うと、次のデータはリセットされます。

・平均燃費
・航続可能距離
・平均車速

ライトスイッチ

自動または手動でヘッドライトなどを点灯できます。

レバーの端をまわすと、次のようにライトが点灯します。

BTO23AW001

1 車幅灯・尾灯・番号灯・インストルメントパネルライトを点灯

2 上記ライトとヘッドライトを点灯

3 ヘッドライト、車幅灯などを自動点灯・消灯

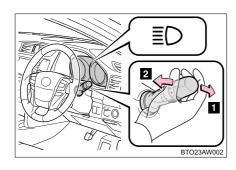
スマートエントリー&スタートシステム非装着車

エンジン スイッチが " ON " のとき

スマートエントリー&スタートシステム装着車

" エンジン スタート ストップ " スイッチがイグニッション ON モードのとき

ハイビームにする

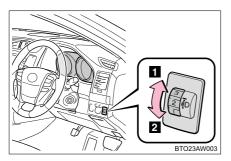
BTO23AW002

1 ライト点灯時ハイビームに切りかえ

レバーをもとの位置へもどすとロービームにもどります。

2 レバーを引いているあいだ、ハイビームを点灯

ライトが消灯していても、ハイビームが点灯します。レバーを離すと、ロービームにもどる、または消灯します。

手動光軸調整ダイヤル（ハロゲンヘッドライト装着車）

乗車人数や荷物の量などによる車の姿勢の変化に合わせて、ヘッドライトの光軸を調整することができます。

1 上向きに調整

2 下向きに調整

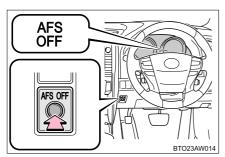
■ 目盛り設定の目安

乗員と荷物の条件		ダイヤル位置	
乗員	荷物	2.5L FR 車 （後輪駆動車）	2.5L 4WD 車 （４輪駆動車）
運転者	なし	0	0
運転者と 助手席乗員	なし	0	0
全乗員	なし	2	2
全乗員	最大積載時	2.5	2.5
運転者	最大積載時	4	4

AFS（アダプティブフロントライティングシステム）＊

AFS は、交差点やカーブで優れた視認性を確保するため、ハンドル操作によって変化するタイヤの角度や車速に応じて、ヘッドライトの光軸を自動で調整します。

車速が 10km/h 以上のときに作動します。

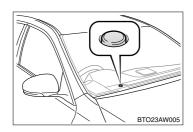
■ AFS を OFF にするには

AFS システムの ON・OFF を切りかえる

AFS を OFF にすると AFS OFF 表示灯が点灯します。

＊ : 車両型式などで異なる装備やオプション装備

知識

■ライトセンサー

BTO23AW005

センサーの上にものを置いたり、センサーをふさぐようなものをウインドウガラスに貼らないでください。周囲からの光がさえぎられると、自動点灯・消灯機能が正常に働かなくなります。

■ライト消し忘れ防止機能

スマートエントリー&スタートシステム非装着車

エンジン スイッチを“ ACC”または“ LOCK”にして運転席ドアを開けるとヘッドライトと尾灯が消灯します。
再びライトを点灯する場合は、エンジン スイッチを“ON”にするか、一度ライトスイッチを OFF にもどし、再度 ● または ≣D の位置にします。

スマートエントリー&スタートシステム装着車

“ エンジン スタート ストップ ” スイッチをアクセサリーモードまたは OFF にして運転席ドアを開けるとヘッドライトと尾灯が消灯します。
再びライトを点灯する場合は、“ エンジン スタート ストップ ” スイッチをイグニッション ON モードにするか、一度ライトスイッチを OFF にもどし、再度 ● または ≣D の位置にします。

■オートレベリングシステム

通行人や対向車がまぶしくないように、乗車人数、荷物の量などによる車の姿勢の変化にあわせて、ヘッドライトの光軸を自動で調整します。

■AFS OFF 表示灯*が点滅するときは

システムに異常があるおそれがあります。トヨタ販売店に連絡してください。

■販売店で設定可能な機能

ライトセンサーの感度の設定などを変更できます。
（カスタマイズ機能一覧 →P. 390）

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

注意

■バッテリーあがりを防止するために

エンジンを停止した状態でライトを長時間点灯しないでください。

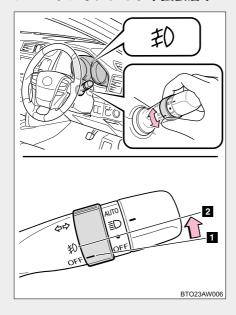
■AFS OFF スイッチ*について

AFS OFF スイッチの上側に、同じ形状の VSC OFF スイッチ（→P. 200）があるため、押し間違えないよう注意してください。

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

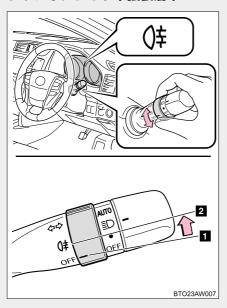
フォグライトスイッチ＊

雨や霧などの悪天候下での視界を確保します。

フロントフォグライト単独装着車

1 消灯する

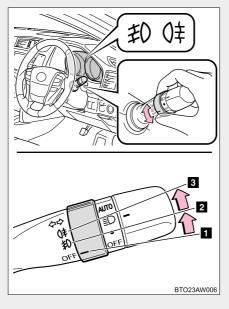
2 点灯する

＊：車両型式などで異なる装備やオプション装備

リヤフォグライト単独装着車

1 消灯する

2 点灯する

手を離すとOFFの位置までもどります。
再度操作すると、リヤフォグライトのみ消灯します。

フロント&リヤフォグライト装着車

1 消灯

2 フロントフォグライトを点灯する

3 フロント&リヤフォグライト点灯する

手を離すと［フロントフォグライト記号］の位置までもどります。
再度操作すると、リヤフォグライトのみ消灯します。

知識

■点灯条件

● ヘッドライトまたは車幅灯が点灯しているときに使用できます。

● フロント&リヤフォグライト装着車のリヤフォグライトは、フロントフォグライトが点灯しているときのみ使用できます。

■リヤフォグライトについて

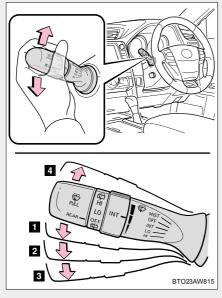
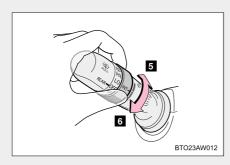
● リヤフォグライトが点灯しているときは、メーター内の表示灯が橙色に点灯します。

● 雨や霧などで視界が悪いときに後続車に自分の車の存在を知らせるために使用します。
視界が悪いとき以外に使用すると後続車の迷惑になる場合があります。
必要なとき以外は使用しないでください。

間欠時間調整式ワイパー：
“INT”を選択しているとき、間欠作動の時間を調整することができます。

雨滴感知式ワイパー：
“AUTO”を選択しているとき、雨滴量と車速に応じてワイパーが作動します。

間欠時間調整式ワイパー

次のようにレバーをまわして、ワイパーの作動を選択します。
ワイパーの間欠時間も調整できます。

1 間欠作動（INT）
2 低速作動（LO）
3 高速作動（HI）
4 一時作動（MIST）

5 間欠ワイパーの作動頻度（減）

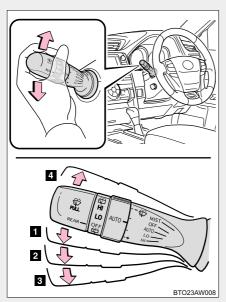
6 間欠ワイパーの作動頻度（増）

7 ウォッシャー液を出す

ワイパーが連動して作動します。

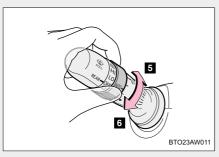
雨滴感知式ワイパー：

次のようにレバーをまわして、ワイパーの作動を選択します。

“ AUTO ”が選択されているときは、雨滴センサーの感度も調整できます。

1 雨滴感知オート作動（AUTO）

2 低速作動（LO）

3 高速作動（HI）

4 一時作動（MIST）

5 雨滴センサーの感度調整（低）

6 雨滴センサーの感度調整（高）

7 ウォッシャー液を出す

ワイパーが連動して作動します。（数回作動したあと、液だれ防止としてさらに1回作動します。）

知識

■作動条件

スマートエントリー&スタートシステム非装着車

エンジン スイッチが“ ON ”のとき

スマートエントリー&スタートシステム装着車

“ エンジン スタート ストップ ”スイッチがイグニッション ON モードのとき

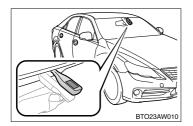
■車速による作動への影響（雨滴感知式ワイパー装着車）

●車速によってウォッシャー連動時のワイパー作動（液だれ防止作動が働くまでの時間）が変わります。

●AUTO 選択時のワイパーLO 作動は、停車時のみ間欠作動へ切りかわります。（雨滴センサーの感度調整が最高に調整されているときは、低速作動を続けます。）

■ウォッシャー液が出ないときは

ウォッシャー液量が不足していないのにウォッシャー液が出ないときは、ノズルのつまりを点検してください。

■雨滴感知センサー（雨滴感知式ワイパー装着車）

●雨滴感知センサーが雨滴量を判定します。

光学センサーを使用しているため、フロントガラスに朝日や夕日が断続的に当たるときや、虫などで汚れたときに正しく作動しないことがあります。

●“エンジン スタート ストップ”スイッチがイグニッション ON モードのときにワイパースイッチを AUTO モードにすると、作動確認のためワイパーが 1 回作動します。

●雨滴感知センサーの温度が 90℃以上または－15℃以下のときは、AUTO 作動しないことがあります。その場合は、AUTO モード以外でワイパーを使用してください。

警告

■AUTO モード時のワイパー作動に関する警告 (雨滴感知式ワイパー装着車)

AUTO モードでは、センサーに触れたり、フロントガラスに振動があるなどの要因で不意にワイパーが作動するおそれがあります。ワイパーで指などを挟まないようにご注意ください。

注意

■フロントガラスが乾いているときは

ワイパーを使わないでください。
ガラスを傷つけるおそれがあります。

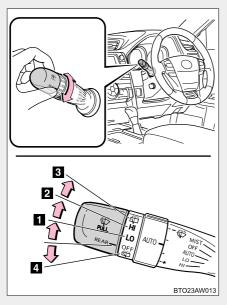
■ウォッシャー液が出ないときは

ウォッシャースイッチを操作し続けないでください。
ポンプが故障するおそれがあります。

■ノズルがつまったときは

ピンなどで取り除かないでください。
ノズルが損傷するおそれがあります。

ワイパー & ウォッシャー（リヤ）＊

次のようにレバーをまわして、ワイパーの作動を選択します。

1. 間欠作動 (LO)
2. 通常作動 (HI)
3. ウォッシャー液を出す
ワイパーが連動して作動します。
4. ウォッシャー液を出す
ワイパーが連動して作動します。

知識

■作動条件

スマートエントリー&スタートシステム非装着車

エンジン スイッチが“ ON ”のとき

スマートエントリー&スタートシステム装着車

“ エンジン スタート ストップ ”スイッチがイグニッション ON モードのとき

■ウォッシャー液が出ないときは

ウォッシャー液量が不足していないのにウォッシャー液が出ないときは、ノズルのつまりを点検してください。

＊：車両型式などで異なる装備やオプション装備

注意

■リヤウインドゥガラスが乾いているときは

ワイパーを使わないでください。
ガラスを傷付けるおそれがあります。

■ウォッシャー液が出ないときは

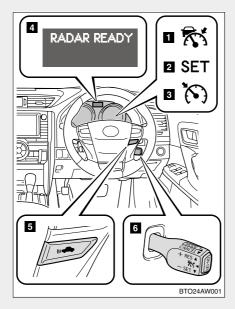
スイッチを操作し続けないでください。
ポンプが故障するおそれがあります。

■ノズルがつまったときは

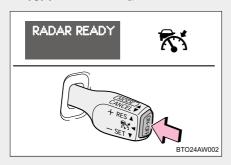
ピンなどで取り除かないでください。
ノズルが損傷するおそれがあります。

レーダークルーズコントロール＊

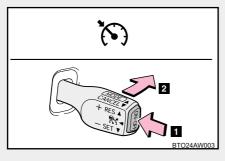
アクセルペダルを踏まなくても、車間制御モードで先行車の速度変化に合わせた追従走行を行ったり、定速制御モードにより一定の速度で走行できます。

先行車との車間距離が確保しやすい高速道路や自動車専用道路などで使用してください。

1 表示灯（車間制御モード）
2 表示灯（SET）
3 表示灯（定速制御モード）
4 マルチインフォメーションディスプレイ
5 車間距離切りかえスイッチ
6 レーダークルーズコントロールスイッチ

＊：車両型式などで異なる装備やオプション装備

■ 制御モードを選択する

車間制御モードを選択する

“ON-OFF”スイッチを押して、システムを ON にする

OFF にするには再度“ON-OFF”スイッチを押します。

定速制御モードを選択する

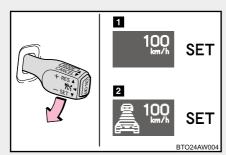
1 “ON-OFF”スイッチを押して、システムを ON にする

OFF にするには再度“ON-OFF”スイッチを押します。

“エンジン スタート ストップ”スイッチが ON モードになるたびに車間制御モードに再設定されます。

2 定速制御モードに切りかえ（約 1 秒間レバーを前方に押し続ける）

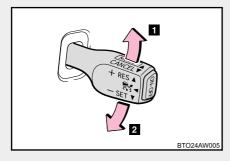
定速制御モードに切りかえると、定速制御モード表示灯が点灯します。

■ 選択したモード（車間制御・定速制御）で走行する

希望の速度まで加速 / 減速し、レバーを下げて速度を設定する

メーター内に“SET”の表示灯が点灯します。

1 定速制御モード

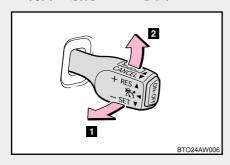
2 車間制御モード

■ 設定速度をかえるには

1 速度を上げる

2 速度を落とす

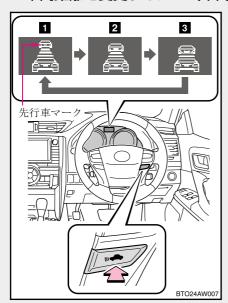
表示が希望の速度になるまでレバーを保持します。

レバーを軽く操作して手を離せば、設定速度を微調整できます。

■ 制御を解除する・復帰させるには

1 解除するには、レバーを手前に引く

ブレーキを踏んだときも解除されます。

2 もとの制御状態にもどすには、レバーを上げる

■ 車間距離を変更するには（車間制御モード）

スイッチを押すごとに次のように車間距離を切りかえます。

1 長い

2 中間

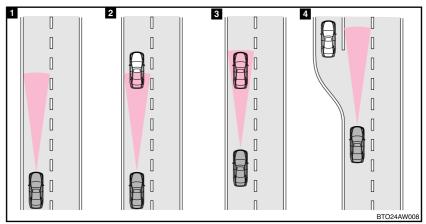
3 短い

“エンジン スタート ストップ” スイッチが ON モードになるたびに 1 にもどります。

先行車がいる場合、先行車マークも表示されます。

車間制御モードでの走行

このモードではレーダーセンサーにより、車両前方約 100 m 以内の先行車を検知して、先行車の有無・先行車との車間距離を判定します。

長い下り坂を走行しているときは、車間距離が短めになります。

1 定速走行：
先行車がいないとき

運転者が設定した速度で定速走行します。また、車間距離切りかえスイッチを操作して、希望の車間距離に設定することもできます。

2 減速走行：
設定した速度より遅い先行車が現れたとき

先行車を検知すると自動で減速し、より大きな減速が必要な場合はブレーキがかかります。十分に減速できない状態で先行車に接近した場合は、接近警報を鳴らします。

3 追従走行：
設定した速度より遅い先行車に追従するとき

先行車の速度変化に合わせて、運転者の設定した車間距離になるよう追従します。

4 加速走行：
設定した速度より遅い先行車がいなくなったとき

設定速度までゆっくり加速し、定速走行にもどります。

接近警報

追従走行中の他車の割り込みなど、十分な減速ができない状態で先行車に接近したときは、表示の点滅とブザーで運転者に注意をうながします。その場合は、ブレーキを踏むなど適切な車間距離を確保してください。

知識

■設定条件について

- ●シフトレバーが D または S の 4 ～ 6 レンジのとき設定できます。
- ●速度は約 50 km/h から約 100 km/h の範囲で設定できます。

■モードの切りかえについて

車間制御モードを使用してから定速制御モードに切りかえることはできません。また、定速制御モードから車間制御モードへもどすこともできません。システムを OFF してから再度操作してください。

■アクセルペダル操作

通常走行と同様にアクセルペダル操作で加速できます。加速後、設定速度にもどります。ただし、車間制御モード時は先行車との距離を保持するため設定速度以下になることもあります。

■車間制御走行の自動解除

次のとき、自動的に車間制御走行が解除されます。

- ●速度が約 40km/h 以下になった
- ●車が横すべりして VSC が作動した
- ●センサーが何かでふさがれて適切に働かない
- ●ワイパーが高速で作動した

その他の理由で車間制御走行が自動解除されるときは、システムが故障している可能性があります。トヨタ販売店にご相談ください。

■定速制御走行の自動解除

次のとき、自動的に定速制御が解除されます。

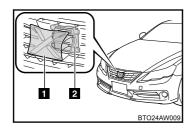
- ●設定速度より実際の速度が約 16 km/h 以上低下した
- ●速度が約 40 km/h 以下になった
- ●車が横すべりして VSC が作動した

■車間距離選択の目安

次の目安を参考に車間距離を選択してください。(→P. 181)
(時速 80 km/h で走行している場合)
なお、速度に応じて車間距離は増減します。

車間距離選択	車間距離
長い	約 50 m
中間	約 40 m
短い	約 30 m

■レーダーセンサーとグリルカバーについて

車間制御を正しく作動させるためにセンサーとグリルカバーは常にきれいにしておいてください。(ビニールやつらら・雪など、汚れ検知機能で検知できないものもあります)
汚れを検知したときは、レーダークルーズコントロールは解除されます。

1 グリルカバー

2 レーダーセンサー

■レーダークルーズコントロールの表示灯・警告メッセージ・警告ブザー

走行操作に関して注意が必要な場合や、システムに異常が発生したときには、表示灯や警告メッセージ・警告表示・警告ブザーで注意をうながします。(→P. 347)

■接近警報について

車間距離が短くても、次のような場合は警報されないことがあります。

- ●先行車と自車の速度が同じか先行車の方が速いとき
- ●先行車が極端な低速走行をしているとき
- ●速度を設定した直後
- ●アクセルペダルが踏まれたとき

⚠ 警告

■安全にお使いいただくために

安全運転を行う責任は運転者にあります。装置を過信せず、運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、安全運転を心がけてください。
レーダークルーズコントロールは運転者の操作の一部を支援し、操作負担を軽減するためのシステムで、支援の範囲には限りがあります。
システムが正常に機能していても、運転者が認識している先行車の状況とシステムが検知している状況が異なる場合があります。従って注意義務・危険性の判断・安全の確保は運転者が行う必要があります。なお、誤った使い方をしたり、操作慣れなどで注意を怠ったりすると、思わぬ危険を招くことがあります。

■システムの支援内容に関する注意点

●運転者が見る過程での支援内容
レーダークルーズコントロールは、自車と設定された先行車との車間距離を検知するのみであり、わき見やぼんやり運転を許容する装置でも、視界不良を補助する装置でもありません。
運転者自らが周囲の状況に注意を払う必要があります。

●運転者が判断する過程での支援内容
レーダークルーズコントロールは、自車と設定された先行車との車間距離が適正かどうかを判断しており、それ以外の判断はしません。このため、危険性があるかどうかなど運転者は自ら安全の判断をする必要があります。

●運転者が操作する過程での支援内容
レーダークルーズコントロールは、先行車への追突を防止する機能はありません。このため、危険性があれば運転者自らが安全を確保する必要があります。

警告

■誤操作を防ぐために

レーダークルーズコントロールを使わないときは“ON-OFF”スイッチでシステムを OFF にしてください。

■レーダークルーズコントロールを使用してはいけない状況

次の状況では、レーダークルーズコントロールを使用しないでください。
適切な制御が行われず、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ●交通量の多い道
- ●急カーブのある道
- ●曲がりくねった道
- ●雨天時や、凍結路・積雪路などのすべりやすい路面
- ●急な下り坂や急で勾配の変化が激しい坂
- ●高速道路の出入り口
- ●レーダーセンサーが正しく働かないような悪天候時（霧・雪・砂嵐・激しい雨など）
- ●警報がひんぱんに鳴るとき
- ●車両けん引時

■センサーが正しく検知しないおそれのある先行車

次のような場合は、必要に応じてブレーキで減速してください。
センサーが正しく車両を検知できず、接近警報（→P. 183）も作動しないため、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ●先行車が急に割り込んできたとき
- ●先行車が低速で走行中のとき
- ●停車中の車がいるとき
- ●先行車の後部が小さすぎるとき（荷物を積んでいないトレーラーなど）
- ●同じ車線を二輪車が走行中のとき

警告

■**車間制御が正しく働かないおそれのある状況**

次の状況では、必要に応じてブレーキで減速してください。
レーダーセンサーが正常に車両を検知せず、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 周囲の車より水や雪がまき散らされ、レーダーセンサーの作動のさまたげになる場合
- 自車の車両姿勢が上向きになる場合（重い荷物を積んだときなど）
- カーブ路や車線幅が狭い道路などを走行する場合
- ハンドル操作が不安定な場合や、車線内の自車の位置が一定でない場合
- 先行車が急ブレーキをかけた場合

⚠警告

■レーダーセンサーの取り扱い

レーダークルーズコントロールが効果を発揮できるように次のことをお守りください。
お守りいただかないと、センサーが正しく作動せず、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●センサーとグリルカバーは常にきれいにしておく
お手入れをする際は、センサーやグリルカバーを傷付けないよう、やわらかい布を使ってください。

●センサー周辺への強い衝撃を避ける
センサーの位置がずれると、システムに異常が起こるおそれがあります。センサー、または周辺に強い衝撃を受けた際は、必ず販売店にて点検を受け、調整してください。

●センサーを分解しない

●センサーやグリルカバー周辺にアクセサリーを付けたり、ステッカーを貼ったりしない

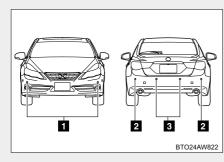
●センサーやグリルカバーを改造したり塗装したりしない

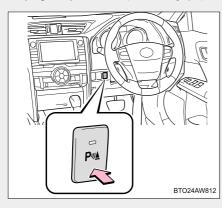
●純正品以外の部品に交換しない

●センサーに貼られているラベルは電波法の基準に適合している証明ですので、はがさないでください。分解・改造すると電波法の基準に適合しなくなる場合があります。

クリアランスソナー＊

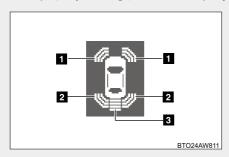
クリアランスソナーは、車両と障害物とのおおよその距離を超音波センサーによって感知して、メーター内の表示とブザー音で運転者にお知らせします。
スーパーライブサウンドシステム装着車は、モニター画面でも距離を表示します。

■ センサーの種類

1 フロントコーナーセンサー
2 リヤコーナーセンサー
3 バックセンサー

■ クリアランスソナースイッチ

ON ／ OFF

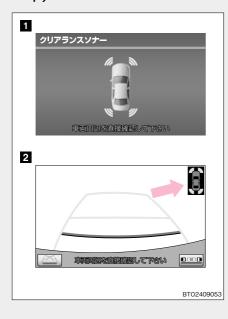
スイッチを押すとクリアランスソナーはONになり、インジケーターが点灯します。
OFF にするには再びスイッチを押します。

＊：車両型式などで異なる装備やオプション装備

■ マルチインフォメーションディスプレイの表示

1 フロントコーナーセンサー作動表示

2 リヤコーナーセンサー作動表示

3 バックセンサー作動表示

■ モニター画面の表示（スーパーライブサウンドシステム装着車）

障害物を感知すると自動的に表示されます。

1 バックガイドモニター・サイドモニター非表示時

表示されないように設定することができます。(→P. 195)

2 バックガイドモニター・サイドモニター表示時

画面上に簡略表示されます。
(左の画面はバックガイドモニターの場合です。)

距離表示の見方

■ コーナーセンサー

障害物までのおおよその距離	マルチインフォメーションディスプレイ表示	モニター表示	
			割り込み表示
フロント 約 50 ～ 37.5cm リア 約 55 ～ 37.5cm	（点灯）	（点灯）	（点滅）
約 37.5 ～ 25cm	（点灯）	（点灯）	（早い点滅）
約 25cm 以下	（点滅）	（点灯）	（点灯）

■ バックセンサー

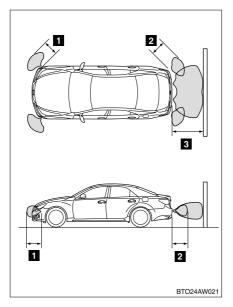
障害物までのおおよその距離	マルチインフォメーションディスプレイ表示	モニター表示（割り込み表示）
約 150 ～ 60cm	（点灯）	（遅い点滅）
約 60 ～ 45cm	（点灯）	（点滅）
約 45 ～ 35cm	（点灯）	（早い点滅）
約 35cm 以下	（点滅）	（点灯）

音声案内とブザー音

障害物を感知すると、ブザーが鳴ります。

スーパーライブサウンドシステム装着車は、ブザー音と同時に音声案内を行います。

- 障害物との距離が近づくと、ブザーの断続時間が短くなります。障害物との距離が以下のとき、ブザーは断続音「ピピピ」から連続音「ピー」になります。
  - ・ フロントコーナーセンサーまたはリヤコーナーセンサーが感知した障害物との距離が 25cm 以下
  - ・ バックセンサーが感知した障害物との距離が 35cm 以下
- 複数のセンサーが同時に障害物を感知しているときは、もっとも近い障害物との距離に合わせたブザー音が鳴ります。
  ただし、感知した障害物のどちらかが上記の距離より近づくと、ブザーは断続音「ピピピピピピ」と連続音「ピー」を繰り返します。また、両方が上記の距離より近づくと、ブザーは断続音「ピピ」と連続音「ピー」を繰り返します。
- ブザーの音量と鳴るタイミングは、変更することができます。(→P. 194)

障害物を感知する範囲

1 約 50cm（約 0.5m）

2 約 55cm（約 0.55m）

3 約 150cm（約 1.5m）

感知できる範囲は左図のとおりです。ただし、障害物がセンサーに近づきすぎると感知できません。

障害物の形状・条件によっては感知できる距離が短くなることや、感知できないことがあります。

音声案内・モニター画面表示・ブザーの設定（スーパーライブサウンドシステム装着車）

“ エンジン スタート ストップ ” スイッチがイグニッション ON モードのとき、クリアランスソナーの設定をすることができます。

手順 1 画面外の **設定・編集** を押す

手順 2 画面内の **運転支援** にタッチする

手順 3 画面内の **クリアランスソナー設定** にタッチする

■ ブザー音量設定

設定したい音量にタッチする

ブザー音量を調整することができます。

■ 画面表示の ON・OFF

画面内の **ソナー表示なし** にタッチする

- タッチするごとに、「表示される」と「表示されない」が切りかわります。
- 「表示されない」にすると、タッチスイッチの作動表示灯が点灯します。

障害物が感知されたとき、自動的にクリアランスソナー画面が表示されるかどうか設定することができます。

■ 画面表示・ブザータイミング

画面内の **切り替え** にタッチする

- タッチするごとに、感知範囲が「遠」（緑色、約 150cm 以内）と「近」（黄色、約 60cm 以内）に切りかわります。

バックセンサーの割り込み表示が表示される感知範囲と、ブザーが出力される感知範囲を調整することができます。

知識

■作動条件

- フロントコーナーセンサー：
  - ・“ エンジン スタート ストップ ” スイッチがイグニッション ON モードのとき
  - ・シフトレバーが P 以外にあるとき
  - ・車両の速度が約 10km/h 以下のとき
- リヤコーナーセンサー・バックセンサー：
  - ・“ エンジン スタート ストップ ” スイッチがイグニッション ON モードのとき
  - ・シフトレバーが R にあるとき

■クリアランスソナーに異常があるときは

マルチインフォメーションディスプレイに異常を知らせる画面が表示されます。（→P. 349）

■販売店で設定可能な機能

スーパーライブサウンドシステム非装着車のブザー音量やバックソナーの検知開始距離などの設定を変更できます。
(カスタマイズ機能一覧 →P. 390)

⚠ 警告

■クリアランスソナーをお使いになる前に

必ず次のことをお守りください。
お守りいただかないと思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- ●車両の速度が 10km/h を超えないようにしてください
- ●センサーの感知範囲、作動速度には限界があります。車を前進・後退するときは、必ず車両周辺(特に車両側面など)センサー感知範囲外の安全を確認し、ブレーキで車速を十分に制御し、ゆっくり運転してください
- ●センサーが感知する範囲にはアクセサリー用品などを取り付けないでください

■センサーについて

次のときクリアランスソナーが正常に作動しないことがあり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。注意して運転してください。

- ●センサーに氷、雪、泥などが付着したとき(取り除けば、正常に復帰します)
- ●センサー部が凍結したとき(解ければ、正常に復帰します)
- ●とくに低温時には凍結などにより異常表示が出たり、障害物があっても感知しないことがあります。
- ●センサーを手などで覆ったとき
- ●炎天下や寒冷時
- ●凸凹道、坂道、砂利道、草むら走行時など
- ●他車のホーン、オートバイのエンジン音、大型車のエアブレーキ音、他車のクリアランスソナーなどの超音波を発生するものが近付いたとき
- ●どしゃぶりの雨や水しぶきがかかったとき
- ●車両姿勢が大きく傾いたとき

警告

●市販のフェンダーポール、無線機アンテナを車に付けたとき

●けん引フックを取りつけたとき

●標識などの物体によっては感知距離が短くなります

●バンパー真下付近は感知しません

●センサーより低い物体や細い杭などは、一度感知しても接近すると突然感知しなくなることがあります。

●ソナーに障害物が近付きすぎたとき

●バンパーやセンサー部付近に物をぶつけたときや、たたくなどの強い衝撃を与えたとき

●トヨタ純正品以外のサスペンションを取り付けたとき

障害物の形状・条件によっては感知できる範囲が短くなることや、感知できないことがあります。

■**正確に感知できないことがある障害物**

次のような物は感知しないことがあります。注意して運転してください。

●針金、フェンス、ロープなどの細いもの

●綿、雪などの音波を吸収しやすいもの

●鋭角的なもの

●背の低いもの

●背が高く上部が張り出しているもの

特に人は衣類の種類によっても検知できない場合がありますので、常に目視で確認してください。

注意

■**洗車時の注意**

高圧洗車機を使用して洗車するときは、ソナー部に直接水を当てないでください。強い水圧により衝撃が加わり、正常に作動しなくなるおそれがあります。

運転を補助する装置

走行の安全性や運転性能を高めるため、走行状況に応じて次の装置が自動で作動します。ただし、これらの装置は補助的なものなので、過信せずに運転には十分に注意してください。

■ ABS（アンチロックブレーキシステム）

急ブレーキ時やすべりやすい路面でのブレーキ時にタイヤのロックを防ぎ、スリップを抑制します。

■ ブレーキアシスト

急ブレーキ時などにより大きなブレーキ力を発生させます。

■ ナビ・ブレーキアシスト*

メーカーオプションのナビゲーションシステムからの情報を利用したブレーキアシストです。別冊「ナビゲーションシステム取扱書」を参照してください。

■ VSC（ビークルスタビリティコントロール）

急なハンドル操作やすべりやすい路面で旋回するときに横すべりを抑え、車両の姿勢維持に寄与します。

ヒルスタートアシストコントロール*

上り坂やすべりやすい丘面で発進するときに、車が後退するのを緩和します。

■ TRC（トラクションコントロール）

すべりやすい路面での発進時や加速時に駆動輪の空転を抑え、駆動力を確保します。

■ EPS（エレクトリックパワーステアリング)

電気式モーターを利用して、ハンドル操作を補助します。

■ VGRS（バリアブルギヤレシオステアリング）*

車速やハンドルの動きに合わせてタイヤの切れる角度を制御します。

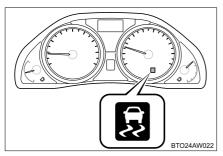
■ ＶＤＩＭ（ビークルダイナミクスインテグレイテッドマネージメント）

ABS・ブレーキアシスト・TRC・VSC・ヒルスタートアシストコントロール・EPS・ＶＧＲＳ を総合的に制御します。
すべりやすい路面の走行などで急なハンドル操作をした際に、ブレーキ・エンジン出力・ハンドル操作力・タイヤの切れる角度を制御することで、車両の安定性確保に貢献します。

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

■ AVS(アダプティブ バリアブル サスペンションシステム)＊

ＡＶＳは減衰力応答性に優れたショックアブソーバーとコンピューターによる減衰力制御を組み合わせたシステムです。路面の凸凹やハンドル操作などによる車両の挙動変化をショックアブソーバーが４輪独立で抑制・吸収することにより、最適な減衰力制御を行い、ソフトな乗り心地とフラットな操縦安定性を両立させています。

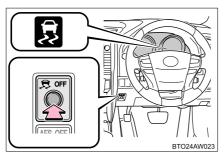
VSC、TRC、ヒルスタートアシストコントロールが作動しているとき

車両が横すべりしそうになったとき、タイヤが空転したとき、坂道発進をしたときは、VSC、TRC、ヒルスタートアシストコントロールの作動を表示するためにスリップ表示灯が点滅します。

ヒルスタートアシストコントロールの作動時、制動灯とハイマウントストップランプが点灯します。

＊：車両型式などで異なる装備やオプション装備

TRC や VSC を停止するには

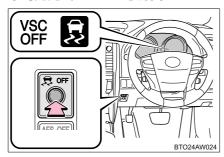
ぬかるみや新雪などから脱出するときに、TRC や VSC が作動していると、アクセルペダルを踏み込んでもエンジンの出力が上がらず、脱出が困難な場合があります。このようなときに、VSC OFF スイッチを押すことにより、脱出しやすくなります。

■ TRC を停止するには

TRCを停止するにはスイッチを押す

スリップ表示灯が点灯します。

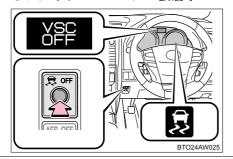
もう一度スイッチを押すと、システム作動可能状態にもどります。

■ TRC と VSC を停止するには

常時発光式メーター装着車

TRC と VSC を停止するには、停車時にスイッチを押し 3 秒以上保持します。

スリップ表示灯が点灯し、オプティトロンメーター装着車はマルチインフォメーションディスプレイに VSC OFF表示が表示され、常時発光式メーター装着車はメーター内にVSC OFF表示灯が点灯します。

もう一度スイッチを押すと、システム作動可能状態にもどります。

オプティトロンメーター装着車

知識

■TRC や VSC の自動復帰について

TRC や VSC を作動停止にしたあと、エンジンを停止すると自動的に TRC と VSC は作動復帰状態にもどります。

■TRC OFF の作動制限

TRC のみ作動を停止している場合は、車速が高くなると TRC は作動を再開します。ただし、TRC と VSC の作動を停止している場合は、車速による作動再開はありません。

■ABS・ブレーキアシスト・VSC・TRC・ヒルスタートアシストコントロール・VGRS の作動音と振動

●エンジン始動時・発進直後・停止時・ブレーキを繰り返し踏んだときに、エンジンルームから作動音が聞こえたり、ハンドルが“ピクッ”と動いたりすることがありますが、異常ではありません。

●上記のシステムが作動すると、次のような現象が発生することがありますが、異常ではありません。

・車体やハンドルに振動を感じる
・車両停止後もモーター音が聞こえる
・ABS の作動時に、ブレーキペダルが小刻みに動く
・ABS の作動終了後、ブレーキペダルが少し奥にはいる

■EPS モーターの作動音

・ハンドル操作を行ったとき、モーターの音（“ウィーン”という音）が聞こえることがありますが、異常ではありません。

■VGRS の作動が停止する場合

次の状況では、VGRS が作動を一時的に停止することがありますが、異常ではありません。

●停車中や極低速走行中に長時間ハンドルを回し続けたとき

●ハンドルをいっぱいに切った状態で長く力をかけ続けたとき
この場合、VGRS のモーターやコンピューターが過熱するのを防ぐため、システムの作動を一時的に停止することがあります。このため、低速走行時のハンドル操作量が多くなりますが、走行には支障ありません。その後、モーターやコンピューターの温度が下がれば、数分で正常な状態に復帰します。
また、モーターやコンピューターの温度が急激に上昇したときは、ハンドルの直進位置がずれる場合があります。頻繁にこの状態になる場合、トヨタ販売店で点検を受けてください。

●-30°C 程度の寒冷時でエンジン始動直後にハンドルを操作したとき
この場合、ハンドル操作量が多くなることがありますが、一時的に VGRS の作動を停止しているだけで異常ではありません。

これらの状況が改善されれば、システムは復帰します。

■低速時に素早くハンドル操作したときは

一時的にハンドルの直進位置がずれる場合がありますが、そのまま走行することで、自動的に正常な位置に復帰します。

■バッテリー端子の脱着をしたときは

VGRS が初期化されるため「VGRS システムチェック」がマルチインフォメーションディスプレイに表示されます。このとき、ハンドルの直進位置がずれる場合がありますが、通常のハンドル操作には支障はありません。ハンドルの直進位置は、そのまま走行することで、自動的に正常な位置に復帰します。

■EPS の効果が下がるとき

停車中か極低速走行中に長時間ハンドルを操作し続けると、オーバーヒートを避けるため EPS の効果が下がりハンドルが重く感じられるようになります。その場合は、ハンドル操作を控えるか、車を停車し、エンジンを停止してください。しばらくすると EPS の効果が改善されます。

警告

次の状況では、事故が起き、その結果重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ABS の効果を発揮できないとき

● タイヤのグリップ性能の限界を超えたとき

● 雨で濡れた路面やすべりやすい路面での高速走行時に、ハイドロプレーニング現象が発生したとき

■ABS が作動することで、制動距離が通常よりも長くなるとき

ABS は制動距離を短くする装置ではありません。次の状況では、常に速度を控えめにして前車と安全な車間距離をとってください。

● 泥、砂利の道路や積雪路を走行しているとき

● タイヤチェーンを装着しているとき

● 道路のつなぎ目など、段差をこえたとき

● 凹凸のある路面や石だたみなどの悪路を走行しているとき

■TRC の効果を発揮できないとき

すべりやすい路面では、TRC が作動していても、車両の方向安定性や駆動力が得られないことがあります。車両の安定性や駆動力を失うような状況では、とくに慎重に運転してください。

⚠ 警告

■スリップ表示灯が点滅しているときは

VSC・ＴＲＣ・ヒルスタートアシストコントロールが作動中であることを知らせています。常に安全運転を心がけてください。無謀な運転は思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。表示灯が点滅したら特に慎重に運転してください。

■TRC や VSC を OFF にするときは

TRC や VSC は駆動力や車両の方向安定性を確保しようとするシステムです。

そのため、必要なとき以外は TRC・VSC を作動停止状態にしないでください。TRC や VSC を作動停止状態にしたときは、路面状況に応じた速度で、特に慎重な運転を心がけてください。

■タイヤを交換するときは

4 輪とも指定されたサイズで、指定のメーカー・ブランド・トレッドパターン（溝模様）のタイヤを使用し、推奨された空気圧にしてください。（→P. 387）
異なったタイヤを装着すると、ABS、VSC が正常に作動しません。
タイヤ、またはホイールを交換するときは、トヨタ販売店に相談してください。

■タイヤとサスペンションの取り扱い

問題があるタイヤを使用したり、サスペンションを改造したりすると、運転を補助するシステムに悪影響をおよぼし、システムの故障につながるおそれがあります。

⚠ 注意

■VSC OFF スイッチについて

AFS 装着車は VSC OFF スイッチの下側に、同じ形状の AFS OFF スイッチ（→P. 165）があるため、押し間違えないよう注意してください。

ヒルスタートアシストコントロール*

急な上り坂やすべりやすい丘面を発進するときに、車両が後退するのを緩和し発進を容易に行うことができます。

車両が完全に停止している状態で、更にブレーキペダルを踏み込むと“ピッ”とブザーが鳴り、スリップ表示灯が点滅します。

知識

■ヒルスタートアシストコントロールについて

- ●ヒルスタートアシストコントロールの作動時間は、ブレーキペダルから足を離して約 2 秒間です。
- ●ヒルスタートアシストコントロールが作動しているときは、ブレーキペダルを踏んでいなくても制動灯とハイマウントストップライトが点灯します。
- ●ブレーキペダルを踏み込んでもスリップ表示灯が点滅せず、ブザーが鳴らないときは、一度ブレーキペダルを踏む力を弱めてください。（車両が後退しない程度）そのあともう一度ブレーキペダルを踏み込んでください。
それでも作動しないときは次の作動条件を確認してください。

■ヒルスタートアシストコントロールの作動条件について

- ●次の状態のときに、ヒルスタートアシストコントロールは作動します。
  - ・シフトレバーが P 以外の位置のとき
  - ・パーキングブレーキがかかっていないとき
  - ・アクセルペダルを踏んでいないとき
- ●マルチインフォメーションディスプレイに VSC システムチェックが表示されているときは、ヒルスタートアシストコントロールは作動しません。
- ●スリップ表示灯が点灯し、VSC OFF 表示灯が点滅しているときは、ヒルスタートアシストコントロールは作動しません。

＊：車両型式などで異なる装備やオプション装備

■ヒルスタートアシストコントロール制御ブザーについて

●ヒルスタートアシストコントロールが制御可能状態になると“ピッ”とブザーが 1 回鳴ります。（シフトレバーが R の位置以外）

●ヒルスタートアシストコントロールが作動中に次の状態になると、制御終了状態になり“ピッピッ”とブザーが 2 回鳴ります。（シフトレバーが R の位置以外）

・ブレーキペダルから足を離して、約 2 秒間運転操作を行わなかったとき
・シフトレバーを P の位置にしたとき
・パーキングブレーキをかけたとき
・ブレーキペダルを再度踏み込んだとき
・ブレーキペダルから足を離さずに約 3 分以上経過したとき

●シフトレバーが R の位置での使用は、ヒルスタートアシストコントロールの制御開始・終了を知らせるブザーは鳴らず、スリップ表示灯の点滅・消灯で作動状態をお知らせします。

警告

■ヒルスタートアシストコントロールについて

●ヒルスタートアシストコントロールを過信しないでください。急勾配の坂や、凍った路面ではヒルスタートアシストコントロールが効かないことがあります。

●ヒルスタートアシストコントロールはパーキングブレーキのように車を長時間停車するための機能ではありませんので、同機能を坂道での長時間の駐停車のために使用しないでください。思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

PCS（プリクラッシュセーフティシステム）*

レーダーセンサーにより、前方の車両や障害物との衝突が予測されたときに、警報により運転者に対して回避操作をうながし、衝突の防止に役立ちます。また、前方の障害物と衝突が避けられないと検知したとき、自動的にシートベルトやブレーキなどに働きかけ、衝突被害の低減に寄与します。

■ 衝突警告表示

衝突の可能性が高い場合には、“ピピピ‥”とブザー音が鳴り、PCS 警告灯が点滅、衝突警告表示を出し、回避操作をうながします。

■ プリクラッシュシートベルト

プリクラッシュセンサーにより衝突物が検知され、衝突が避けられないと判断したとき、衝突前にシートベルトを巻き取ります。
また、急ブレーキをかけたときや、車がコントロールを失ったときも同様に作動します。（→P. 61）

■ プリクラッシュブレーキアシスト

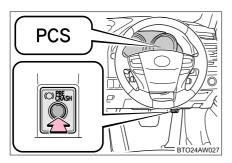
ブレーキペダルが踏まれる強さに反応してブレーキ力の増強に貢献します。

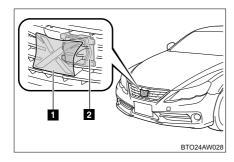
■ プリクラッシュブレーキ

衝突の可能性が高いときに警告灯、警告表示、ブザー音で危険を知らせ、さらに衝突が避けられないと判断したときは、ブレーキが自動でかかり、衝突被害の低減に貢献します。スイッチを使って、プリクラッシュブレーキの ON/OFF 切りかえができます。

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

プリクラッシュブレーキの切りかえ

プリクラッシュブレーキ OFF スイッチを押すことにより、プリクラッシュブレーキの ON/OFF 切りかえができます。

プリクラッシュブレーキをOFFにすると PCS 警告灯が点灯します。

レーダーセンサー

走行中に進路上またはその付近に車や物があるかどうかを検知し、その物の位置や車速、進路から衝突するおそれがあるかどうか判断します。

1 グリルカバー

2 レーダーセンサー

知識

■システムの作動条件

●プリクラッシュシートベルトの作動条件 (衝突が避けられないと判断した時の作動)

・ フロント席の乗員がシートベルトを着けている
・ 車速が約 5 km/h 以上
・ 自車からみた対向車か障害物の接近速度が約 30 ～約 40 km/h 以上

●プリクラッシュシートベルトの作動条件(急ブレーキをかけた時や、車がコントロールを失ったと判断した時の作動)

・ フロント席の乗員がシートベルトを着けている
・ 車速が約 30 km/h 以上
・ 急ブレーキや、車両の横すべりを判断したとき

●プリクラッシュブレーキアシストへの作動条件：

・ 車速が約 30 km/h 以上
・ 自車からみた先行車や障害物の接近速度が約 30 ～約 40 km/h 以上
・ ブレーキペダルが踏まれているとき

●プリクラッシュブレーキの作動条件：

・ プリクラッシュブレーキ OFF スイッチが押されていないとき
・ 自車速度が約 15 km/h 以上
・ 自車からみた先行車や障害物との接近速度が約 15 km/h 以上

■センサーが検知しない場合

パイロンなどのプラスチック類は検知できません。人や動物・二輪車・木・雪の吹きだまりなどは検知しない場合があります。

■システムの作動しない環境

プリクラッシュセーフティシステムは、想定されてない状況では有効に作動しないこともあります。

●きついカーブや起伏がある場所

●凍結路や積雪路などのすべりやすい路面状態の場所

●交差点などで、自車の進行方向に急な飛び出しがある状況

●自車の進行方向に車の急な割り込みがある状況

●雨、霧、雪、砂嵐等の悪天候の状況

●車が横すべりしている状態

■システムの自動解除

システムの異常が検知された場合、センサーが障害物を検知できない状況（センサーの汚れなど）ではシステムの動作が自動的に解除されます。このような場合には衝突の危険があってもシステムは有効に作動しません。

■衝突の可能性がなくてもシステムが作動するとき

衝突の可能性がなくても、次の場合、システムが作動することがあります。

●カーブ入り口に障害物があったとき

●カーブで、対向車とすれ違ったとき

●狭い鉄橋を走行したとき

●路面に金属物があったとき

●凹凸のある路面を走行したとき

●右折時に対向車とすれ違ったとき

●前を走っている車に急に近づいたとき

●前車に急接近したとき

●ＥＴＣ ゲートを通過するとき

●歩道橋や高架下などを通過したとき

●道路上の標識や案内看板などあったとき

●車高が極端に変化している場合 (ノーズアップ・ノーズダウン)

●ミリ波レーダーの軸ズレが発生しているとき

●路面の勾配の為、衝突しない位置の金属物が進行方向に見えるとき

また、このとき、シートベルトがすばやく引きもどされたり、ブレーキをかけたときに通常よりブレーキが強くかかったりすることがあります。シートベルトが巻き取られた状態でロックした場合は車を安全な場所に止めてシートベルトをはずし、再度装着してください。

■システムに異常があるときは

警告灯や警告表示が点灯または点滅します。(→P. 343、P. 347)

警告

■安全にお使いいただくために

安全運転を行う責任は運転者にあります。常に周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。
プリクラッシュセーフティシステムは運転者が衝突の危険を見逃してしまった場合に、警報やブレーキ制御により運転者を支援するものです。本システムだけで衝突を回避したり、安全に停止するというものではないため、システムの機能を過信すると重大な事故につながることも考えられます。また、状況によっては有効に機能しないことがあります。

■システムの支援内容に関する注意点

プリクラッシュセーフティシステムは、警報やブレーキ制御により衝突回避支援を行うために、運転者が「見る」、「判断する」、「操作する」過程で、支援を行います。システムの支援には限界があるため、次の点に注意してください。

●運転者が見る過程での支援内容
プリクラッシュセーフティシステムは、前方の障害物を可能な範囲で検知するのみであり、わき見やぼんやり運転を許容する装置でも、視界不良を補助する装置でもありません。運転者自らが周囲の状況に注意を払う必要があります。

●運転者が判断する過程での支援内容
プリクラッシュセーフティシステムは、検知しうる前方の障害物の情報のみから衝突の危険性を判断するものです。安全の確保の判断は運転者自らが行う必要があります。

●運転者が操作する過程での支援内容
被害軽減制動制御は、衝突が避けられないと判断した段階で作動するもので、単独で衝突を回避したり、安全に停止させるものではありません。このため、危険性があれば自らが安全を確保する必要があります。

警告

■レーダーセンサーの取り扱い

プリクラッシュセーフティシステムが効果を発揮できるように次のことをお守りください。

- センサーとグリルカバーは常にきれいにしておく。
お手入れをする際は、センサーやグリルカバーを傷つけないよう、やわらかい布を使ってください。
- センサー周辺への強い衝撃を避ける。
センサーの位置がずれると、システムに異常が起こるおそれがあります。強い衝撃を受けた際は、必ずトヨタ販売店にて点検を受け、調整してもらってください。
- センサーを分解しない。
- センサーに貼られているラベルは電波法の基準に適合している証明ですので、はがさないでください。分解、改造すると電波法の基準に適合しなくなる場合があります。
- センサーやグリルカバー周辺にアクセサリーをつけたり、ステッカーを貼ったりしない。

荷物を積むときの注意

安全で快適なドライブをするために、荷物を積むときは次のことをお守りください。

- できるだけ荷物はトランクに積む。
- 荷物が安全な位置に置かれているか確認する。
- 走行中のバランスを維持するために重さが偏らないように積む。
- 燃費が悪化しないようにするために、不要な荷物は積まないようにする。

⚠ 警告

■積んではいけないもの

次のようなものを積むと引火するおそれがあり危険です。

- 燃料が入った容器
- スプレー缶

■荷物を積むときは

- 次の場所には荷物を積まないでください。
  お守りいただかないと、ブレーキ・アクセルペダルを正しく操作できなかったり、荷物が視界をさえぎったり、荷物が乗員に衝突したりして、思わぬ事故につながるおそれがあります。
  - ・運転席足元
  - ・助手席や後席（荷物を積み重ねる場合）
  - ・パッケージトレイ
  - ・インストルメントパネル
  - ・ダッシュボード
  - ・フタのない小物入れ / トレイ
- 室内に積んだ荷物はすべてしっかりと安定させてください。
  安定していないと、急ブレーキや事故の際に投げ出され、乗員を傷つけるおそれがあります。

警告

- 後席のシート背もたれを折りたたんで、寸法が長い荷物を積むときは、できるだけ前席シート背もたれの真うしろには積まないでください。
- トランクルームに人を乗せないでください。乗員用には設計されていません。乗員は、適切にシートベルトを着用させ、座席に座らせてください。
お守りいただかないと、急ブレーキや衝突の際に、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■**荷物の重量・荷重のかけ方について**

- 荷物を積み過ぎないでください。
- 荷重を不均等にかけないようにしてください。
これはタイヤに負担をかけるだけでなく、ハンドル操作性やブレーキ制御の低下により思わぬ事故につながり、重大な傷害を受けるか最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

寒冷時の運転

寒冷時に備えて、準備や点検など正しく処置していただいたうえで適切に運転してください。

■ 冬の前の準備

● 次のものはそれぞれ外気温に適したものをお使いください。

・ エンジンオイル
・ 冷却水
・ ウォッシャー液

● バッテリーの液量・比重を点検してください。

● 冬用タイヤ（4 輪）やタイヤチェーン（後部タイヤ用）を用意してください。

タイヤは 4 輪とも指定サイズで同一銘柄のものを、タイヤチェーンはタイヤサイズに合ったものを用意してください。（→P. 387）

■ 運転する前に

状況に応じて次のことを行ってください。

● ドアやワイパーが凍結したときは無理に開けたり動かしたりせず、ぬるま湯をかけるなどして氷を溶かし、すぐに水分を十分にふき取ってください。

● フロントウインドウガラス前の外気取り入れ口に雪が積もっているときは、エアコンのファンを正常に作動させるために、雪を取り除いてください。

● 足まわりに氷がついているときは、氷を取り除いてください。

● フェンダー部分やブレーキ装置に雪や氷がついているときは、取り除いてください。

■ 運転するときは

ゆっくりスタートし、控えめな速度で走行してください。

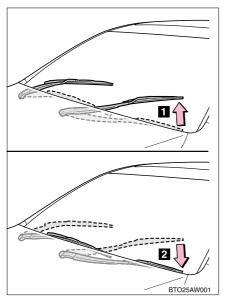
■ 駐車するときは

パーキングブレーキをかけると、ブレーキ装置が凍結して解除できなくなるおそれがあります。パーキングブレーキはかけずに、シフトレバーを P に入れて駐車し、輪止め※をしてください。

※：輪止めは、トヨタ販売店で購入することができます。

ワイパー停止位置の切りかえ（寒冷地仕様車）

積雪や凍結のおそれがある場合は、あらかじめフード下に格納されているワイパーを積雪時の停止位置に切りかえておきます。

ワイパーアームのフック部をしっかり持ってワイパーの停止位置の切りかえを行ってください。

1 積雪時の停止位置にする：
ガラス面にそって引き上げます。

2 通常の停止位置にもどす：
フック上部を手で押します。

ワイパーを立てるときは、積雪時の停止位置に切りかえてから立ててください。

知識

■寒冷地用ワイパーブレードについて

●降雪期に使用する寒冷地用ワイパーブレードは雪が付着するのを防ぐために金属部分をゴムで覆ってあります。トヨタ販売店で各車指定のブレードをお求めください。

●高速走行時は、通常のワイパーブレードよりガラスがふき取りにくくなることがあります。その場合には速度を落としてください。

■タイヤチェーンについて

取りつけ・取りはずし・取り扱い方法については次の指示にしたがってください。

・安全に作業できる場所で行う
・後 2 輪に取りつける
・タイヤチェーンに付属の取扱書にしたがう
・取りつけ後 0.5 ～ 1.0km 走行したら締めなおしを行う

警告

■冬用タイヤ装着時の警告

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、車両のコントロールが不能となり、重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡事故につながるおそれがあります。

- 指定サイズのタイヤを使用する
- 空気圧を推奨値に調整する
- お使いになる冬用タイヤの最高許容速度や制限速度を超える速度で走行しない

■タイヤチェーン装着時の警告

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、安全に車を運転することができずに、思わぬ事故につながり、重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡事故につながるおそれがあります。

- 装着したチェーンに定められた制限速度、もしくは 30 km/h のどちらか低いほうを超える速度で走行しない
- 路面の凹凸や穴を避ける
- 急ハンドル、急ブレーキを避ける
- カーブの入り口手前で十分減速して車のコントロールを失うのを防ぐ

■駐車時の警告

パーキングブレーキをかけずに駐車するときは、必ず輪止めをしてください。輪止めをしないと、車が動き思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

注意

■**タイヤチェーンの使用について**

●必ずマーク X 指定のトヨタ純正品を使用してください。
上記のチェーン以外のタイヤチェーンを使用すると、車体に当たり、走行のさまたげとなるおそれがあります。
詳しくはトヨタ販売店にご相談ください。

●アルミホイール*にタイヤチェーンを取りつけるとホイールに傷がつくことがあります。

■**フロントウインドウガラスについた氷を除去するときは**

たたいて割らないでください。
ウインドウガラスの内側（車内側）が割れるおそれがあります。

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

室内装備の使い方 3

3-1. エアコン・デフォッガーの使い方

3-2. オーディオの使い方

3-3. 室内灯のつけ方

3-4. 収納装備の使い方

3-5. その他の室内装備の使い方

オートエアコン

設定温度にあわせて吹き出し口と風量を自動で調整します。

吹き出し口表示
花粉除去
エアコンの ON・OFF
風量表示
吹き出し口切りかえ
プラズマクラスター＊
助手席温度表示
運転席温度表示
運転席温度調整
送風停止
助手席温度調整
独立 / 連動モード切りかえ
リヤウインドウデフォッガー＆ミラーヒーター＊
オート設定
風量切りかえ
内気 / 外気切りかえ
フロントガラス曇り取り
BTO38AW001

オート設定を使うとき

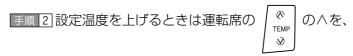
■ 連動モード

運転席と助手席の設定温度を同じにします。（ 助手席の設定温度が運転席と同じになります ）

手順 1 AUTO を押す

エアコンが作動し吹き出し口と風量を自動で調整します。

連動モード時は DUAL の作動表示灯が消灯します。

手順 2 設定温度を上げるときは運転席の TEMP の∧を、

下げるときは∨を押す

＊ : 車両型式などで異なる装備やオプション装備

■ 独立モード

運転席と助手席の設定温度を独立してかえることができます。

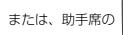
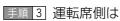
を押す

エアコンが作動し、吹き出し口と風量を自動で調整します。

を押す (作動表示灯が点灯)

または、助手席の
を押す

運転席側は
、助手席側は
を押し、温度を調整する

再び

を押すと、作動表示灯が消灯し連動モードになります。

お好みの設定で使うとき

■ エアコンの ON・OFF を切りかえるには

を押す

スイッチを押すたびにエアコンの ON・OFF が切りかわります。

■ 設定温度をかえるには

運転席側は
、助手席側は
を押し、温度を調整する

連動モード使用時、助手席側の
を押すと独立モードに切りかわります。

■ 風量をかえるには

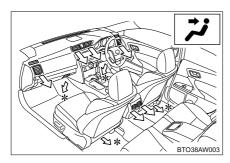
風量切りかえスイッチの　（増）か　（減）を押す

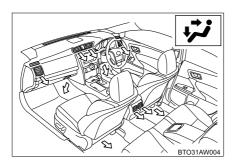
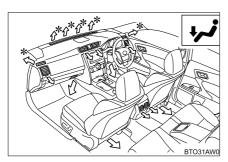
風量は７段階に調整できます。

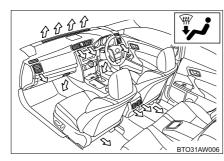
送風を止めるときは　を押す

■ 吹き出し口を切りかえるには

 を押す

押すたびに吹き出し口が切りかわります。

上半身に送風

＊冷房時に、AUTO スイッチを ON にすると送風されることがあります。

上半身と足元に送風

足元に送風

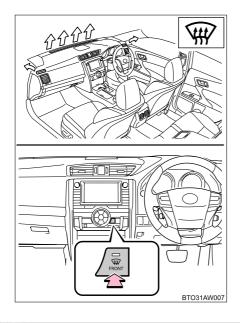
＊室内温度などの条件によっては、送風される場合があります。
また、AUTO スイッチが ON のとき、送風されます。

足元に送風・ガラスの曇りを取る

■ 外気導入・内気循環を切りかえるには

 を押す

スイッチを押すたびに、外気導入・内気循環が切りかわります。

内気循環を選択しているときは、 の作動表示灯が点灯します。

フロントウインドウガラスの曇りを取るには

を押す

エアコンが作動します。

曇りが取れたら再度

を押すと前のモードにもどります。

花粉除去機能を使うには

 を押す

内気循環に切りかわり、上半身に送風して花粉を除去します。通常約３分後に（外気温が低いときは 約１分後に） を押す前のモードにもどります。

途中で動作を止めるときは再度 を押すと前のモードにもどります。

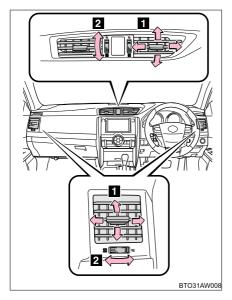
プラズマクラスター® を使うには*

か　　を押してファンを作動させる

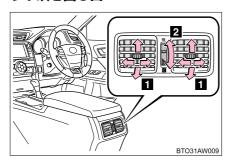
ファンが作動すると、自動的にプラズマクラスターが作動します。
モードの切りかえは自動で行われます。プラズマクラスター® イオンのときはCLEAN、マイナスイオンモードのときは ION の表示が表示されます。

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

風向きの調整と吹き出し口の開閉

中央吹き出し口

1 風向きの調整

2 吹き出し口の開閉

リヤ吹き出し口

1 風向きの調整

2 吹き出し口の開閉

知識

■オート設定の作動について

風量は温度設定と外気の状態により自動で調整されます。次のような制御をする場合があります。

● AUTO を押した直後、温風や冷風の準備ができるまでしばらく送風が停止する

●暖房時、冷風を上半身に向けて送る

■内気循環について

内気循環を使うとガラスが曇る場合があります。

■内外気切りかえについて

設定温度や室内温度などにより、自動的に内気循環または外気導入へ切りかわる場合があります。

■外気温度が0℃以下のとき

を押してもエアコンが作動しない場合があります。

■フロントウインドウガラスの曇りを取るとき

内外気の温度によって自動的に外気導入に切りかわる場合があります。

知識

■花粉除去モードについて

●外気温が低いときは、フロントガラスの曇りを防止するために次のような制御をする場合があります。

・内気循環に切りかわらない
・エアコンの電源が自動的に入る
・1 分後作動が停止する

●雨天時は窓が曇るため、

を押してください。

●湿度が非常に高いときに使うとガラスが曇る場合があります。

●花粉除去モードが OFF のときも花粉はフィルターで取り除かれています。

■プラズマクラスター® について（プラズマクラスター装着車）

●中央吹き出し口付近で静電気を感じたり、小さな作動音が聞こえることがありますが異常ではありません。

●プラズマクラスター、プラズマクラスターイオンおよび Plasmacluster はシャープ株式会社の商標です。

■水加熱ヒーターシステムについて（寒冷地仕様車）

エンジン冷寒時の暖房効果を高めます。
エコドライブモード OFF（→P. 137）で最大暖房時に、コンピューターが急速暖房を必要と判断した場合、自動的に水加熱ヒーターシステムが作動します。エンジンが暖まると自動的に作動が停止します。

警告

■フロントウインドウガラスの曇りを防止するために

湿度が非常に高いときにエアコンを低い設定温度で作動させているときは を押さないでください。外気とガラスの温度差でガラスの外側が曇り視界をさまたげる場合があります。

■プラズマクラスター® について（プラズマクラスター装着車）

●プラズマクラスター® は、高電圧を利用しています。危険ですので、修理などは必ずトヨタ販売店にご相談ください。

●中央吹き出し口付近にスプレーを噴霧したり、棒などの異物を挿入したりしないでください。故障や感電の原因となります。

注意

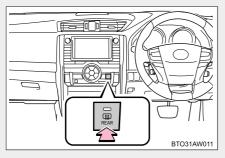
■バッテリーあがりを防ぐために

エンジン停止中はエアコンを使用しないでください。

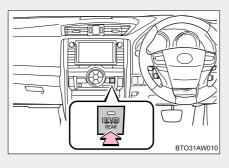
リヤウインドウデフォッガー（曇り取り）

リヤウインドウの曇りを取るときや、ドアミラーから雨滴や霜を取る※ときに使用ください。

※：ミラーヒーター装着車のみ

ミラーヒーター非装着車

ON ／ OFF を切りかえる

リヤウインドウデフォッガーは、約 15 分で自動的に OFF になります。ただし、外気温や車速などの条件により最大約 60 分間作動することがあります。

ミラーヒーター装着車

ON ／ OFF を切りかえる

リヤウインドウデフォッガーとミラーヒーターは、約 15 分で自動的に OFF になります。ただし、外気温や車速などの条件により最大約 60 分間作動することがあります。

知識

■作動条件

スマートエントリー&スタートシステム非装着車

エンジン スイッチが“ ON”のとき

スマートエントリー&スタートシステム装着車

“ エンジン スタート ストップ ”スイッチがイグニッション ON モードのとき

■ミラーヒーターについて (ミラーヒーター装着車)

リヤウインドウデフォッガーを ON にするとミラーヒーターも同時に作動します。

警告

■ミラーヒーター作動中の警告 (ミラーヒーター装着車)

ドアミラーの表面が非常に熱くなります。やけどをするおそれがあるので触れないでください。

注意

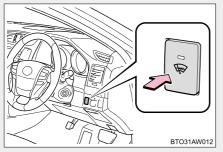
■バッテリーあがりを防ぐために

連続して長時間使用すると、バッテリーあがりの原因となります。

フロントワイパーデアイサー＊

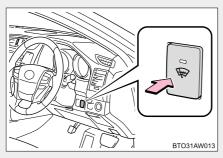
フロントガラスとワイパーブレードの凍結を防ぐためにお使いください。

スマートエントリー&スタートシステム非装着車

BTO31AW012

ON ／ OFF を切りかえる

フロントワイパーデアイサーは、約 15 分で自動的に OFF になります。

スマートエントリー&スタートシステム装着車

BTO31AW013

ON ／ OFF を切りかえる

フロントワイパーデアイサーは、約 15 分で自動的に OFF になります。

⚠ 警告

■作動中の警告

フロントウインドウガラス下部、およびフロントピラー横の表面が熱くなっており、やけどをするおそれがあるのでふれないでください。

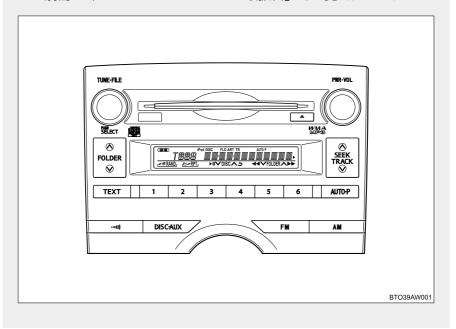
＊：車両型式などで異なる装備やオプション装備

オーディオの種類（ナビゲーションシステム非装着車）*

ナビゲーションシステム非搭載車

CD プレーヤー、AM/FM ラジオ

ナビゲーションシステム搭載車

メーカーオプションのナビゲーションシステム装着車にお乗りの方は、別冊の「ナビゲーションシステム取扱書」をご覧ください。

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

知識

■携帯電話の使用

オーディオを聞いているときに、車内または車の近くで携帯電話を使用した場合、オーディオのスピーカーから雑音が聞こえるときがあります。

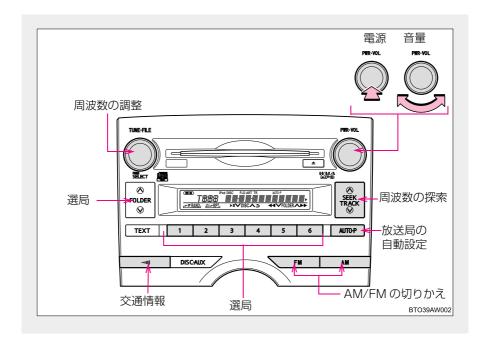
注意

■バッテリーあがりを防止するために

エンジン停止中にオーディオを長時間使用しないでください。

■オーディオの取り扱いについて

オーディオに飲み物などをこぼさないように注意してください。

ラジオの使い方

放送局を記憶させる

■ 手動設定

手順 1 を回して、または の "Λ"（高い周波数）または "V"（低い周波数）を押して、お好みの放送局を探す

手順 2 記憶させたいスイッチ 1 ～ 6 を " ピッ" と音が鳴るまで長押しする

■ 自動設定

AUTO・P を " ピッ " と音が鳴るまで長押しする

受信感度の良い順に 6 局まで記憶されます。記憶が終了すると " ピッピッ" と音が鳴ります。

交通情報を受信する

[·ııll] を押す

もう一度押すと解除されます。

知識

■ [·ııll] について

● 新車時は、1620kHz にセットしてあります。

● AMラジオモードのとき [·ııll] を "ピッ" と音が鳴るまで押し続けると、その周波数を [·ııll] に記憶させることができます。ただし、バッテリーとの接続が断たれたときは、1620kHz にもどります。

● [·ııll] を 押して、ラジオを受信しているときは、[SEEK TRACK] ・ [TUNE·FILE PUSH SELECT] ・ [1] ～ [6] ・ [AUTO·P] を操作しても、周波数は切りかわりません。

■ バッテリーとの接続が断たれたときは

[1] ～ [6] に設定されていた放送局が消去されます。

■ 受信感度について

● アンテナの位置がそのときどきで変わるため、電波の強さがかわったり、障害物や電車、信号機などの影響により良好な受信状態を保つことが難しい場合もあります。

● [AUTO·P] を使っているとき、自動選局や自動記憶ができないことがあります。

● ラジオ用アンテナはリヤガラスに埋め込まれています。

CD プレーヤーの使い方

電源　音量

CD の取り出し

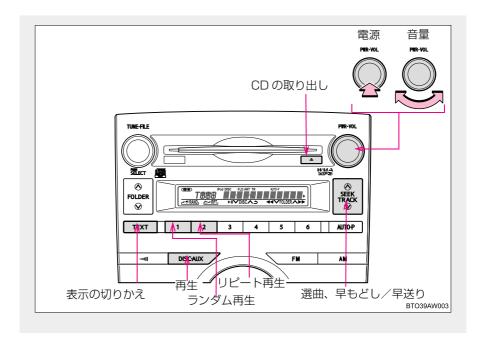
表示の切りかえ

再生

ランダム再生

リピート再生

選曲、早もどし／早送り

BTO39AW003

CD を挿入する

CD を挿入する

CD を取り出す

▲ を押して CD を取り出す

曲を選ぶ

の "Λ"（次曲）または "V"（前曲）を押して聞きたい曲の番号を表示させる

早もどし、早送りする

早送りするには、 の "Λ"（早送り）または "V"（早もどし）を 押し続ける

ランダム（RAND）再生する

1 （RAND）を押す

リピート（RPT）再生する

2 （RPT）を押す

表示を切りかえる

TEXT を押す

押すごとに、次のように表示が切りかわります。
曲番および経過時間 → CD タイトル → 曲名

知識

■表示について

ディスプレイに一度に表示できるのは 12 文字までです。
CD タイトル、または曲名が 13 文字以上の場合は、TEXT を 1 秒間以上押し続けることにより、13 文字以降を表示できます。
表示できるのは最大で 24 文字です。
TEXT をもう一度 1 秒間以上押す、または約 6 秒以上操作をしないまま放置すると、もとの 12 文字目までの表示にもどります。
記録されている内容によっては、正しく表示されなかったり、表示自体されないことがあります。

■ランダム再生、リピート再生の解除

もう一度 1 （RAND）または 2 （RPT）を押します。

■エラー表示

"ERROR"：ディスクが汚れているときや、裏表逆などで読み取りができないとき、もしくはプレイヤー内部に異常があるときに表示されます。

■再生可能な CD

次のマークのついたディスクが再生できます。記録状態やディスクの特性、キズ、汚れ、劣化により再生できないことがあります。

コピープロテクト機能付 C D などは使用できません。

■CD プレーヤー保護機能

プレーヤー内部を保護するため、使用中に異常が生じたときは自動的に再生が停止します。

■CD をプレーヤー内部に、またはプレーヤーから飛び出した状態のままで長時間放置すると

CD が傷つき使用できなくなるおそれがあります。

■レンズクリーナー

レンズクリーナーを使用しないでください。使用すると、プレーヤーが故障するおそれがあります。

注意

■使用できない CD、アダプター

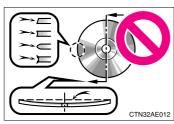
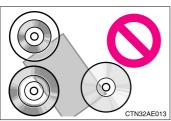
次のような CD や 8cm CD アダプター、Dual Disc を使用しないでください。使用すると、プレーヤーが故障したり、CD の出し入れができなくなるおそれがあります。

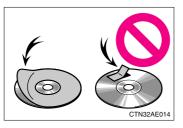
CTN32AE011

●直径 12cm の円形以外の CD

CTN32AE012

●低品質または変形している CD

CTN32AE013

●記録部分が透明または半透明の CD

CTN32AE014

●セロハンテープ、シール、CD-R 用ラベルなどを貼った CD や、はがしたあとのある CD

⚠ 注意

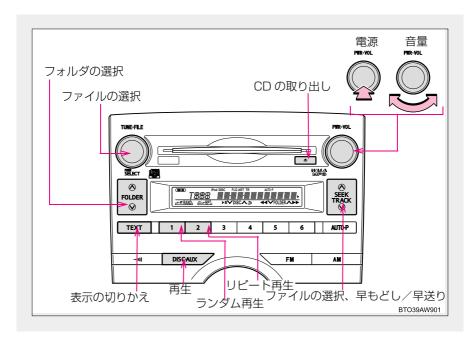
■CD プレーヤーの取り扱いについて

次のことをお守りいただかないと、CD が聞けなくなったり、CD プレーヤーが正常に働かなくなるおそれがあります。

- CD 挿入口に CD 以外のものを入れない
- CD プレーヤーにオイルを塗ったりしない
- CD は直射日光を避けて保管する
- CD プレーヤーを分解しない
- 変形したディスクを使用しない

- 一度に２枚以上の CD を挿入しない

MP3/WMA ディスクの聞き方

電源
PWR·VOL
音量
PWR·VOL
フォルダの選択
ファイルの選択
CD の取り出し
TUNE·FILE
PUSH SELECT
FOLDER
SEEK TRACK
TEXT
1
2
3
4
5
6
AUTO·P
DISC·AUX
FM
AM
表示の切りかえ
再生
ランダム再生
リピート再生
ファイルの選択、早もどし／早送り
BTO39AW901

MP3/WMA ディスクを挿入する、または取り出す

詳細は「CD プレーヤーの使い方」をご覧ください。（→P. 239）

早もどし、早送りする

詳細は「CD プレーヤーの使い方」をご覧ください。（→P. 240）

フォルダを選ぶ・最初のフォルダに戻る

FOLDER の "Λ"（次フォルダ）または の "V"（前フォルダ）を押して聞きたいフォルダを選ぶ

最初のフォルダに戻るには、"V" を " ピッ " と音が鳴るまで押します。

ファイルを選択する

を回して、または
の "∧"（次ファイル）または "V"（前ファイル）を押して、聞きたいファイルを探す

ファイルを繰り返して再生する

2（RPT）を押す

フォルダを繰り返して再生する

2（RPT）を " ピッ " と音が鳴るまで押す

ランダム（RAND）再生する

■ 特定のフォルダの中から無作為にファイルを再生するには

1（RAND）を押す

■ ディスクの中から無作為にすべてのファイルを再生するには

1（RAND）を " ピッ " と音が鳴るまで押す

表示を切りかえる

TEXT を押す

押すごとに、次のように表示が切りかわります。
フォルダ番号・ファイル番号・経過時間 → フォルダタイトル → ファイル名 → ディスクタイトル（MP3 のみ） → 曲名 → アーティスト名

知識

■表示について

ディスプレイに一度に表示できるのは 12 文字までです。
CD タイトル、または曲名が 13 文字以上の場合は、TEXT を 1 秒間以上押し続けることにより、13 文字以降を表示できます。
表示できるのは最大で 24 文字です。
TEXT をもう一度 1 秒間以上押す、または約 6 秒以上操作をしないまま放置すると、もとの 12 文字目までの表示にもどります。
記録されている内容によっては、正しく表示されなかったり、表示自体されないことがあります。

■ランダム再生、リピート再生の解除

もう一度 1 （RAND）または 2 （RPT）を押します。

■エラー表示

“ERROR”：ディスクが汚れているときや、裏表逆などで読み取りができないとき、もしくはプレイヤー内部に異常があるときに表示されます。

“NO MUSIC”：ディスク内に MP3/WMA ファイルが収録されていないときに表示されます。

■再生可能な CD

次のマークのついたディスクが再生できます。記録状態やディスクの特性、キズ、汚れ、劣化により再生できないことがあります。また、ファイナライズ処理されていないディスクは再生できません。

■CD プレーヤー保護機能

プレーヤー内部を保護するため、使用中に異常が生じたときは自動的に再生が停止します。

■CD をプレーヤー内部に、またはプレーヤーから飛び出した状態のままで長時間放置すると

CD が傷つき使用できなくなるおそれがあります。

■レンズクリーナー

レンズクリーナーを使用しないでください。使用すると、プレーヤーが故障するおそれがあります。

■MP3/WMA ファイルについて

MP3（MPEG Audio LAYER3）は、音声圧縮技術に関する標準フォーマットです。
MP3 を使用すれば、元のファイルを約 1/10 のサイズに圧縮することができます。

WMA（Window Media™ Audio）は、Microsoft Corporation の音声圧縮フォーマットです。MP3 よりも小さいサイズに圧縮することができます。
使用できる MP3/WMA ファイルの規格やそれを記憶したメディア、フォーマットには制限があります。

●再生可能な MP3 ファイルの規格について

・対応規格
MP3 (MPEG1　LAYER3、MPEG2　LSF　LAYER3)
・対応サンプリング周波数
MPEG1 LAYER3：32、44.1、48 (kHz)
MPEG2 LSF LAYER3：16、22.05、24 (kHz)
・対応ビットレート
MPEG1 LAYER3：64、80、96、112、128、160、192、224、256、320 (kbps)
MPEG2 LSF LAYER3：64、80、96、112、128、144、160 (kbps)
※ VBR に対応しています。
・対応チャンネルモード：ステレオ、ジョイントステレオ、デュアルチャンネル、モノラル

●再生可能な WMA ファイルの規格について

- 対応規格
  WMA Ver.7、8、9
- 対応サンプリング周波数
  32、44.1、48 (kHz)
- 対応ビットレート
  Ver.7、8：CBR48、64、80、96、128、160、192 (kbps)
  Ver.9：CBR48、64、80、96、128、160、192、256、320 (kbps)
  ※ 2ch 再生のみ対応しています。

●使用できるメディアについて
MP3/WMA ファイルの再生使用できるメディアは CD-R および CD-RW です。
CD-R、CD-RW の状態によっては再生できないことがあります。また、ディスクに傷や指紋をつけた場合、再生できないことや、音飛びすることがあります。

●使用できるディスクのフォーマットについて
使用できるメディアのフォーマットは下記の通りです。

- ディスクフォーマット：CD- ROM Mode1 および Mode2、CD- ROM XA、Mode2 Form1 および Form2
- ファイルフォーマット：IS 09660 レベル 1、レベル 2 (Romeo, Joliet)

上記フォーマット以外で書き込まれた MP3/WMA ファイルは正常に再生できなかったり、ファイル名やフォルダ名などが正しく表示されないことがあります。

規格ならびに制限事項は次の通りです。

- 最大ディレクトリ階層：8 階層
- 最大フォルダ名／ファイル名文字数： 全角 16 文字（半角のみのときは 32 文字）
- 最大フォルダ数：192（ルート含む）
- ディスク内最大ファイル数：255

●ファイル名について
MP3/WMA と認識し再生するファイルは、MP3/WMA の拡張子 ".MP3" または ".wma" がついたものだけです。

●マルチセッションについて
マルチセッションに対応しており、MP3/WMA ファイルを追加したディスクの再生が可能です。ただし、ファーストセッションのみ再生します。

●ID3 タグ /WMA タグについて
MP3 ファイルには、ID3 タグと呼ばれる付属文字情報を入力することができ、曲のタイトル、アーティスト名などを記録することができます。
ID3 Ver.1.0、1.1、ID3 Ver.2.2、2.3 のタグに対応しています。（文字数は ID3 Ver.1.0、1.1 に準拠します。）
WMA ファイルには、WMA タグと呼ばれる付属文字情報を入力することができ、ID3 タグと同様に曲のタイトル、アーティスト名を記録することができます。

●MP3/WMA の再生について
MP3/WMA ファイルが収録されているディスクを挿入すると、最初にディスク内のすべてのファイルをチェックします。ファイルのチェックが終わると、最初の MP3/WMA ファイルを再生します。
ディスク内のチェックを早く終わらせるために、MP3/WMA ファイル以外のファイルや必要のないフォルダなどを書き込まないことをおすすめします。
音楽データと MP3、または WMA 形式のデータが混在しているディスクは再生できません。

●拡張子について
MP3/WMA 以外のファイルに ".MP3" または ".wma" の拡張子がついていると、MP3/WMA ファイルと誤認識して再生してしまい、大きな雑音が出てスピーカーを破損することがあります。

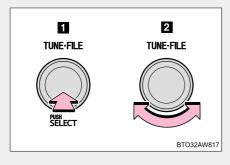
●再生について

・安定した音質で再生するために、MP3 の場合、128kbps の固定ビットレート、44.1 kHz のサンプリング周波数を推奨します。
・CD-R、CD-RW はディスクの特性により再生できないことがあります。
・MP3/WMA　は市場にフリーウェアなど多くのエンコーダソフトが存在し、エンコーダの状態やファイルフォーマットによって、音質が劣化したり再生開始時にノイズが発生したりするおそれがあります。また、再生できないことがあります。
・ディスクに MP3/WMA 以外のファイルを記録すると、ディスクの認識に時間がかかったり、再生できないことがあります。Microsoft、Windows、Windows Media は米国 Microsoft Corporation の、米国およびその他の国における登録商標および商標です。

注意

■**使用できない CD、アダプター（****→P. 243****）**

■**CD プレーヤーの取り扱いについて（****→P. 244****）**

快適に聞くために

1 ツマミを押してモードを表示させる

2 ダイヤルを回して次の設定を変更する

- 音質と音量バランス（→P. 252）

  最適な音質と音量バランスで聞くために設定を変更することができます。

- オートマチックサウンドレベライザー（→P. 253）

設定を変更するには

■ 音質モードの切りかえ

を押すごとに次のように切りかわります。

FAD → BAS → TRE → BAL → ASL

■ 音質の調整

を回して音質のレベルを調整します。

音質モード	表示	レベル	左に回す	右に回す
前後音量 バランス	FAD	R7 ～ F7	後側大	前側大
低音※	BAS	-5 ～ 5	弱	強
高音※	TRE	-5 ～ 5		
左右音量 バランス	BAL	L7 ～ R7	左側大	右側大

※音質レベルは、ラジオまたは CD プレーヤーで調整できます。

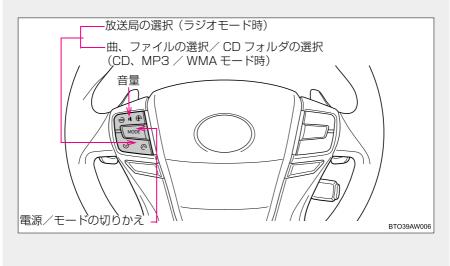
■ オートマチックサウンドレベライザー（ASL）

音質モードが ASL のとき、

を右に回すと ASL が LOW → MID → HIGH になり、左に回すと ASL オフになります。

走行時の室内騒音量に応じて音質や音量を自動的に調整します。

ステアリングスイッチ*

ハンドル左側にあるスイッチで、オーディオを操作することができます。

電源 / モードの切りかえ

■ 電源

MODE を押す

ON のときは、ボタンを " ピッ " と音が鳴るまで押すと OFF になります。

■ モードの切りかえ

電源が ON のとき、MODE を押す

次のように切りかわります。

AM → FM → CD（MP3/WMA）

CD が挿入されていないときは、選択できません。

音量を調整する

を押す（大きくする）

を押す（小さくする）

ボタンを押し続けると、音量を連続して調整できます。

放送局を選択するには

手順 1 を押して、AM または FM を選択する

手順 2 または を押す。

ボタンを押すごとに、記憶させている周波数を選択します。

" ピッ " と音がするまで押し続けると、自動で受信可能な周波数を選択します。

CD の操作

■ 選曲するには

手順 1 を押して、CD を選択する

手順 2 または を押して、希望の曲を選択する

MP3/WMA の操作

■ ファイルを選択するには

手順 1 を押して、CD（MP3/WMA) を選択する

手順 2 または を押して、希望のファイルを選択する

■ フォルダの選択をするには

手順 1 MODE を押して、CD（MP3/WMA) を選択する

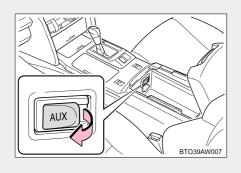
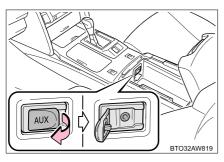
手順 2 ∨ または ∧ を“ピッ”と音がするまで押し続けて、希望のフォルダを選択する

⚠ 警告

■事故を防ぐために

運転中にステアリングスイッチを操作するときは、十分注意してください。

AUX(外部入力接続)端子の使い方*

ポータブルオーディオプレーヤーなどの機器を接続して、車両のスピーカーで聞くことができます。

ポータブルオーディオプレーヤーなどとの接続

フタを開けてポータブルオーディオプレーヤーなどを接続する

市販のミニプラグを使用して、接続する機器の音声出力端子とAUX端子とを接続します。

接続する機器の電源がOFFの状態で接続してください。

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

使用するときは

手順1 DISC·AUX を押す

手順2 接続した機器の電源を ON にし、再生を開始する

操作方法は、接続する機器の取扱書を参照してください。

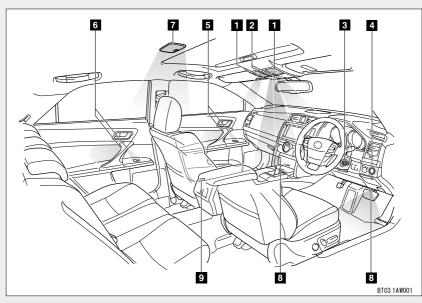
- 音量は、接続した機器および車両の PWR·VOL を操作して調整します。
- 音質は、接続した機器側で調整します。

使用しないときは、接続した機器側で停止操作を行い、電源を OFF にします。

注意

■故障を防ぐために

端子に異物が入ったり飲料水などがかかったりするのを防ぐため、ポータブルオーディオプレーヤーを接続していないときは、AUX 端子のフタを閉めておいてください。

室内灯一覧

1 フロントパーソナルライト（→P. 260）

2 インパネ・シフト照明

スマートエントリー&スタートシステム非装着車

エンジン スイッチが“ ACC ”または“ ON ”のとき

スマートエントリー&スタートシステム装着車

“ エンジン スタート ストップ ”スイッチがアクセサリーモードまたはイグニッション ON モードのとき

3 エンジン スイッチ照明
(スマートエントリー＆プッシュスタート非装着車)

4 “ エンジン スタート ストップ ”スイッチ照明
(スマートエントリー＆プッシュスタート装着車)

5 フロントドアトリム照明*

6 リヤドアトリム照明*

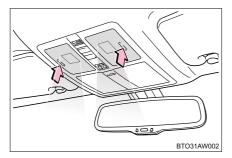
7 ルームライト（→P. 260）

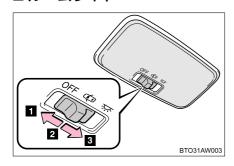
8 フロント足元照明*

9 ドアカーテシライト*

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

フロントパーソナルライト、ルームライト

■ フロントパーソナルライト

ライトを点灯・消灯する

■ ルームライト

1 ライトを消灯する
2 ドアの開閉作動に連動してライトの点灯・消灯を切りかえる
3 ライトを点灯する

知識

■イルミネーテッドエントリーシステム

スマートエントリー&スタートシステム非装着車

ドアの解錠／施錠・ドアの開閉・エンジンスイッチの位置により、各部の照明が自動的に点灯・消灯します。

スマートエントリー&スタートシステム装着車

電子キーの検知・ドアの解錠／施錠・ドアの開閉・“エンジン スタート ストップ”スイッチの状態により、各部の照明が自動的に点灯・消灯します。

■バッテリーあがりを防ぐために

エンジンが停止した状態で、長時間点灯しないでください。

知識

■自動消灯機能

半ドア状態でルームライトスイッチがドアポジション（DOOR）のときに、以下の照明が点灯したままの場合、約 20 分後に自動消灯します。

●フロント足元照明*

●エンジン スイッチ照明*

●“ エンジン スタート ストップ ” スイッチ照明*

●インパネ・シフト照明

●ルームライト

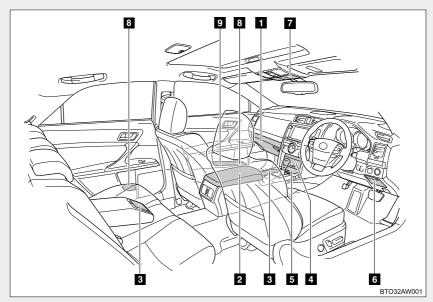
●フロントドアトリム照明*

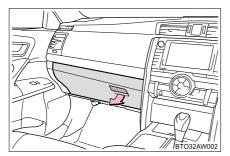
●リヤトドアトリム照明*

■販売店で設定可能な機能

キャンセルや室内灯の消灯までの時間などの設定を変更できます。
（カスタマイズ機能一覧 →P. 390）

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

収納装備一覧

1 グローブボックス
2 コンソールボックス
3 カップホルダー
4 小物入れ
5 アクセサリーボックス
6 運転席小物入れ
7 オーバーヘッドコンソール
8 ボトルホルダー
9 フロントドアポケット

グローブボックス

グローブボックスを開けるには、レバーを引き上げる

知識

■グローブボックスライトについて

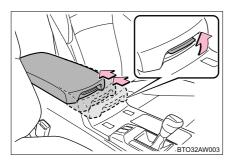
車幅灯が点灯しているときにグローブボックスを開くとライトが点灯します。

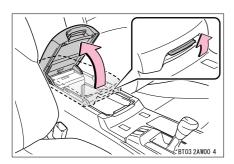
警告

■走行中の警告

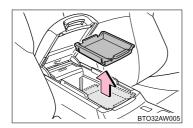
グローブボックスを必ず閉じてください。
急ブレーキ時などに、開いたグローブボックスに体が当たったり、収納していたものが飛び出したりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

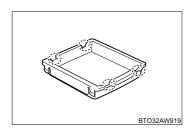
コンソールボックス

■ スライドさせる

ノブを持ち上げてロック解除し、アームレストをスライドする

■ 開ける

ノブを持ち上げてロック解除し、アームレストをいちばんうしろまでスライドして開く

知識

■コンソールボックス内のトレイについて

中のトレイをはずすことができます。

■コンソールボックス内のトレイ前後の切り欠きについて

AUX 端子*やアクセサリーソケットに接続した機器をコンソールボックス内トレイに置いたまま使用する際は、機器の配線を切り欠きに通します。
コンソールボックスのフタを閉めても機器の配線が潰れずに使用できます。
使用する機器や配線の太さによっては、配線が潰れてしまうものもあります。

警告

■走行中の警告

コンソールボックスを必ず閉じてください。
急ブレーキ時などに、開いたコンソールボックスに体が当たったり、収納していたものが飛び出したりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

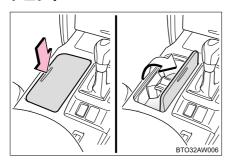
注意

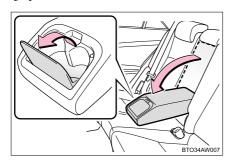
■コンソールボックス内のトレイについて

トレイの高さ以上にものを入れないでください。フタの開閉のさまたげになるおそれがあります。

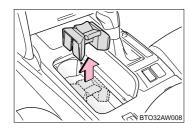
*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

カップホルダー

フロント

フタを押して開ける

リヤ

リヤアームレストを手前に倒して、フタを上げて開ける

知識

■フロントカップホルダーの仕切りについて

仕切りをはずし、小物入れとして使用できます。

警告

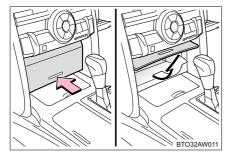
■**収納してはいけない物**

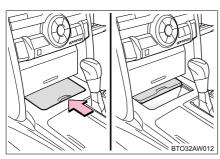
カップホルダーにはカップや缶以外のものを置かないでください。
急ブレーキや事故により落ちてけがをするおそれがあります。やけどを防ぐために温かい飲み物にはフタを閉めておいてください。

■**使わないときは**

フタを必ず閉じてください。
急ブレーキ時などに、開いたカップホルダーが体にあたったり、収納していたものが飛び出したりして、思わぬ事故につながりけがをするおそれがあります。

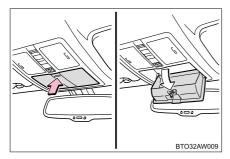
小物入れ

小物入れ

フタを押すと開く

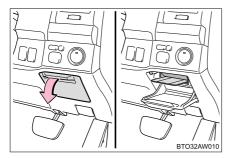
アクセサリーボックス

フタを押して開ける

ロックするまでフタをスライドさせます。
フタを閉じるにはフタをもう一度前方に押すと閉じることができます。

オーバーヘッドコンソール

BTO32AW009

フタを押して開ける

運転席小物入れ

BTO32AW010

フタを引いて開ける

上部にカードを収納することができます。

※ ETC 装着車は、ETC ユニットが装着されています。

⚠ 警告

■走行中の警告

小物入れを開けたままにしないでください。急ブレーキ時などに、開いた小物入れに体が当たったり、収納していたものが飛び出したりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

■収納してはいけないもの（オーバーヘッドコンソールのみ）

● 200ｇ 以上のものを入れないでください。200ｇ 以上のものを入れると、オーバーヘッドコンソールが開き収納されているものが飛び出したりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

● メガネやライターを放置したまま、車から離れないでください。オーバーヘッドコンソール内に放置したままにしておくと、ライターが爆発したり、プラスチックレンズ、プラスチック素材のメガネの変形・ひび割れをおこすことがあります。

警告

■アクセサリーボックスについて

BTO34AW015

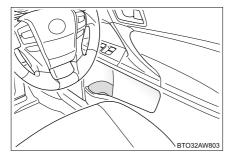
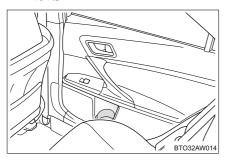
アクセサリーボックスは灰皿ではありません。マッチ・タバコの吸いがらなどを入れないでください。

ボトルホルダー

フロント席用

BTO32AW803

リヤ席用

BTO32AW014

知識

■ボトルホルダーについて

●ペットボトルのフタを必ず閉めてから収納してください。

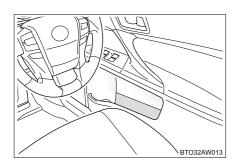
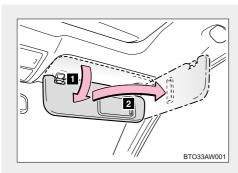
●ペットボトルの大きさ、形によっては収納できないことがあります。

注意

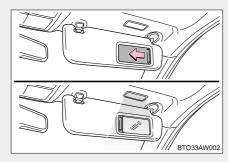
■収納してはいけない物

ボトルホルダーには、ジュースなどが入っている紙コップやガラス製のコップなどを収納しないでください。ジュースなどがこぼれたり、ガラス製品が割れたりするおそれがあります。

フロントドアポケット

サンバイザー

1 前方をさえぎるには、バイザーを下ろす

2 側方をさえぎるには、下ろした状態でフックからはずし、横へまわす

バニティミラー

※図では運転席側で説明していますが、グレードなどにより助手席側のみ設定の車種もあります。

カバーをスライドして開ける

カバーを開けるとライトが点灯します。

⚠ 注意

■バッテリーあがりを防ぐために

エンジンが停止した状態で、長時間ライトを点灯しないでください。

時計

1 “ 時 ” を調整する

2 “ 分 ” を調整する

3 “ 分 ” を 00 にする※

※（例）1:00 ～ 1:29→1:00
1:30 ～ 1:59→2:00

BTO33AW003

知識

■時刻が表示されるとき

スマートエントリー&スタートシステム非装着車

エンジン スイッチが “ ACC ” または “ ON ” のとき

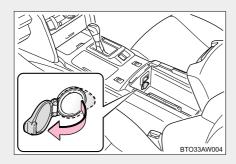
スマートエントリー&スタートシステム装着車

“ エンジン スタート ストップ ”スイッチがアクセサリーモード、またはイグニッション ON モードのとき

■バッテリー端子の脱着をしたときは

バッテリー端子の脱着を行うと、時計のデータはリセットされます。

アクセサリーソケット

12 V 10 A 未満の電気製品を使うときの電源としてお使いください。

フタを手前に引いて開ける

知識

■使用条件

スマートエントリー&スタートシステム非装着車

エンジン スイッチが“ ACC ”または“ ON ”のとき

スマートエントリー&スタートシステム装着車

“ エンジン スタート ストップ ”スイッチがアクセサリーモード、またはイグニッション ON モードのとき

注意

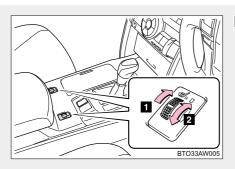
■ショートや故障を防ぐために

挿し込み口に異物が入ったり、飲料水などがかかったりしないように、使用しないときは、フタを閉めておいてください。

■ヒューズが切れるのを防ぐために

DC12V で最大電流 10A（最大消費電力 120W）以上の電機製品を使用しないでください。

■バッテリーあがりを防止するために

エンジンを停止した状態でアクセサリーソケットを長時間使用しないでください。

シートヒーター*

1 ON

シートヒーターが ON のときは、インジケーターが点灯します。

2 温度を調整する

ダイヤルを上にまわすほど高温になります。

知識

■作動条件

“ エンジン スタート ストップ ” スイッチがイグニッション ON モードのとき

■使用しないときは

ダイヤルをいっぱいまで下にまわしてください。インジケーターが消灯します。

警告

■やけどについて

● 低温やけどを負うおそれがあるため、次の方は特に注意してください。

・ 乳幼児、お子さま、お年寄り、病人、体の不自由な方
・ 皮膚の弱いかた
・ 疲労の激しいかた
・ 深酒や眠気をさそう薬（睡眠薬、風邪薬など）を服用されたかた

● シートに毛布、クッションなどを使用しないでください。
シートヒーターの使用により保温性が高まり異常過熱の原因になります。

● シートヒーターを必要以上に使用しないでください。
低温やけどを負ったり、シートヒーターの異常過熱の原因になるおそれがあります。

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

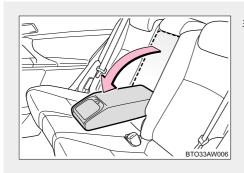
注意

■シートヒーターの故障を防ぐために

凹凸のある重量物をシートの上に置いたり、針金や針などの鋭利なものを突き刺したりしないでください。

■バッテリーあがりを防止するために

エンジンが停止しているときは使用しないでください。

アームレスト

手前に倒して使用します。

注意

■アームレストの破損を防ぐために

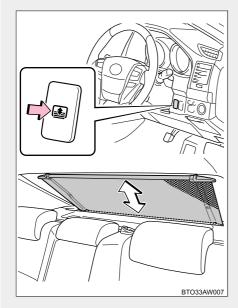
過度の負荷をかけないでください。

リヤサンシェード*

■ 電動リヤサンシェード

上昇 / 下降

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

知識

■電動リヤサンシェードの作動条件

“ エンジン スタート ストップ ” スイッチがイグニッション ON モードのとき

■“エンジンスタートストップ ” スイッチ OFF 後の作動

“エンジンスタートストップ ” スイッチを OFF にしたあとでも、約 60 秒間電動リヤサンシェードを操作できます。

■リバース連動機能

リヤサンシェードが上がった状態でシフトレバーを R にすると、後方を見やすくするためにリヤサンシェードが下降します。
ただし下記のいずれかを行うと、リヤサンシェードは再度上昇します。

- スイッチをもう一度押す
- シフトレバーを P に入れる
- シフトレバーを P と R 以外にし、15 km/h 以上で走行する

■リバース連動機能が働かない場合

状況によってはリバース連動機能が働かない場合があります。その場合、スイッチを押して、リヤサンシェードを上昇・下降させてください。

警告

■リヤサンシェード作動中は

リヤサンシェードの留め金部分や溝に指を置かないでください。
巻き込まれてけがをするおそれがあります。

注意

■**バッテリーあがりを防ぐため**

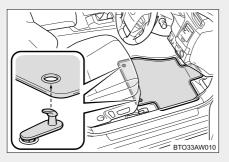
エンジンがかかっていない状態ではリヤサンシェードを繰り返し操作しないでください。

■**正常に機能させるため**

次のことをお守りください。

- モーターや他の部分に負荷をかけすぎないようにしてください。
- 開閉のさまたげになる部分に物を置かないでください。
- リヤサンシェードにものを貼らないでください。
- 溝をきれいに保ってください。
- 長時間操作を続けないでください。

フロアマット

車に合ったものを、フロアカーペットの上にしっかりと固定してお使いください。

カーペットには、フロアマットの固定クリップ取りつけ用の穴があります。

⚠ 警告

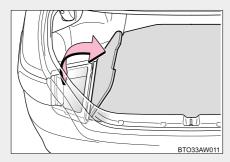
■フロアマットを敷くときは

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、フロアマットがすべったり、運転中にペダルの操作をさまたげ、思わぬ事故につながるおそれがあります。

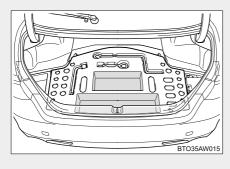
- フロアマットを裏返して使用しない
- 他のフロアマット類と重ねて使用しない

トランク内装備

■ トランク内小物入れ

BTO33AW011

トランク内左側に小物入れがあります。

■ ラゲージアンダートレイ

BTO35AW015

ラゲージマットの下にラゲージアンダートレイがあり、三角表示板※などを収納することができます。

※：三角表示板は、トヨタ販売店で購入することができます。

知識

■三角表示板について

高速道路や自動車専用道路で故障して停車した場合は三角表示板または停止表示灯を使用してください。（法的にも義務付けられています）

■ラゲージアンダートレイについて

三角表示板を収納する場合、三角表示板のケースの大きさ、形によっては収納できないことがあります。

お手入れのしかた 4

4-1. お手入れのしかた

4-2. 簡単な点検・部品交換

外装の手入れ

お手入れは、次の項目を実施ください。

- 水を十分かけながら車体・足まわり・下まわりの順番に上から下へ汚れを洗い落とす。
- 車体はスポンジやセーム皮のような柔らかいもので洗う。
- 汚れがひどいときはカーシャンプーを使用し、水で十分洗い流す。
- 水をふき取る。
- 水のはじきが悪くなったときは、ワックスがけを行う。

  ボデーの表面の汚れを落としても水が玉状にならないときは、車体の温度が冷えているとき（およそ体温以下を目安としてください。）にワックスをかける。

なお、ボデーコート、ホイールコート、ガラスコートなどトヨタケミカル商品を施行された場合は、お手入れ方法が異なります。詳しくはトヨタ販売店にお問い合わせください。

知識

■自動洗車機を使うときは

- ドアミラーを格納し、車両前側から洗車してください。また、走行前は必ずドアミラーを復帰状態にもどしてください。
- ブラシで車体に傷がつき、塗装を損なうことがあります。
- リヤスポイラー*がひっかかり、洗車できない場合や、傷ついたりするおそれがあります。
- エアコンの送風を止める、または内気循環にしてください。

■高圧洗車機を使うときは

- 車内に水が入るおそれがあるため、ノズルの先端をドアガラスやドア枠付近に近づけすぎないでください。
- 洗車の前に給油口が確実に閉まっていることを確認してください。
- エアコンの送風を止める、または内気循環にしてください。

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

■アルミホイール*

中性洗剤を使用し、早めに汚れを落としてください。研磨剤の入った洗剤や硬いブラシは使用しないでください。

■バンパーおよびサイドモールディング

中性洗剤を使用し、早めに汚れを落としてください。研磨剤の入った洗剤や硬いブラシは使用しないでください。強力な化学洗剤は使用しないでください。塗料に使用されているのと同様に刺激の少ない洗剤やワックスを使用してください。

■塗装の劣化や車体の腐食を防ぐために

●次のような場合はただちに洗車してください。

・海岸地帯を走行したあと
・凍結防止剤を散布した道路を走行したあと
・コールタール、花粉、樹液、鳥のふん、虫の死がいなどが付着したとき
・ばい煙、油煙、粉じん、鉄粉、化学物質などの降下が多い場所を走行したあと
・ほこり、泥などで激しく汚れたとき
・塗装にベンジンやガソリンなどの有機溶剤が付着したとき

●塗装に傷がついた場合は、早めに補修してください。

■ドアミラーの親水コーティングについて

親水膜の効果を持続させるため、次のことに注意してください。

●シリコーンやコンパウンドの入っていないカーシャンプーやガラスクリーナーで清掃し、十分に水で洗い流す。

●晴天時に太陽光を 1・2 日間当てる。

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

警告

■洗車をするときは

エンジンルーム内に水をかけないでください。
電気部品などに水がかかると車両火災につながるおそれがあり危険です。

■排気管について

排気管は排気ガスにより高温になります。洗車などでふれる場合は、十分に排気管が冷めてからにしてください。やけどをするおそれがあります。

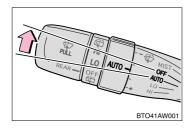
注意

■塗装の損傷を避けるために

ベンジン、ガソリンなどの有機溶剤は使用しないでください。

■ライトの清掃

- 注意して洗ってください。有機溶剤や硬いブラシは使用しないでください。
  ライトを損傷させるおそれがあります。
- ライトにワックスがけを行わないでください。
  レンズを損傷するおそれがあります。

■自動洗車機を使用するときは（雨滴感知式ワイパー装着車）

ワイパースイッチを OFF にしてください。AUTO になっていると、不意にワイパーが作動してワイパーブレードなどを損傷するおそれがあります。

内装の手入れ

お手入れは、次の要領で実施ください。

■ 室内の手入れ

掃除機などでほこりを取り除き、水またはぬるま湯を含ませた布でふき取る。

■ 合成皮革部分の手入れ

- 掃除機をかけて、大まかな汚れを取る
- スポンジや柔らかい布を使用して合成皮革部分に刺激の少ない洗剤をつける
- 数分間そのままにしておいてから汚れを落とし、固く絞ったきれいな布で洗剤をふき取る

■ 本革部分の手入れ

- 掃除機をかけて、大まかな汚れを取る
- スポンジややわらかい布を使用して本革部分に刺激の少ない洗剤を付ける
- 数分間洗剤につけておいてから汚れを落とし、固くしぼったきれいな布で洗剤をふき取る

知識

■本革部分のお手入れの目安

品質を長く保つため、年に 2 回程度の定期的なお手入れをおすすめします。

■カーペットの洗浄

カーペットは常に乾いた状態を保つことをおすすめします。洗浄には、市販の泡タイプクリーナーがご利用になれます。

スポンジまたはブラシを使用して泡をカーペットに広げ、円を描くように塗り込んでください。直接水をかけたりせず、ふき取ってから乾燥させてください。

■シートベルト

刺激の少ない洗剤とぬるま湯で、布やスポンジを使って洗ってください。シートベルトのすり切れ・ほつれ・傷などを定期的に点検してください。

警告

■車両への水の浸入

- 車内に水をかけたり液体をこぼしたりしないでください。電気部品などに水がかかると、故障や車両火災につながるおそれがあり危険です。
- SRS エアバッグの構成部品や配線などをぬらさないでください。(→ P. 91)
電気の不具合により、エアバッグが展開したり、正常に機能しなくなり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

⚠ 注意

■清浄するとき使用する溶剤について

変色・シミ・塗装はがれの原因になるため、次の溶剤は使用しないでください。

- シート以外の部分：ベンジン、ガソリンなどの有機溶剤や酸またはアルカリ性の溶剤、染色剤、漂白剤
- シート部分：シンナー、ベンジン、アルコール、その他の揮発性の溶剤

■革の傷みを避けるために

革の部分の損傷・消耗を避けるために、次のことをお守りください。

- 革についたほこりや砂はすぐに取り除く。
- 直射日光に長時間さらさないようにする。とくに夏場は日陰で車を保管する。
- ビニール製・プラスチック製・ワックス含有のものは、車内が高温になると革にはりつくおそれがあるため、革張りの上に置かない。

■床に水がかかると

水で洗わないでください。
オーディオやフロアカーペット下にある電気部品に水がかかると、車の故障の原因となったり、ボデーが錆びるおそれがあります。

■リヤウインドウガラスの内側を掃除するときは

- 熱線やアンテナを損傷するおそれがあるため、ガラスクリーナーなどを使わず、熱線やアンテナにそって水またはぬるま湯を含ませた布で軽くふいてください。
- 熱線やアンテナを引っかいたり、損傷させないように気をつけてください。

タイヤについて

タイヤの点検は、法律で義務づけられています。日常点検として必ずタイヤを点検してください。
タイヤの摩耗を均等にし寿命を延ばすために、タイヤローテーション（タイヤ位置交換）を FR 車は 10,000km ごとに、4WD 車は 5,000 km ごとに行ってください。

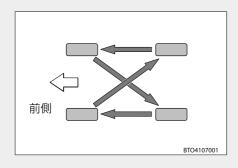
■ タイヤの点検項目

タイヤは次の項目を点検してください。
点検方法は別冊「メンテナンスノート」をお読みください。

- タイヤ空気圧

  空気圧の点検は、タイヤが冷えているときに行ってください。

- タイヤの亀裂・損傷の有無
- タイヤの溝の深さ
- タイヤの異常摩耗（極端にタイヤの片側のみが摩耗していたり、摩耗程度が他のタイヤと著しく異なるなど）の有無

■ タイヤローテーションのしかた

図で示す順にタイヤをローテーションしてください。

タイヤの摩耗状態を均一にし、寿命を延ばすために、トヨタは定期点検毎のタイヤローテーションを推奨します。

知識

■タイヤ空気圧の数値

タイヤの指定空気圧は、運転席側のタイヤ空気圧ラベルで確認することができます。

タイヤサイズ	空気圧※ [kPa(kg/cm^2)]
	前後輪
215/60R 16 95H	250（2.5）
235/45R 18 94W	240（2.4）

応急用タイヤ：420 kPa (4.2 kg/cm^2)

※：タイヤが冷えているときの空気圧

■タイヤ関連の部品を交換するとき

タイヤ・ディスクホイール・ホイール取りつけナットを交換するときは、トヨタ販売店にご相談ください。

警告

■**点検・交換時の警告**

必ず次のことをお守りください。
守らないと、駆動系部品の損傷や不安定な操縦特性により、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- タイヤはすべて同一メーカー・同一銘柄・同一トレッドパターンで、摩耗差のないタイヤを使用する
- メーカー指定サイズ以外のタイヤやホイールを使用しない
- ラジアルタイヤ・バイアスベルテッドタイヤ・バイアスプライタイヤを混在使用しない
- サマータイヤ・オールシーズンタイヤ・冬用タイヤを混在使用しない

■**異常があるタイヤの使用禁止**

異常があるタイヤをそのまま装着していると、走行時にハンドルを取られたり、異常な振動を感じることがあります。また、次のような事態になり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- 破裂などの修理できない損傷を与える
- 車両が横すべりする
- 車両の本来の性能（燃費・車両の安定性・制動距離など）が発揮されない

注意

■走行中に空気もれが起こったら

走行を続けないでください。
タイヤまたはホイールが損傷することがあります。

■超偏平タイヤ（235/45R18 94W *）について

超偏平タイヤのホイールは、路面から衝撃を受けたとき、ホイールに通常より大きなダメージを与えることがあります。そのため次のことにご注意ください。

- 適切なタイヤ空気圧で使用してください。
  空気圧が低すぎると簡単に損傷することがあります。
- 段差や凹凸のある路面、路上に開いた穴、平らでない舗道・縁石や他の障害物を避けてください。
  タイヤおよびホイールがひどく損傷することがあります。

■タイヤ空気圧が低いとき

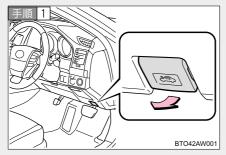
走行を続けないでください。
タイヤまたはホイールが損傷することがあります。

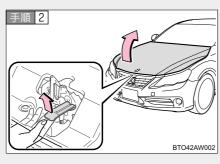
■悪路走行に対する注意

段差や凹凸のある路上を走行するときは注意してください。
タイヤの空気が抜けて、タイヤのクッション作用が低下します。また、タイヤ、ホイール、車体などの部品も損傷するおそれがあります。

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

ボンネット

室内からロックを解除して、ボンネットを開けます。

ボンネット解除レバーを引く

ボンネットが少し浮きあがります。

レバーを引き上げて、ボンネットを開ける

知識

■バッテリー端子をはずすときは

バッテリー端子をはずすと、コンピューターに記憶されている情報が消去されます。バッテリー端子をはずすときはトヨタ販売店にご相談ください。

警告

■**走行前の確認**

ボンネットがしっかりロックされていることを確認してください。
ロックせずに走行すると、走行中にボンネットが突然開いて、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■**けがを防ぐために**

走行後のエンジンルーム内は高温になっています。熱くなった部品にさわるとやけどなどの重大な傷害を受けるおそれがあります。

スマートエントリー&スタートシステム非装着車

●ボンネットを開ける前にエンジンスイッチを“LOCK”にしてください。作動中の部品に巻き込まれてけがなどの重大な傷害を受けるおそれがあります。しばらくたってからボンネットを開けてください。

スマートエントリー&スタートシステム装着車

●ボンネットを開ける前に“エンジン スタート ストップ”スイッチを OFF にしてください。作動中の部品に巻き込まれてけがなどの重大な傷害を受けるおそれがあります。しばらくたってからボンネットを開けてください。

■**エンジンルームを点検したあとは**

エンジンルーム内に工具や布を置き忘れていないことを確認ください。
点検や清掃に使用した工具や布などをエンジンルーム内に置き忘れていると、故障の原因となったり、また、エンジンルーム内は高温になるため車両火災につながるおそれがあり危険です。

■**ボンネットを閉めるときは**

ボンネットを閉めるときは、手などを挟まないように注意してください。
重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

4

お手入れのしかた

注意

■ボンネットやダンパーステーへの損傷を防ぐために

●ボンネットを閉めるときは、体重をかけるなどして強く押さないでください。ボンネットがへこむおそれがあります。

●ボンネットにはボンネットを支えるためのダンパーステーが取り付けられています。ダンパーステーの損傷や作動不良を防ぐため次のことをお守りください。

・ビニール片・ステッカー・粘着材などの異物をステーのロッド部（棒部）に付着させない
・ロッド部を軍手などで触れない
・ボンネットにトヨタ純正品以外のアクセサリー用品を付けない
・ステーに手をかけたり、横方向に力をかけたりしない

ガレージジャッキ

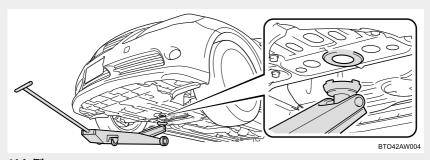
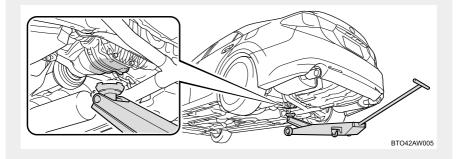
ガレージジャッキを使用して車両を持ち上げるときは、正しい位置にガレージジャッキを取りつけてください。
正しい位置に取り付けないと、車両が損傷したり、けがをするおそれがあります。

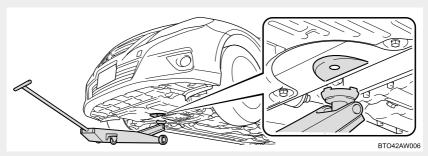
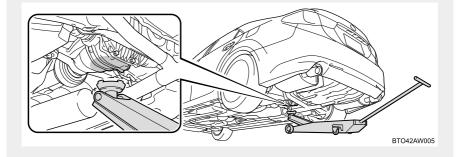
■ FR（後輪駆動）

フロント側

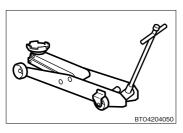
BTO42AW004

リヤ側

BTO42AW005

■ 4WD（4 輪駆動）

フロント側

リヤ側

警告

■**車両を持ち上げるときは**

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●図のようなガレージジャッキを使用して車両を持ち上げてください。

●ガレージジャッキを使用するときは、必ずガレージジャッキ付属の取扱説明書を十分に確認の上、使用してください。

●車に搭載されているジャッキを使用しないでください。車両が落下するおそれがあります。

●ガレージジャッキのみで支えられた車両の下に体の一部を入れたり、もぐり込んだりしないでください。
ガレージジャッキおよび、自動車用ジャッキスタンドをしっかりとした傾きのない平坦な床面で使用してください。

●車両がジャッキアップされた状態でエンジンを始動しないでください。

●平らで硬い地面に車両を停車させ、しっかりとパーキングブレーキをかけ、シフトレバーをＰにしてください。

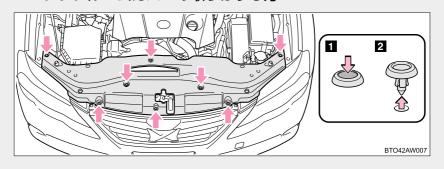
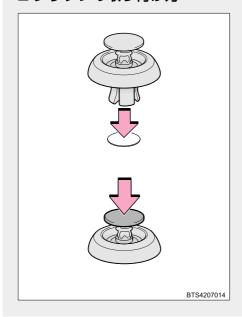
●ガレージジャッキは、必ずジャッキアップポイントに正しく取り付けてください。
ガレージジャッキを正しく取りつけずに車両を持ち上げると、車両が損傷します。また、車両がガレージジャッキから落下するおそれがあります。

●車内に乗員がいるときは車両を持ち上げないでください。

●車両を持ち上げるときは、ガレージジャッキの上下にものを置かないでください。

エンジンルームカバー

ヒューズや電球（バルブ）の点検・交換などを行うときに取りはずします。

■ エンジンルームカバーの取りはずし方

■ クリップの取り付け方

警告

■けがを防ぐために

エンジンルームカバーを取りはずす前に、“ エンジン スタート ストップ ”スイッチを OFF(スマートエントリー&スタートシステム装着車) または、エンジン スイッチを“LOCK ”(スマートエントリー&スタートシステム非装着車)にしてください。熱くなった部品でやけどをしたり、作動中の部品に巻き込まれてけがをするおそれがあります。

注意

■エンジンルームカバーを取り付けたあとは

もとの場所に確実に取り付けられていることを確認してください。

電球（バルブ）の交換

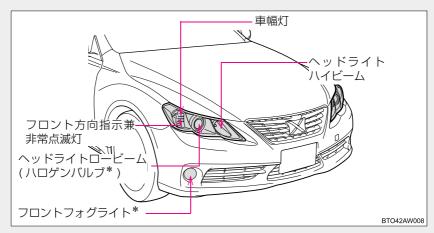
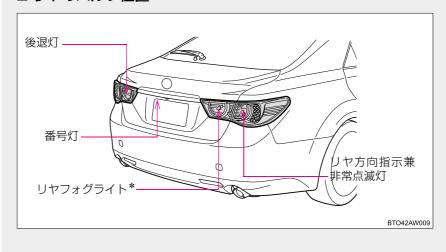
次に記載する電球は、ご自身で交換できます。詳細が不明な場合やその他の電球交換については、トヨタ販売店にご相談ください。

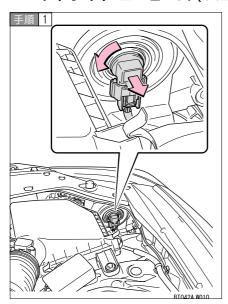
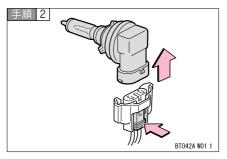
■ 電球の用意

切れた電球の W(ワット) 数を確かめてください。（→P. 388）

■ フロントのバルブ位置

■ リヤのバルブ位置

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

電球交換のしかた

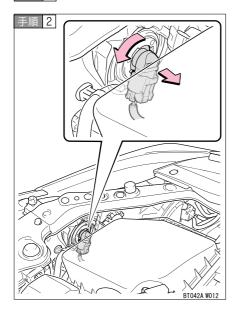
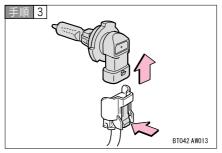
■ヘッドライト ロービーム（ハロゲンバルブ＊）

電球を取りはずす

コネクターを取りはずす

手順 3 取り付けるときは、取りはずしたときと逆の手順で取り付ける

＊：車両型式などで異なる装備やオプション装備

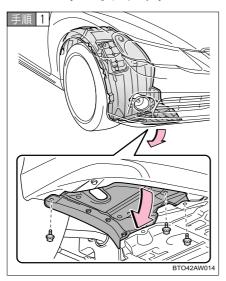
電球交換のしかた

■ ヘッドライト （ハイビーム）

手順 1 エンジンルームのカバーをはずす（→P. 300）

電球を取りはずす

コネクターを取りはずす

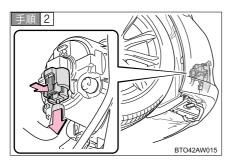
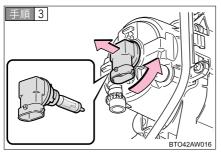
手順 4 取り付けるときは、取りはずしたときと逆の手順で取り付ける

■ フロントフォグライト*

BTO42AW014

ボルトを取りはずし、フェンダーライナーをめくる

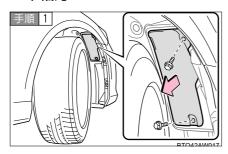
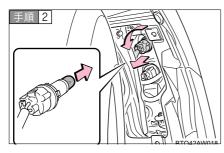
BTO42AW015

コネクターを取りはずす

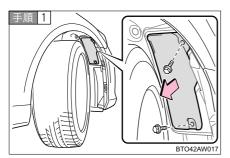
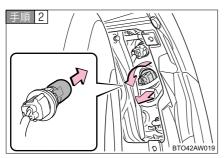
BTO42AW016

電球を取りはずす

手順 4 取り付けるときは、取りはずしたときと逆の手順で取り付ける

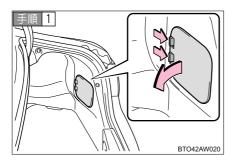
*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

■ 車幅灯

ハンドルをいっぱいまで左にまわしてから、タイヤ前側のカバーをはずす

ソケットを取りはずし、電球を取りはずす

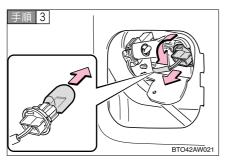
手順 3 取り付けるときは、取りはずしたときと逆の手順で取り付ける

■ フロントト方向指示兼非常点滅灯

ハンドルをいっぱいまで左にまわしてから、タイヤ前側のカバーをはずす

ソケットを取りはずし、電球を取りはずす

手順 3 取り付けるときは、取りはずしたときと逆の手順で取り付ける

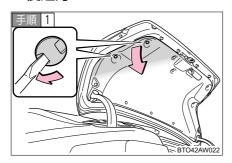
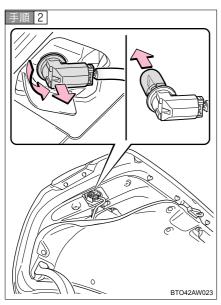
■ リヤ方向指示兼非常点滅灯

トランクを開け、カバーを取りはずす

パッキンをめくる

ソケットを取りはずし、電球を取りはずす

手順 4 取り付けるときは、取りはずしたときと逆の手順で取り付ける

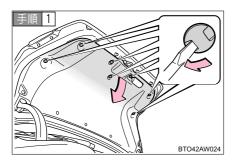
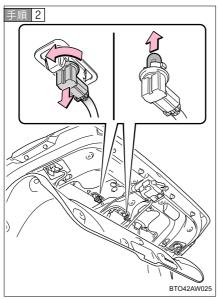
■ 後退灯

トランクを開け、クリップを取りはずし、カバーをめくる

ソケットを取りはずし、電球を取りはずす

手順 3 取り付けるときは、取りはずしたときと逆の手順で取り付ける

■ 番号灯

トランクを開け、クリップを取りはずし、カバーをめくる

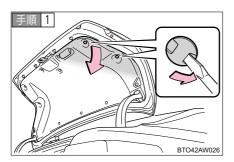
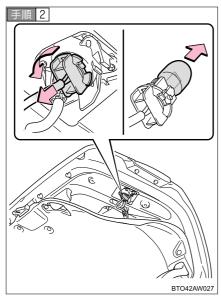
ソケットを取りはずし、電球を取りはずす

手順 3 取り付けるときは、取りはずしたときと逆の手順で取り付ける

■ リヤフォグライト*

トランクを開け、クリップを取りはずし、カバーをめくる

ソケットを取りはずし、電球を取りはずす

手順 3 取り付けるときは、取りはずしたときと逆の手順で取り付ける

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

■ その他の電球

次の電球が切れたときは、トヨタ販売店で交換してください。

● ヘッドライトロービーム（ディスチャージバルブ*）

● 方向指示灯兼非常点滅灯（ドアミラー部）

● 制動灯

● 尾灯

● ハイマウントストップライト

知識

■LED ライト

尾灯・制動灯・サイド方向指示兼非常点滅灯・ハイマウントストップライトは数個の LED で構成されています。もし LED がひとつでも点灯しないときは、トヨタ販売店で交換してください。

■レンズ内の水滴と曇り

次のようなときは、トヨタ販売店にご相談ください。ただし、レンズ内の一時的な曇りは、機能上問題ありません。

● レンズ内側に大粒の水滴が付いている

● ライト内に水がたまっている

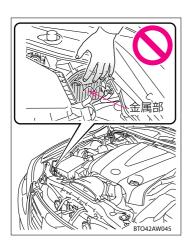
■電球の交換について

電球の交換作業をするときに、部品などの破損が心配なかたは、トヨタ販売店にご相談ください。

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

警告

■電球を交換するときは

- ライトは消灯してください。消灯直後は高温になっているため、交換しないでください。
  やけどすることがあります。
- 電球のガラス部を素手でふれないでください。
  プラスチック部または金属ケース部を持ってください。また、電球を傷付けたり、落下させたりすると球切れや破裂することがあります。
- 電球や電球を固定するための部品はしっかり取り付けてください。取り付けが不十分な場合、発熱や発火、またはヘッドライト内部への浸水による故障や、レンズ内に曇りが発生することがあります。

- ディスチャージヘッドライト装着車：
  ロービーム点灯中および消灯直後はヘッドライト裏の金属部が高温となっているため、さわらないでください。
  やけどをすることがあります。

警告

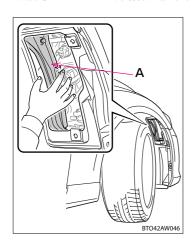
■ディスチャージヘッドライト*について

●交換するとき（電球交換含む）は、必ずトヨタ販売店にご相談ください。

●点灯中は、高電圧ソケットにふれないでください。
瞬間的に 3 万ボルトの電圧が発生するため、感電により、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●電球・ソケット・電気回路・および構成部品を、修理または分解しないでください。感電により、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

注意

■車幅灯・フロント方向指示兼非常点滅灯を交換するときは

車幅灯・フロント方向指示兼非常点滅灯を交換するときは、図の A 部で指などをけがをしないように注意してください。

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

ヒューズの点検、交換

ランプがつかないときや電気系統の装置が働かないときは、ヒューズ切れが考えられます。ヒューズの点検を行ってください。

手順 1

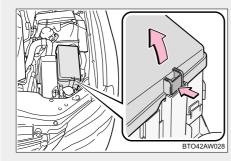
スマートエントリー&スタートシステム非装着車

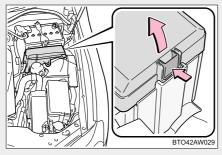
エンジン スイッチを“ LOCK ”にする

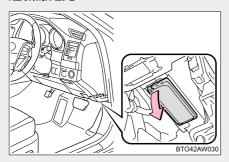
スマートエントリー&スタートシステム装着車

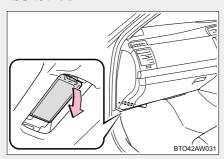
“ エンジン スタート ストップ ”スイッチを OFF にする

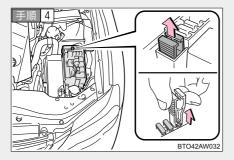
手順 2 ヒューズボックスを開ける

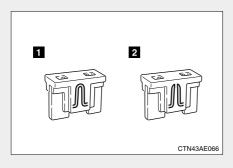
エンジンルーム A

ツメを押しながら、カバーを持ち上げる

エンジンルーム B

ツメを押しながら、カバーを持ち上げる

運転席足元

ヒューズボックスカバーを取りはずす

助手席足元

ヒューズボックスカバーを取りはずす

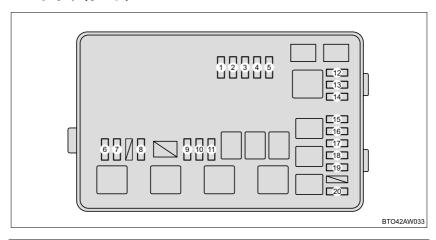
手順 3 故障の状況から、点検すべきヒューズを「ヒューズの配置と負荷」(→P. 318)で確認する

ヒューズはずしでヒューズを引き抜く

手順 5 ヒューズを引き抜き、ヒューズが切れていないか点検する

1 正常

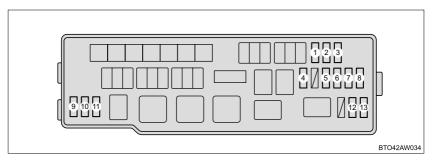
2 ヒューズ切れ

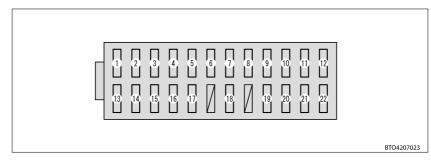
ヒューズボックスの表示にしたがい、規定容量のヒューズに交換します。

ヒューズの配置と負荷

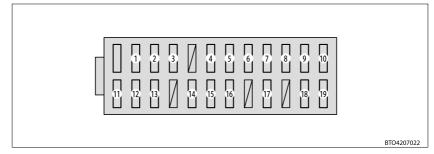
■ エンジンルーム A

	ヒューズ名称	アンペア数	ヒューズの受け持つ主な装置名称
1	EFI NO,2	10 A	エンジンコントロールシステム
2	HORN	10 A	ホーン
3	A/F	15 A	排気システム
4	WASHER-S	5 A	ワイパー、ウォッシャー、オートワイパー
5	FUEL PMP	20 A	フューエルポンプ
6	INJ	20 A	エンジンコントロールシステム
7	EFI- MAIN	25 A	エンジンコントロールシステム
8	ETCS	10 A	エンジンコントロールシステム
9	H-LP LH-LO	15 A	ヘッドライト（ロービーム）左
10	H-LP RH-LO	15 A	ヘッドライト（ロービーム）右
11	WIP-S	7.5 A	ミリ波レーダー、パワーマネジメント
12	SPARE	—	スペア
13	SPARE	—	スペア
14	SPARE	—	スペア
15	H-LP LH-HI	15 A	ヘッドライト（ハイビーム）左
16	H-LP RH-HI	15 A	ヘッドライト（ハイビーム）右

ヒューズ名称		アンペア数	ヒューズの受け持つ主な装置名称
17	TAIL	15 A	尾灯、車幅灯
18	A/C COMP	7.5 A	エアコン
19	FOG FR	15 A	フロントフォグライト
20	IG2	10 A	点火系

■ エンジンルーム B

ヒューズ名称		アンペア数	ヒューズの受け持つ主な装置名称
1	IG2-MAIN	20 A	各 ECU 電源
2	D/C CUT	20 A	室内灯、各 ECU 電源
3	ECU-B	10 A	EPS、VGRS
4	TRUNK OPN	7.5 A	トランクオープン
5	RAD NO.1	15 A	オーディオ
6	AMP	30 A	オーディオ
7	ALT-S	5 A	充電回路
8	MIR HTR	10 A	ミラーヒーター
9	DEICER	25 A	フロントワイパーデアイサー
10	FOG RR	10 A	リヤフォグライト
11	PSB	30A	プリクラッシュシステム
12	DOME	10 A	室内照明
13	MPX-B	10 A	各 ECU 電源

■ 運転席足元

	ヒューズ名称	アンペア数	ヒューズの受け持つ主な装置名称
1	STOP	7.5 A	制動灯
2	TV	10 A	ナビゲーションシステム
3	P/SEAT FR	30 A	フロントパワーシート右側
4	TI & TE	20 A	マイコンプリセットステアリング
5	ACC	7.5 A	アクセサリー電源
6	P/ OUTLET	15 A	アクセサリーソケット
7	WASHER	20 A	ウォッシャー
8	WIP	30 A	ワイパー
9	AVS	20 A	AVS
10	S/HTR FR	15 A	フロントシートヒーター右側
11	RH IG	10 A	各 ECU 電源
12	RH ECU-IG	10 A	各 ECU 電源
13	DOOR FR	20 A	フロントパワーウインドウ右
14	DOOR RR	20 A	リヤパワーウインドウ右
15	AM2	7.5 A	EFI コンピューター
16	SECURITY	7.5 A	EFI コンピューター
17	STRG LOCK	20 A	ステアリングロック
18	IGN	10 A	EFI コンピューター、エアーバッグ
19	S/ROOF	20 A	ムーンルーフ
20	P/W-B	5 A	パワーウインドウ
21	MULTIMEDIA	10 A	オーディオ、ナビゲーションシステム

	ヒューズ名称	アンペア数	ヒューズの受け持つ主な装置名称
22	OBD	7.5 A	チェックコネクター

■ 助手席足元

	ヒューズ名称	アンペア数	ヒューズの受け持つ主な装置名称
1	LH J/B-B	7.5 A	ボデー系システム
2	AM1	7.5 A	装備系全般
3	P/SEAT FL	30 A	フロントパワーシート左
4	D/L NO,1	25 A	ドアロック
5	S/HTR FL	15 A	シートヒーター左
6	WIP RR	15 A	リヤワイパー
7	AFS	7.5 A	AFS
8	BKUP LP	7.5 A	後退灯
9	LH ECU-IG	10 A	各 ECU 電源
10	LH IG	10 A	各 ECU 電源
11	DOOR RL	20 A	リヤパワーウインドウ左
12	DOOR FL	20A	フロントパワーウインドウ左
13	D/L NO,2	25 A	ドアロック
14	HAZ	15 A	非常点滅灯
15	RAD NO,2	20 A	オーディオ
16	GAUGE	7.5 A	メーター
17	PANEL	7.5 A	イルミネーション
18	A/C	7.5 A	エアコン

ヒューズ名称		アンペア数	ヒューズの受け持つ主な装置名称
19	SHADE RR	10A	リヤサンシェード

知識

■ヒューズを交換したあと

●交換してもライト類が点灯しないときは、電球を交換してください。(→P. 302)

●交換しても再度ヒューズが切れる場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。

■バッテリーからの回路に過剰な負荷がかかると

配線が損傷を受ける前にヒューズが切れるように設計されています。

⚠ 警告

■車の故障や、車両火災を防ぐために

次のことをお守りください。
お守りいただかないと車の故障や火災、けがをするおそれがあります。

●規定容量以外のヒューズまたはヒューズ以外のものを使用しないでください。

●必ずトヨタ純正ヒューズか同等品を使用してください。

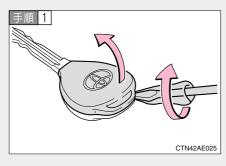
●ヒューズやヒューズボックスを改造しないでください。

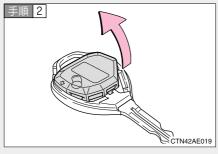
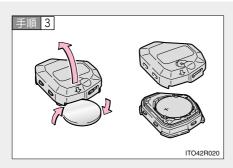
キーの電池交換

電池が消耗しているときは、新しい電池に交換してください。

■ 用意するもの

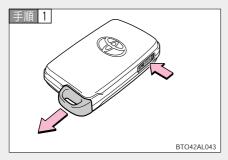
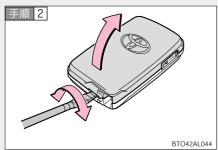
- マイナスドライバー
- 小さいプラスドライバー
- リチウム電池
  - ・ CR2016（スマートエントリー＆スタートシステム非装着車）
  - ・ CR1632（スマートエントリー＆スタートシステム装着車）

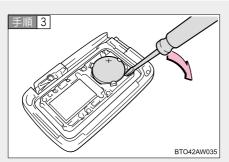
■ 電池交換のしかた（スマートエントリー＆スタートシステム非装着車）

カバーをはずす

傷が付くのを防ぐため、マイナスドライバーの先端に布などを巻いて保護してください。

モジュールを取り出す

コインなどを使って、モジュールカバーをはずし、消耗した電池を取り出す

新しい電池は＋極を上にして取り付けます。

手順 4 取り付けるときは、取りはずしたときと逆の手順で取り付ける

■ 電池交換のしかた（スマートエントリー＆スタートシステム装着車）

メカニカルキーを抜く

カバーをはずす

傷が付くのを防ぐため、マイナスドライバーの先端に布などを巻いて保護してください。

消耗した電池を取り出す

新しい電池は + 極を上にして取り付けます。

手順 4 取り付けるときは、取りはずしたときと逆の手順で取り付ける

知識

■電池が消耗していると

次のような状態が起こります。

●スマートエントリー&スタートシステム（装着車のみ）、ワイヤレス機能が作動しない

●作動距離が短くなる

■リチウム電池の入手

リチウム電池はトヨタ販売店、時計店およびカメラ店などで購入できます。

●スマートエントリー&スタートシステム非装着車：CR2016

●スマートエントリー&スタートシステム装着車：CR1632

■キーの電池を交換したときは（スマートエントリー&スタートシステム装着車）

キーのスイッチを押し、本体の LED が点灯することを確認します。

警告

■**取りはずした電池と部品について**

お子さまにさわらせないでください。
部品が小さいため、誤って飲み込むと、のどなどにつまらせるおそれがあります。

注意

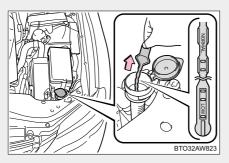
■**交換後、正常に機能させるために**

次のことを必ずお守りください。

●ぬれた手で電池を交換しない
錆の原因になります。

●電池以外の部品に、触れたり動かしたりしない

●電極を曲げない

ウォッシャー液の補給

液面が LOW の位置に近付いたらウォッシャー液を補給してください。

警告

■ウォッシャー液を補給するときは

エンジンが熱いときやエンジンがかかっているときは、ウォッシャー液を補給しないでください。ウォッシャー液にはアルコール成分が含まれているため、エンジンなどにかかると出火するおそれがあり危険です。

注意

■ウォッシャー液について

ウォッシャー液のかわりに、せっけん水やエンジン不凍液などを入れないでください。
車体の塗装にしみがつくおそれがあります。

■ウォッシャー液の薄め方

必要に応じて水で薄めてください。水とウォッシャー液の割合は、ウォッシャー液の容器に表示してある凍結温度を参考にしてください。

エアコンフィルターの清掃、交換

エアコンを快適にお使いいただくために、エアコンフィルターを定期的に清掃、または交換してください。

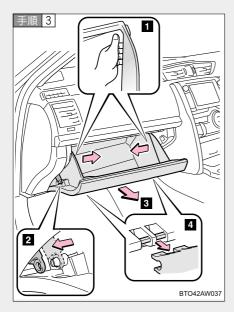
■ エアフィルターの交換

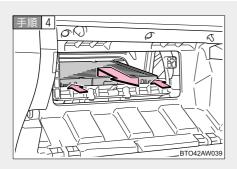
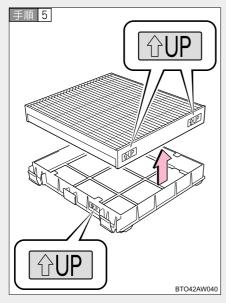
手順 1 内外気切りかえスイッチを押し、内気循環にする

外気導入のままだと、内外気ドアによりフィルターケースを取りはずすことができません。

手順 2

スマートエントリー&スタートシステム非装着車
エンジン スイッチを " LOCK " にする
スマートエントリー&スタートシステム装着車
" エンジン スタート ストップ " スイッチを OFF にする

手順 3

グローブボックスを取りはずす

1. グローブボックスの内側に指をかけ、側面を引っ張ってたわませながら、上部のツメを片側ずつはずします
2. グローブボックスのダンパーステーのピンをはずします
3. グローブボックスを手前に引き出します
4. グローブボックス下部のツメをはずします

ツメを押してロックをはずし、フィルターケースを取りはずす

フィルターケースからフィルターを取りはずし、新しいフィルターと交換する

「↑ UP」マークの矢印が上を向くように取り付けます

手順 6 取り付けるときは、取りはずしたときと逆の手順で取り付ける

知識

■エアコンフィルターの清掃・交換について

エアコンフィルターは次の時期を目安に清掃、または交換してください。

清掃：15,000km[7,500km※]ごと

交換：30,000km[15,000km※]ごと

※大都市や寒冷地など、交通量や粉じんの多い地区

■エアコンの風量が減少したときは

フィルターの目詰まりが考えられますので、フィルターを清掃、または交換してください。
なお、フィルターの清掃については、トヨタ販売店にご相談ください。

注意

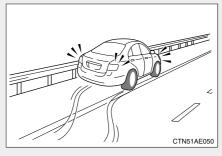
■エアコンを使用するときの注意

フィルターを装着せずにエアコンを使用すると、故障の原因となることがあります。必ずフィルターを装着してください。

トラブルが起きたら 5

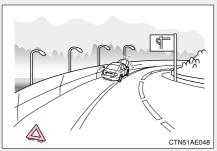
故障したときは

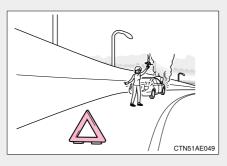
故障のときは速やかに下記の指示に従ってください。

CTN51AE050

非常点滅灯を点滅させながら、車を路肩に寄せ停車します。

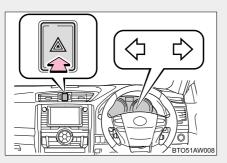
(→P. 333)

非常点滅灯は、故障などでやむを得ず路上駐車する場合、他車に知らせるため使用します。

CTN51AE048

高速道路や自動車専用道路では、車両後方に停止表示板または停止表示灯を置いてください。(法的にも義務付けられています。)

CTN51AE049

緊急を要するときは発炎筒で合図します。(→P. 334)

非常点滅灯

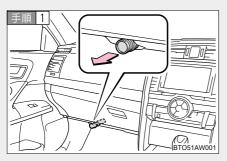
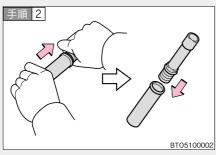
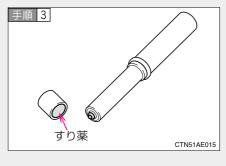
事故や故障のときなどにお使いください。

スイッチを押すとすべての方向指示灯が点滅し、もう一度押すと消灯します。

⚠ 注意

■バッテリーあがりを防ぐために

エンジン停止中に非常点滅灯を長時間使用しないでください。

発炎筒

事故や故障のときなど、緊急時にお使いください。
発炎時間は約５分です。非常点滅灯と併用してお使いください。

助手席足元の発炎筒を取り出す

本体を回しながら抜き、本体を逆さにして挿し込む

先端のフタを取り、すり薬と発炎筒の先端をこすり、着火させる

知識

■発炎筒の有効期限

表示してある有効期間がきれる前に、トヨタ販売店でお求めください。

警告

■**発炎筒が使用できない場所**

次の場所では、発炎筒を使用しないでください。
煙で視界が悪くなったり、引火するおそれがあるため危険です。

●トンネル内

●ガソリンなど可燃物の近く

■**発炎筒の取り扱いについて**

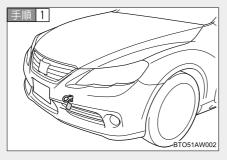
次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

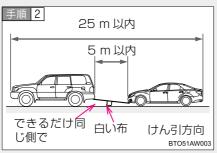
●使用中は、発炎筒を顔や体に向けたり、近付けたりしない

●発炎筒は、お子さまにさわらせない

けん引について

けん引は、できるだけトヨタ販売店または専門業者にご依頼ください。

■ けん引されるときは

車体に傷がつかないようにロープをけん引フックにかける

前進方向でけん引してください。

ロープの中央に白い布をつける

布の大きさ：
0.3 m 平方（30 cm × 30 cm）以上

手順 3 けん引される車両のエンジンをかける

スマートエントリー&スタートシステム非装着車

エンジンがかからないときは、エンジン スイッチを " ACC " または " ON " にしてください。

スマートエントリー&スタートシステム装着車

エンジンがかからないときは、" エンジン スタート ストップ " スイッチをアクセサリーモード、またはイグニッション ON モードにしてください。

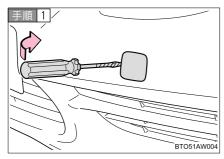
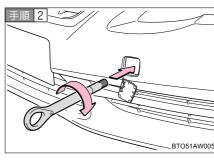
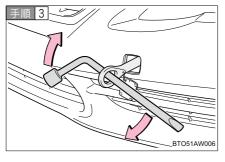
手順 4 けん引される車両のシフトレバーを N にしてから、パーキングブレーキを解除する

けん引中は、前の車の制動灯に注意しロープをたるませないようにしてください。

けん引する前に

次の場合は、駆動系の故障が考えられるため、トヨタ販売店へご連絡ください。

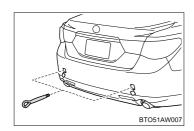
- エンジンはかかるが車が動かない
- 異常な音がする

けん引フックの取りつけ方

マイナスドライバーと当て布を使ってフタをはずす

けん引フックを穴に挿し込み軽く締める

ホイールナットレンチを使い確実に取り付ける

知識

■けん引フックの使用目的

けん引フックはけん引されるときに使うものであり、他車をけん引するためのものではありません。

■他車をけん引する

リヤ側のけん引フックは、自車より軽い車をやむを得ず一般路上でロープによりけん引するときに使用します。

■けん引フックの収納位置

→P. 358

⚠警告

■けん引フックを車両に取り付けるとき

指定の位置に指定のけん引フックをしっかりと取り付けてください。
指定位置にしっかり取りつけないとけん引時にはずれてしまい、死亡や重大な傷害のおそれがあります。

■車両を運搬するときは（4WD 車）

必ず 4 輪接地または 4 輪とも持ち上げた状態で運搬してください。
駆動装置が焼きつきを起こしたり、車が台車から飛び出すおそれがあります。
また、駆動系部品が故障したと思われるときは必ず 4 輪を持ち上げて運搬してください。

■けん引中の運転について

- けん引を行うときは細心の注意を払ってください。
  けん引フックやロープに過剰な負荷をかける急発進やまちがった車両操作は避けてください。
  けん引フックやロープが破損するおそれがあります。万一の場合、その破片が周囲の人などに当たり、重大な傷害を与えるおそれがあり危険です。
- けん引される車は、慎重に運転してください。
  エンジンが停止しているとブレーキの効きが悪くなったり、ハンドルが通常より重くなります。

スマートエントリー&スタートシステム非装着車

- エンジン スイッチを“ LOCK ”にしないでください。
  ハンドルがロックされハンドル操作ができなくなり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

スマートエントリー&スタートシステム装着車

- “ エンジン スタート ストップ ”スイッチを OFF にしないでください。
  ハンドルがロックされハンドル操作ができなくなり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

⚠注意

■車両の損傷を防ぐために

けん引するときは次のことを必ずお守りください。

- ワイヤーロープは使用しない
- 速度 30 km/h 以下、距離 80 km 以内でけん引する
- 前進方向でけん引する
- サスペンション部などにロープをかけない
- この車両で他車やボート（トレーラー）などをけん引しないでください。駆動系部品などに重大な損傷を与えるおそれがあります。

■長い下り坂でけん引するときは

レッカー車でけん引してください。
レッカー車でけん引しないと、ブレーキが過熱し効きが悪くなるおそれがあります。

イベントデータレコーダー

お車には、最適な車両性能を維持する為のコンピュータを搭載しています。このコンピュータはシステムが正常に作動していることを診断するとともに、衝突のときや衝突に近い状態のときのデータを記録するイベントデータレコーダー（EDR）を装備しています。

記録するデータ

エアバッグコンピューターに搭載しているイベントデータレコーダーが、衝突のときや衝突に近い状態のときに下記のデータを記録します。

- エンジン回転数
- 車速
- ブレーキペダルの操作状況
- アクセルペダルの操作状況
- オートマチックトランスミッションのシフトポジション
- 運転席乗員のシートベルト装着の有無
- 運転席のシート位置
- エアバッグ作動に関する情報
- エアバッグシステムの故障診断情報

イベントデータレコーダーは会話などの音声や映像は記録しません。
（車種によっては記録される項目が異なります。）

データの開示について

トヨタおよびトヨタが委託した第三者は、イベントデータレコーダーに記録されたデータを、車の研究開発を目的に取得・流用することがあります。なお、トヨタおよびトヨタが委託した第三者は、取得したデータを次の場合を除き、第三者へ開示・提供することはありません。

- お車の使用者の同意がある場合
- 裁判所命令などの法的強制力のある要請に基づく場合
- 統計的な処理を行うなどの使用者や車が特定されないように加工したデータを研究機関などに提供する場合

警告灯がついたときは

警告灯が点灯または点滅したままの場合は、落ち着いて次のようにご対処ください。点灯・点滅しても、その後消灯すれば異常ではありません。ただし、同じ現象が再度発生した場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。

ただちに停車してください。走行を続けると危険です。

次の警告はブレーキの故障のおそれがあることを意味します。ただちに安全な場所に停車し、トヨタ販売店へ連絡してください。

警告灯	警告灯名・警告内容
(!)	**ブレーキ警告灯（警告ブザー）**※ ・ブレーキ液の不足 ・ブレーキ系統の異常 パーキングブレーキが解除されていないときも点灯します。解除後、消灯すれば正常です。

※パーキングブレーキ未解除警告ブザー：
パーキングブレーキをかけたまま、車速が約 5km/h 以上になると警告ブザーが鳴ります。(→P. 350)

ただちに停車してください。

次の警告は、お車へのダメージや思わぬ危険を招くおそれがあることを意味します。ただちに安全な場所に停車し、トヨタ販売店へ連絡してください。

警告灯	警告灯名・警告内容
	充電警告灯 充電系統の異常
	油圧警告灯 エンジンオイルの圧力異常

ただちに点検を受けてください。

次の警告は、放置すると、システムが正しく働かず、思わぬ危険や故障を招くおそれがあることを意味します。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

警告灯	警告灯名・警告内容
	エンジン警告灯 ・エンジン電子制御システムの異常 ・電子制御スロットルの異常 ・オートマチックトランスミッション電子制御システムの異常
	SRS エアバッグ／プリテンショナー警告灯 ・SRS エアバッグシステムの異常 ・プリテンショナー付シートベルトシステムの異常
ABS	**ABS & ブレーキアシスト警告灯** ・ABS の異常 ・ブレーキアシストの異常
	パワーステアリング警告灯 (警告ブザー) ・EPS（エレクトリックパワーステアリング）の異常
PCS	**PCS 警告灯*** ・プリクラッシュセーフティシステムの異常
	ディスチャージヘッドライトオートレベリング警告灯* ・自動光軸調整システムの異常
4WD	**4WD 警告灯*** ・4WD システムの異常
	油量警告灯* ・エンジンオイル量の異常
VSC OFF （点滅）	**VSC OFF 表示灯*** 次のいずれかの機能の異常 ・VSC ・TRC ・ヒルスタートアシストコントロール* ・レーダークルーズコントロール*

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

知識

■パワーステアリング警告灯について

バッテリーの充電が不十分な場合、または一時的に電圧が下がった場合に点灯することがあります。

⚠警告

■パワーステアリング警告灯が点灯したときは

ハンドルが非常に重くなることがあります。ハンドルを操作して通常より重いときは、ハンドルをしっかりと持ち、通常より強く操作してください。

ただちに処置してください。

次の警告はそれぞれの対処方法にしたがって処置し、警告灯が消灯するのを確認してください。

警告灯	警告灯名・警告内容	対処方法
	半ドア警告灯 いずれかのドアが確実に閉まっていない	**開いているドアを閉める**
	燃料残量警告灯 燃料の残量（約 11 L）	**燃料を補給**
	運転席シートベルト非着用警告灯（警告ブザー）※ 運転席シートベルトの非着用	**シートベルトを着用**
PASSENGER	**助手席シートベルト非着用警告灯（警告ブザー）**※ 助手席シートベルトの非着用	**シートベルトを着用**

	マスターウォーニング* システムの異常時にブザーとともに点灯・点滅しマルチインフォメーションディスプレイ上に警告メッセージを表示します。	→P. 347

※ **運転席・助手席シートベルト非着用警告ブザー：**
運転席・助手席シートベルト非着用のまま車速が約 20 km/h 以上になると警告ブザーが 30 秒間断続的に鳴ります。その後も運転席・助手席シートベルト非着用のままだと、ブザーの音が変わり 90 秒間鳴ります。

知識

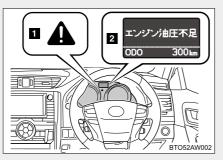
■助手席シートベルト非着用警告灯の乗員検知センサーの作動について

●乗員がいなくても、シートに荷物などを置くと、センサーが重量を検知して警告灯が点滅することがあります。

●座布団などを敷くと、センサーが乗員を検知せず警告灯が作動しないことがあります。

＊：車両型式などで異なる装備やオプション装備

警告メッセージが表示されたときは（マルチインフォメーションディスプレイ装着車）

マルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージが表示された場合は、落ち着いて次のようにご対処ください。

1 マスターウォーニングライト

マルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージが表示されているとき点灯・点滅します。

2 マルチインフォメーションディスプレイ

処置後に再度メッセージが表示されたときは、トヨタ販売店へご連絡ください。

ただちに停車してください。

次の警告は、お車への損傷や思わぬ危険を招くおそれがあることを意味します。ただちに安全な場所に停車し、トヨタ販売店へ連絡してください。

警告メッセージ	警告内容
エンジン油圧不足 ODO 300km （マスターウォーニングライト）	**エンジンオイル圧力の異常** エンジンオイルの圧力が異常に低いと警告ブザーとともに表示されます。

ただちに点検を受けてください。

次の警告は、放置すると、システムが正しく働かず、思わぬ危険や故障を招くおそれがあることを意味します。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

警告メッセージ	警告内容
4WD システムチェック ODO 300km	**4WD システム*の異常** 警告ブザーが鳴ります。
ステアリングロック システムチェック ODO 300km	**ステアリングロックシステムの異常** 警告ブザーが鳴ります。
VSC システムチェック ODO 300km	**TRC、VSC の異常** 警告ブザーが鳴ります。
PCS システムチェック ODO 300km PCS（点滅）	**PCS（プリクラッシュセーフティシステム）*の異常** 警告ブザーが鳴ります。

＊：車両型式などで異なる装備やオプション装備

警告メッセージ	警告内容
クルーズ システムチェック ODO 300km または （点滅）　（点滅）	**レーダークルーズコントロールシステム＊の異常** 警告ブザーが鳴ります。 安全な場所にお車を停め、エンジンを再度かけ直してレーダークルーズコントロールシステムを再セットしてください。
ナビ･ブレーキアシスト システムチェック ODO 300km	**ナビ・ブレーキアシストの異常** 警告ブザーが鳴ります。 ナビ・ブレーキアシストについては「ナビゲーションシステム取扱書」を参照してください。
VGRS システムチェック ODO 300km	**VGRS ＊の異常** 警告ブザーが鳴ります。
ソナー システム チェック ODO 300km	**クリアランスソナー＊の異常** 異常のあるソナーの位置が点滅し、警告ブザーが鳴ります。

＊：車両型式などで異なる装備やオプション装備

ただちに処置してください。

次の警告はそれぞれの対処方法にしたがって処置し、警告メッセージが消灯するのを確認してください。

警告メッセージ	警告内容	対処方法
運転席 ODO 300km	**各ドアが確実に閉まっていない** 開いてるドアが表示されます。	各ドアを閉める
パーキングブレーキを解除して下さい ODO 300km （点滅）	**パーキングブレーキをかけたまま、車速が約 5 km/h 以上になった** 警告ブザーが鳴ります。	パーキングブレーキを解除する
ムーンルーフが開いています ODO 300km （点滅）	**ムーンルーフ*が確実に閉まってない状態で“エンジン スタート ストップ”スイッチを OFF にして運転席ドアを開けた**	ムーンルーフを閉める
エンジンオイル不足 ODO 300km	**エンジンオイルの不足** 警告ブザーが鳴ります。	エンジンオイル量を点検し、エンジンオイルを補給する

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

警告メッセージ	警告内容	対処方法
PCS 現在使用できません ODO 300km PCS（点灯）	**PCS（プリクラッシュセーフティシステム）*が現在機能していない**	グリルまたはセンサーの汚れを取り除く プリクラッシュセーフティシステムが熱くなると点灯します。この場合はシステムが通常温度になるまでしばらくお待ちください。
レーダー汚れ 清掃必要 ODO 300km （点滅）	**レーダークルーズコントロール*のセンサー部分の汚れ、氷などの付着** 警告ブザーが鳴ります。	汚れおよび氷などを取り除く
悪天候 クルーズできません ODO 300km （点滅）	**レーダークルーズコントロール*の車間制御の測定不可** 警告ブザーが鳴ります。	ワイパーを止めるか低速作動にかえる スノーモードを解除する

＊：車両型式などで異なる装備やオプション装備

警告メッセージ	警告内容	対処方法
50 km/h ODO 300km（点滅）	**（レーダークルーズコントロール＊の車間制御中）衝突の危険性がある** 警告ブザーが鳴ります。	ブレーキを踏む
ブレーキ！ ODO 300km PCS（点滅）	**衝突の可能性が高い、またはプリクラッシュブレーキ＊が作動していることを示す** 警告ブザーが鳴ります。	ブレーキで減速する
ソナー汚れ ODO 300km	**クリアランスソナー＊のセンサー部分の汚れ、氷などの付着** 警告ブザーが鳴ります。	汚れおよび氷などを取り除く

知識

■レーダークルーズコントロールの車間制御中の警告表示について

車間距離が短くても、次のような場合は警告メッセージが表示されないおそれがあります。

●先行車と自車の速度が同じか先行車の方が速いとき

●先行車が非常にゆっくりした車のとき

●速度を設定した直後

●アクセルが踏まれたとき

＊：車両型式などで異なる装備やオプション装備

ただちに処置してください

それぞれの対処方法にしたがって処置し、警告メッセージが消灯するのを確認してください。

車内警告ブザー	車外警告ブザー	警告メッセージ	警告内容	対処方法
1 回	なし	キーが 見つかりません ODO 300km (点滅)	電子キーを携帯していない状態でエンジンをかけようとした	電子キーを携帯する
1 回	3 回	キーが 見つかりません ODO 300km (点滅)	“エンジン スタート ストップ”スイッチが OFF 以外の状態で運転席以外のドアが開閉され同乗者が電子キーを持ち出した	電子キーを車内にもどす
			シフトレバーが P の状態で、“エンジン スタート ストップ”スイッチを OFF にせずにキーを持ち出したまま運転席ドアが開閉された	“エンジン スタート ストップ”スイッチを OFF にする または電子キーを車内にもどす

車内警告ブザー	車外警告ブザー	警告メッセージ	警告内容	対処方法
1回	1回	キーが見つかりません ODO 300km 電源をOFFして下さい ODO 300km （交互に表示） （点滅）	“エンジン スタート ストップ” スイッチを OFF にせずに、電子キーを外に持ち出してドアを施錠しようとした	“エンジン スタート ストップ” スイッチを OFF にしたあと、再度施錠する
1回	なし	キーが見つかりません ODO 300km （点滅）	正規の電子キーが車室内に無い状態で走行をはじめた	車室内に電子キーがあるか確認する
連続音	なし	Pレンジに入れて下さい ODO 300km （点滅）	シフトレバーが P 以外の状態で、“エンジン スタート ストップ” スイッチを OFF にせずに運転席ドアが開いた	シフトレバーを P にする
連続音	連続音	Pレンジに入れて下さい ODO 300km キーが見つかりません ODO 300km （交互に表示） （点滅）	シフトレバーが P 以外の状態で、“エンジン スタート ストップ” スイッチを OFF にせずにキーを持ち出したまま運転席ドアが開閉された	・シフトレバーを P にする。 ・電子キーを車内に入れる

車内警告ブザー	車外警告ブザー	警告メッセージ	警告内容	対処方法
1 回	連続音	車室内に キーがあります ODO 300km （点滅）	車内に電子キーを置いたまま、スマートエントリー＆スタートシステムでドアを施錠しようとした	車内から電子キーを取り出したあと、再度施錠する
			車内に電子キーを置いたまま、フロントドアを開きロックレバーを施錠側にしてドアハンドルを引いたままドアを閉めて施錠しようとした	
1 回	なし	ブレーキを踏みながら キーでエンジンスイッチ に触れて下さい ODO 300km （点滅）	・メカニカルキーで解錠して“エンジン スタート ストップ”スイッチを押したした際、車室内でキーを検出できなかった ・“エンジン スタート ストップ”スイッチを押したときに車室内でキーを検出できないことが 2 回連続で続いた	ブレーキを踏みながら電子キーで“エンジン スタート ストップ”スイッチに触れる

車内警告ブザー	車外警告ブザー	警告メッセージ	警告内容	対処方法
1 回	なし	始動時はPレンジに入れて下さい ODO 300km (点滅)	エンジン始動不可能なシフトレバー位置でエンジン始動しようとしている	シフトレバーを P に入れてからエンジンを始動させる
1 回	なし	電源OFF時はPレンジに入れてエンジンスイッチを押して下さい ODO 300km (点滅)	シフトレバーが P もしくは N 以外で“エンジン スタート ストップ ”スイッチを OFF にしようとした	“エンジン スタート ストップ ”スイッチを OFF にしたい場合は、シフトレバーを P にし“エンジン スタート ストップ ”スイッチを押す
なし	なし	バッテリー保護の為自動電源OFFしました ODO 300km	自動電源 OFF 機能が作動した	次回エンジン始動時にエンジン回転数を少し高めにし、約 5 分間その回転数を保持しバッテリーを充電する
1 回	なし	キーバッテリー残りわずか ODO 300km	電子キーの電池残量が少ない	新しい電池と交換する (→P. 323)

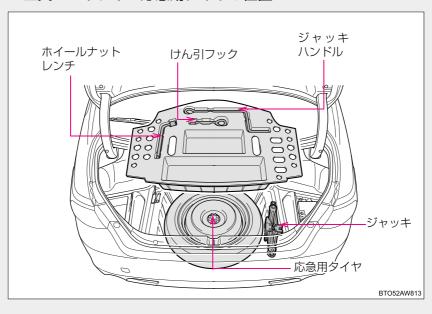
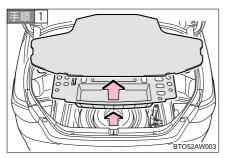
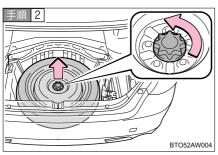
車内警告ブザー	車外警告ブザー	警告メッセージ	警告内容	対処方法
1 回	なし	始動時はブレーキを踏みながらエンジンスイッチを押して下さい ODO 300km （点滅）	“ エンジン スタート ストップ ” スイッチが OFF の状態で運転席のドアを開閉してからエンジンをかけずに “ エンジン スタート ストップ ” スイッチをアクセサリーモードに 2 回以上した	ブレーキを踏んで “ エンジン スタート ストップ ” スイッチを押す
			電子キーが正常に働かないときのエンジン始動の方法で（→P. 373）“ エンジン スタート ストップ ” スイッチに電子キーで触れた	ブザーが鳴ってから 10 秒以内に “ エンジン スタート ストップ ” スイッチを押す
1 回	なし	ステアリングロック未解除 ODO 300km （点滅）	“ エンジン スタート ストップ ” スイッチを押してから約 3 秒以内にステアリングロックが解除できなかった	ブレーキを踏んでハンドルを左右に回しながら “ エンジン スタート ストップ ” スイッチを押す

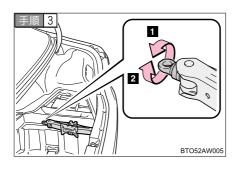
パンクしたときは

パンクしたタイヤを、備えつけの応急用タイヤと交換してください。
(タイヤについての詳しい説明は、P. 290 をご覧ください。)

■ ジャッキで車体を持ち上げる前に

- 地面が固く平らな場所に移動する
- パーキングブレーキをかける
- シフトレバーを P に入れる
- エンジンを止める
- 非常点滅灯を点滅させる

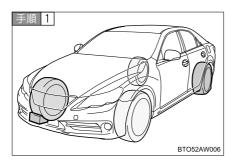
■ 工具・ジャッキ・応急用タイヤの位置

ジャッキと応急用タイヤの取り出しかた

ラゲージマットを取り出し、ラゲージアンダートレイを取りはずす

応急用タイヤを取りはずす

止め具を取りはずし、タイヤを取り出す。

ジャッキを取り出す

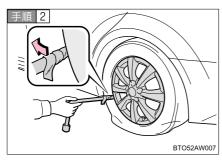
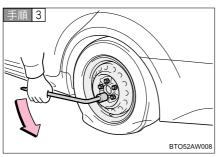
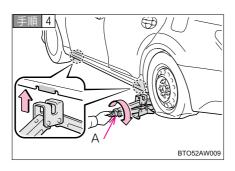
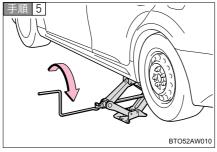
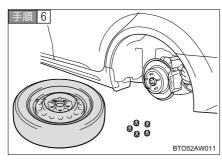
1 締める

2 ゆるめる

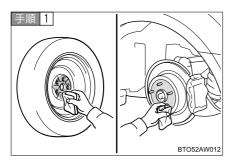
格納するときはジャッキと固定具がかみあうよう確実に固定してください。

パンクしたタイヤの交換

輪止め※をする

パンクしたタイヤ		輪止めの位置
前輪	左側	右側後輪後ろ
	右側	左側後輪後ろ
後輪	左側	右側前輪前
	右側	左側前輪前

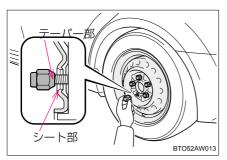
※ 輪止めは、トヨタ販売店で購入することができます。

ホイールキャップをはずす
(スチールホイールのみ)

ナットを少し(約 1 回転)ゆるめる

ジャッキの A 部を手で回して、ジャッキ溝をジャッキセット位置にしっかりかける

タイヤが地面から少し離れるまで、車体を上げる

ナットすべてを取りはずし、タイヤを取りはずす

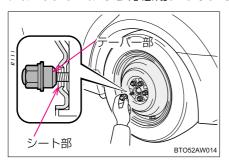
タイヤを直接地面に置くときは、ホイールの意匠面に傷がつかないよう意匠面を上にする

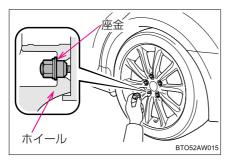
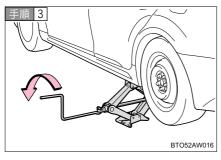
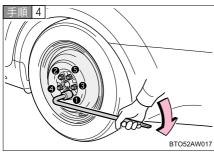
タイヤの取りつけ

ホイール接触面の汚れをふき取る

ホイール接触面が汚れていると、走行中にナットがゆるみ、タイヤがはずれるおそれがあります。

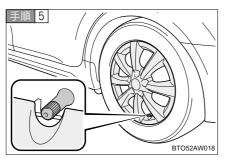
手順 2 タイヤを取りつけ、タイヤががたつかない程度まで手でナットを仮締めする

スチールホイールからスチールホイールにかえるとき（応急用タイヤを含む）

ナットのテーパー部がホイールのシート部に軽くあたるまで回す

アルミホイールから応急用タイヤにかえるとき

ナットのテーパー部がホイールのシート部に軽く当たるまで回す

アルミホイールからアルミホイールにかえるとき

ナットの座金がホイールに当たるまで回す

車体を下げる

図の番号順でナットを2､3度しっかり締め付ける

締めつけトルク：

103 N・m (1050 kgf・cm)

手順 5 ホイールキャップを取り付ける※

タイヤのバルブ (空気口) に切り欠きを合わせてホイールキャップを確実に取り付けます。

※ スチールホイールのみ（応急用タイヤに取り付けることはできません）

手順 6 すべての工具・ジャッキ・パンクしたタイヤを収納する

知識

■応急用タイヤについて

●タイヤの側面に TEMPORARY USE ONLY と書かれています。応急用にのみお使いください。

●空気圧を必ず点検してください。（→P. 387）

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

⚠警告

■ジャッキの使用について

ジャッキの取り扱いを誤ると、車が落下して死亡またはけがにつながるおそれがあります。
次のことをお守りください。

- ジャッキはタイヤ交換、タイヤチェーン取り付け、取りはずし以外の目的で使用しない
- 備えつけのジャッキは、お客様の車にしか使うことができないため他の車に使ったり、他の車のジャッキをお客様の車に使わない
- ジャッキセット位置に正しくジャッキがかかっていることを確かめる
- ジャッキで支えられている車の下に身体を入れない
- ジャッキで支えられている状態で、エンジンをかけたり走らせない
- 車内に人を乗せたまま車を持ち上げない
- 車を持ち上げるときは、ジャッキの上または下に物をのせない
- 車を持ち上げるときは、タイヤ交換できる高さ以上に上げない
- 車の下にもぐりこんで作業する場合はジャッキスタンドを使用する

車両を下げる際は特に、ご自身や周囲の人がけがをしないよう注意してください。

警告

■**タイヤ交換について**

ケガを負う危険を減らすため、次のことを必ずお守りください。

●走行直後、ディスクホイールやブレーキまわりなどには触れない
走行直後のディスクホイールやブレーキまわりは高温になっているためタイヤ交換などで手や足などが触れると、やけどをするおそれがあります。

●ねじ部にオイルやグリースをぬらない
ナットを締めるときに必要以上に締めつけられ、ボルトが破損したり、ディスクホイールが損傷するおそれがあります。また、ナットがゆるみホイールが落下して、重大な事故につながるおそれがあります。オイルやグリースがねじ部についている場合はふき取ってください。

●ホイールの交換後はすぐに 103 N・m（1050 kgf・cm）の力でナットを締める

●ボルトやナットのねじ部や、ホイールのボルト穴につぶれや亀裂などの異常がある場合は、トヨタ販売店で点検を受ける。
上記のことを守らないとナットがゆるみ、ホイールがはずれ落ち、死亡や重大な障害につながるおそれがあります。

■**応急用タイヤを使用するときは**

●お客様のお車専用になっているため、他の車には使用しないでください

●同時に２つ以上の応急用タイヤを使用しないでください

●できるだけ早く通常のタイヤと交換してください

●急加速、急ブレーキ、急減速、急旋回は避けてください

■**応急用タイヤ使用時の速度制限**

応急用タイヤを装着しているときは、100 km/h 以上の速度で走行しないでください。
応急用タイヤは、高速走行に適していないため、思わぬ事故につながるおそれがあります。

警告

■応急用タイヤ装着中は

●正確な車両速度が検出できない場合があり、下記のシステムが正常に作動しなくなるおそれがあります。

・ABS &ブレーキアシスト
・VSC
・EPS
・AVS＊
・AFS＊
・VDIM＊
・TRC
・ナビゲーションシステム＊
・レーダクルーズコントロール＊
・クリアランスソナー＊
・PCS＊
・NAVI・AI-SHIFT＊
・サイドモニター＊
・バックガイドモニター＊
・インテリジェントパーキングアシストシステム＊

また、下記のシステムは、性能が十分に発揮できないばかりでなく、駆動系部品に悪影響を与えるおそれがあります。

●4WD システム＊

注意

■パンクしたままの走行について

タイヤがパンクした状態で走行を続けないでください。
短い距離の運転でも、タイヤとホイールが修理できないほどの損傷になります。

■応急用タイヤ装着中は段差に注意

応急用タイヤ装着中は、標準タイヤの装着時に比べ車高が低くなっています。段差を乗り越えるときはご注意ください。

■応急用タイヤ使用時のタイヤチェーン装着

応急用タイヤには、タイヤチェーンを装着しないでください。
タイヤチェーンが車体側に当たり、走行に悪影響をおよぼすおそれがあります。

＊：車両型式などで異なる装備やオプション装備

エンジンがかからないときは

正しいエンジンのかけ方（→P. 127、P. 130）にしたがっても、またステアリングロックを解除（→P. 128、P. 133）してもエンジンがかからないときは、次のことをご確認ください。

■ スターターは正常に回っているのにエンジンがかからない場合

次の原因が考えられます。

- 燃料が入っていない可能性があります。
  給油してください。
- 燃料を吸いこみすぎている可能性があります。
  再度、正しい手順（→P. 127）にしたがって、エンジンをかけてください。
- エンジンイモビライザーシステム*に異常がある可能性があります。
  （→P. 88）

■ スターターがゆっくり回る／室内灯・ヘッドライトが暗い／ホーンの音が小さい、または鳴らない場合

次の原因が考えられます。

- バッテリーあがりの可能性があります。（→P. 374）
- バッテリーのターミナルがゆるんでいる可能性があります。

■ スターターが回らない

電装品の断線やヒューズ切れなど、電気系統異常の可能性があります。異常の種類によっては、エンジンを一時的な処置でかけることができます。（→P. 369）

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

緊急時のエンジン始動（スマートエントリー＆スタートシステム装着車）

通常のエンジン始動操作でエンジンが始動しないときは、次の手順でエンジンが始動する場合があります。緊急時以外は、この方法で始動させないでください。

手順 1 パーキングブレーキをかける

手順 2 シフトレバーをＰに入れる

手順 3 “エンジン スタート ストップ”スイッチをアクセサリーモードにする

手順 4 ブレーキペダルをしっかり踏みながら、約 15 秒以上“エンジン スタート ストップ”スイッチを長押しする

上記の手順に従いエンジンが始動できても、システムが故障しているおそれがあります。トヨタ販売店で点検を受けてください。

シフトレバーがシフトできないときは

ブレーキペダルを踏んだ状態でシフトレバーがシフトできない場合、シフトロックシステム（シフトレバーの誤操作を防ぐ装置）などの故障が考えられます。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。ただし一時的な処置として、次の方法でシフトレバーをシフトすることができます。

手順 1 パーキングブレーキをかける

手順 2

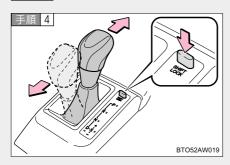
スマートエントリー&スタートシステム非装着車

エンジン スイッチを “ ACC ” にする

スマートエントリー&スタートシステム装着車

“ エンジン スタート ストップ ” スイッチをアクセサリーモードにする

手順 3 ブレーキペダルを踏む

手順 4

シフトロック解除ボタンを押す

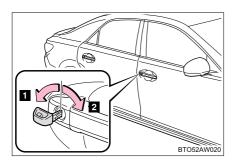
ボタンを押している間はレバーをシフトできます。

キーを無くしたときは

キーナンバープレートに打刻されたキーナンバーと残りのキーから、トヨタ販売店でトヨタ純正品の新しいキーを作ることができます。
(→P. 22)

電子キーが正常に働かないときは（スマートエントリー&スタートシステム装着車）

電子キーと車両間の通信がさまたげられたり（→P. 30）、電子キーの電池が切れたときは、スマートエントリー&スタートシステムとワイヤレスリモコンが使用できなくなります。このような場合、次の手順でドアを開けること、エンジンを始動することができます。

ドアの解錠・施錠

メカニカルキー（→P. 23）を使って操作する

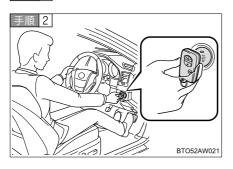
1 全ドア解錠

2 全ドア施錠

メカニカルキーでドアガラス・ムーンルーフ*の開閉を行うことができます。詳しくは販売店にご相談ください。

モードの切りかえ・エンジン始動の方法

手順 1 シフトレバーが P の状態でブレーキを踏む

手順 2

電子キーのトヨタエンブレム面で“ エンジン スタート ストップ ”スイッチに触る

この操作中にいずれかのドアが開閉されると、スマートエントリー＆スタートシステムが“ エンジン スタート ストップ ”スイッチに触れた電子キーを正しく検知できず警告音が鳴りマルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

手順 3 モードの切りかえ：

ブザーが鳴ってから 10 秒以内に、ブレーキペダルから足を離して“ エンジン スタート ストップ ”スイッチを押す

“ エンジン スタート ストップ ”スイッチを押すごとにモードが切りかわります。（→P. 131）

エンジン始動：

ブザーが鳴ってから 10 秒以内に、ブレーキペダルをしっかり踏み込んで“ エンジン スタート ストップ ”スイッチを押す

処置をしても作動しないときは、トヨタ販売店に連絡してください。

知識

■エンジン停止のしかた

通常のエンジン停止のしかたと同様、シフトレバーを P にして“ エンジン スタート ストップ ”スイッチを押します。

■電池交換について

前頁のエンジン始動の方法は一時的な処置です。電池が切れたときは、ただちに電池の交換をお勧めします。（→P. 323）

バッテリーがあがったときは

バッテリーがあがった場合、次の手順でエンジンを始動することができます。

ブースターケーブルのセットと 12V のバッテリーつき救援車があれば、次の手順にしたがって、エンジンを始動させることができます。

手順 1 ボンネットを開ける (→P. 294)

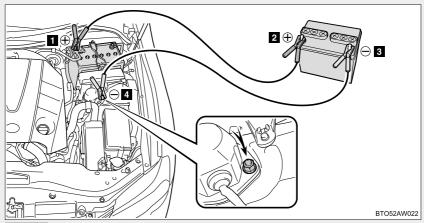
手順 2 バッテリーの＋端子のカバーをはずし、ブースターケーブルを次の順につなぐ

1 赤色のブースターケーブルを自車のバッテリーの＋端子につなぐ

2 赤色のブースターケーブルのもう一方の端を救援車のバッテリーの＋端子につなぐ

3 黒色のブースターケーブルを救援車のバッテリーの－端子につなぐ

4 黒色のブースターケーブルのもう一方の端をバッテリーから離れた、未塗装の金属部（図に示すような固定された部分）につなぐ

手順 3 救援車のエンジンをかけ、回転を少し高めにして、約 5 分間自車のバッテリーを充電する

手順 4 “エンジン スタート ストップ”スイッチが OFF の状態で、いずれかのドアを開閉する（スマートエントリー&スタートシステム装着車）

手順 5

スマートエントリー&スタートシステム非装着車

救援車のエンジン回転を維持したまま、エンジン スイッチをいったん“ON”にしてから、自車のエンジンをかける

スマートエントリー&スタートシステム装着車

救援車のエンジン回転を維持したまま、“エンジン スタート ストップ”スイッチをいったんイグニッション ON モードにしてから、自車のエンジンをかける

手順 6 自車のエンジンが始動したら、ブースターケーブルをつないだときと逆の順ではずす

ブースターケーブルをはずしたあとは、バッテリーの＋端子のカバーをもとにもどしてください。

エンジンがかかっても、早めにトヨタ販売店で点検を受けてください。

知識

■バッテリーあがり時の始動について

この車両は、押しがけによる始動はできません。

■バッテリーあがりを防ぐために

- ●エンジンがかかっていないときは、ライトやオーディオの電源を切ってください。
- ●渋滞などで長時間止まっているときは、不必要な電装品の電源を切ってください。

■バッテリーがあがったときは

コンピューターに記憶されている情報が消去されます。バッテリーがあがったときはトヨタ販売店で点検を受けてください。

■バッテリーがあがったときの留意事項（スマートエントリー&スタートシステム装着車）

- ●バッテリーがあがった直後はスマートエントリー&スタートシステムによるドアの解錠ができない場合があります。解錠できなかった場合は、ワイヤレスリモコン、または メカニカルキーで解錠・施錠を実施してください。
- ●バッテリーがあがったあとの、最初のエンジン始動は失敗することがあります。2 回目以降のエンジン始動は正常に動作しますので、問題ではありません。
- ●車両は常に“エンジン スタート ストップ”スイッチの状態を記憶しています。バッテリーあがり時、バッテリー脱着後は、車両はバッテリーがあがる前の状態に復帰します。バッテリーを脱着する際は、“エンジン スタート ストップ”スイッチを OFF にしてから行ってください。
  バッテリーあがり前の“エンジン スタート ストップ”スイッチの状態が不明の場合、バッテリー接続時は特に注意してください。

警告

■バッテリーの引火または爆発を防ぐために

バッテリーから発生する可燃性ガスに引火して爆発するおそれがあり危険ですので、火や火花が発生しないよう、次のことをお守りください。

●ブースターケーブルは正しい端子または接続箇所以外に誤って接触しない

●ブースターケーブルは“＋”と“－”の端子を絶対に接触させない

●バッテリー付近では、喫煙したりマッチやライターなどで火を起こさない

■バッテリーの取り扱いについて

バッテリー内には有毒で腐食性のある酸性の電解液が入っており、また関連部品には鉛または鉛の混合物を含んでいるので、取り扱いに関し、次のことを必ずお守りください。

●バッテリーを取り扱うときは保護メガネを着用し、液（酸）が皮膚・衣服・車体につかないようにする

●バッテリーに寄りかかったりしない

●誤ってバッテリー液が身体についたり目に入った場合、ただちに大量の水で洗い、すぐに医師の診断を受ける
また、医師の診断を受けるまで、水を含ませたスポンジや布を患部に当てておく

●バッテリーの支柱、ターミナル、その他の関連部品の取り扱い後は手を洗う

●お子さまをバッテリーに近付けない

注意

■ブースターケーブルの取り扱いについて

ブースターケーブルを接続したり、取りはずすときは、冷却ファンやベルトに巻き込まれないように十分注意してください。

オーバーヒートしたときは

オーバーヒートしたときは：

手順 1 車を安全な場所に止め、エアコンを止める

手順 2 エンジンルームから蒸気が出ているか確認する

蒸気が出ている場合：

エンジンを止める。蒸気が出なくなったら、注意してボンネットを開け、エンジンを再始動する

蒸気が出ていない場合：

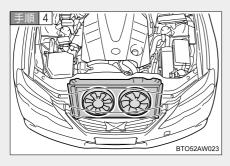
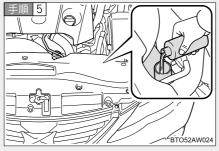
エンジンをかけたまま注意してボンネットを開ける

手順 3 ラジエーター冷却用のファンが作動しているか確認する

ファンが作動している場合：

水温計の針が下がってきてからエンジンを止める

ファンが作動していない場合：

すぐにエンジンを止めて、トヨタ販売店に連絡する

エンジンが十分に冷えてから、冷却水の量やラジエーターコア部（放熱部）の冷却水漏れを点検する

冷却水が不足している場合は、冷却水を補給する

冷却水がない場合は、応急措置として水を補給する。

早めに最寄りのトヨタ販売店で点検を受けてください。

知識

■オーバーヒートとは

次の状態がオーバーヒートです。

- ●メーター内の水温計の針がレッドゾーンに入ったり、エンジン出力が低下する
- ●エンジンルームから蒸気が出る

警告

■エンジンルーム点検中の事故やけがを防ぐために

- ●エンジンルームから蒸気が出ている場合は、蒸気が出なくなるまでボンネットを開けないでください。エンジンルーム内が高温になっているため、やけどなどの重傷を負うおそれがあります。
- ●エンジンがかかっているときは、手や着衣をファンやベルトから離してください。
- ●ボンネット（→P. 294）、エンジンルームカバー（→P. 300）の注意事項も併せてお読みください。
- ●エンジンおよびラジエーターが熱いうちはラジエーターキャップを開けないでください。
  高温の蒸気や冷却水が圧力によって噴き出し、やけどなどの重傷を負うおそれがあります。

注意

■冷却水を入れるときの注意

エンジンが十分に冷えてから入れてください。
冷却水はゆっくり入れてください。
エンジンが熱いときに急に冷たい冷却水を入れると、エンジンが損傷するおそれがあります。

スタックしたときは

ぬかるみや砂地、雪道などでタイヤが空転したり埋まり込んで動けなくなったときは次の方法で脱出してください。

手順 1 パーキングブレーキをかけシフトレバーを P に入れ、エンジンを止める

手順 2 タイヤの前後の土や雪を取り除く

手順 3 タイヤの下に木や石をあてがう

手順 4 エンジンを再始動する

手順 5 シフトレバーを D または R に確実に入れ、注意しながらアクセルを踏む

TRC・VSC の作動で脱出しにくいときは、TRC または VSC を停止してください。（→P. 200）

警告

■**脱出するときの警告**

前進と後退を繰り返してスタックから脱出する場合、他の車、物または人との衝突を避けるため周囲に何もないことを確認してください。
スタックから脱出するとき、車が前方または後方に飛び出すおそれがありますので、とくに注意してください。

■**シフトレバーを操作するときは**

アクセルペダルを踏み込んだまま操作しないように気をつけてください。
車が急発進し、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

注意

■**トランスミッションやその他の部品への損傷をさけるために**

- タイヤが空転するのを避け、エンジンを空ぶかししないでください。
- この方法で脱出できなかった場合、けん引による救援が必要です。

車両の仕様 6

メンテナンスデータ（油脂類の容量と銘柄）

使用するオイルの品質により、自動車の寿命は著しく左右されます。トヨタ車には最も適したトヨタ純正オイル・液類のご使用をおすすめします。トヨタ純正油脂以外を使用される場合は、それぞれの油脂に相当する品質のものをご使用ください。

燃料

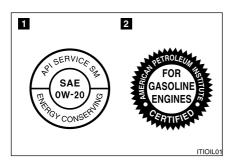
銘柄	エンジン	容量 [L]（参考値）
無鉛レギュラーガソリン	4GR-FSE	71
無鉛プレミアムガソリン（無鉛ハイオク）	2GR-FSE	

エンジンオイル

銘柄		容量 [L]（参考値）	
		オイルのみ交換	オイルとオイルフィルター交換
トヨタ純正モーターオイル　SM 0W-20※ —API SM, EC/ILSAC　GF-4, SAE 0W-20 トヨタ純正モーターオイル　SM 5W-30 —API SM, EC/ILSAC　GF-4, SAE 5W-30 トヨタ純正モーターオイル　SM 10W-30 —API SM, EC/ILSAC　GF-4, SAE 10W-30 トヨタ純正モーターオイル　SL 5W-20 —API SL, EC SAE 5W-20 トヨタ純正モーターオイル　SL 10W-30 —API SL, EC SAE 10W-30	FR	5.9	6.3
	4WD	6.0	6.4

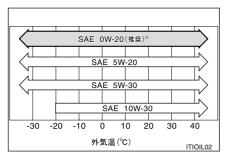
※ 0W-20は新車時に充填されている、最も省燃費性に優れるオイルです。

■ 指定エンジンオイル

API 規格 SM/EC、SL/EC か、ILSAC 規格合格油をおすすめします。なお、ILSAC 規格合格油の缶には ILSAC CERTIFICATION（イルサックサーティフィケーション）マークが付いています。

1 API マーク

2 ILSAC CERTIFICATIONマーク

■ エンジンオイル推奨粘度

下記表に基づき、外気温に適した粘度のものをご使用ください。

※ 0W-20 は新車時に充填されている、最も省燃費性に優れるオイルです。

オイル粘度について：

- オイル粘度表示の 0W は、低温時のエンジン始動特性を示しています。W の前の数値が小さいほど冬場や寒冷時のエンジン始動が容易になります。
- 0W-20 の 20 は、オイル粘度の硬さを示しています。
  粘度の高いオイルは、高速または重負荷走行に適しています。

ラジエーター

銘柄	エンジン	容量 [L] (参考値)
トヨタ純正スーパーロングライフクーラント 凍結保証温度 濃度 30%　-12 ℃ 濃度 50%　-35 ℃	2GR-FSE	9.2
	4GR-FSE	9.4

オートマチックトランスミッション

銘柄		エンジン	容量 [L] (参考値※)
トヨタ純正オートフルード　WS	FR	2GR-FSE	7.9
		4GR-FSE	7.5
	4WD		9.4

※ 容量は参考値です。交換が必要な際はトヨタ販売店にご相談ください。

ディファレンシャル

銘柄（推奨粘度）			容量 [L]（参考値）
フロント (4 WD 車のみ)	トヨタ純正ハイポイドギヤオイル ＳＸ (API GL-5、SAE 85W-90)		0.70
リヤ	トヨタ純正ハイポイドギヤオイル ＬＴ (API GL-5、SAE 75W-85)	2GR-FSE	1.35
		4GR-FSE	1.15

ブレーキ

■ ブレーキフルード

銘柄
トヨタ純正ブレーキフルード 2500H

■ ブレーキペダル

項目		基準値 [mm]
遊び		1 ～ 2
踏み込んだときの床板とのすき間※	2GR-FSE	60 以上
	4GR-FSE	62 以上

※ エンジン回転時に 490 N (50 kgf) の踏力をかけたときの床板とのすき間の最小値

■ パーキングブレーキ

項目	基準値（回数）
踏みしろ 操作力 300N (30.6 kgf) のときのノッチ※数	7 ～ 9

※ ノッチとは、パーキングブレーキをかけるときの節度（“カチッ” という音）のことです。

ウォッシャー

容量 [L]（参考値）	4.7

タイヤ

タイヤサイズ		タイヤが冷えているときの空気圧 kPa (kg/cm^2)	
		前輪	後輪
標準タイヤ	215/60R16 95H	250 (2.5)	
	235/45R18 94W	240 (2.4)	
応急用タイヤ	T155/70D17 110M	420 (4.2)	

電球（バルブ）

電球		W（ワット）数
車外	ヘッドライト ハイビーム（バルブタイプ：HB3） ロービーム（バルブタイプ：H11）* ロービーム（ディスチャージヘッドライト）*	 60 55 35
	車幅灯	5
	フロントフォグライト（バルブタイプ：H11）*	55
	フロント方向指示兼非常点滅灯	21
	サイド方向指示兼非常点滅灯	LED ※
	リヤ方向指示兼非常点滅灯	21
	制動灯＆尾灯	LED ※
	後退灯	16
	ハイマウントストップライト	LED ※
	番号灯	5
	リヤフォグライト*	21

※ LEDは、Light Emitting Diodes（発光ダイオード）の略で、半導体発光電子素子です。

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

電球		W（ワット）数
車内	フロントパーソナルライト	8
	ルームライト	8
	フロントドアトリム照明*	LED ※
	リヤドアトリム照明*	LED ※
	トランクライト	5
	フロント足元照明*	LED ※
	ドアカーテシライト*	5
	バニティライト	8
	インパネ・シフト照明	LED ※
	グローブボックスライト	LED ※

※ LED は、Light Emitting Diodes（発光ダイオード）の略で、半導体発光電子素子です。

車両仕様

型式	エンジン	駆動方式
GRX130	4GR-FSE （2.5L ガソリン）	FR（後輪駆動）
GRX135		4WD（4 輪駆動）
GRX133	2GR-FSE （3.5L ガソリン）	FR（後輪駆動）

＊：車両型式などで異なる装備やオプション装備

ユーザーカスタマイズ機能一覧

お車には、設定を変更することが可能な数多くの装備がついています。トヨタ販売店で作動などをご希望の設定に変更することができます。

機能によっては、他の機能と連動して設定が変わるものもあります。詳しくはトヨタ販売店へお問い合わせください。

<table>
<tr><th>項目</th><th>機能の内容</th><th>初期設定</th><th>変更後</th></tr>
<tr><td rowspan="2">スマートエントリー＆スタートシステム
(→P. 25)</td><td>スマートエントリー＆スタートシステム</td><td>する</td><td>しない</td></tr>
<tr><td>解錠ドアの選択</td><td>全席</td><td>運転席</td></tr>
<tr><td rowspan="6">ワイヤレスドアロック
(→P. 36)</td><td>ワイヤレス機能</td><td>する</td><td>しない</td></tr>
<tr><td>解錠時の操作</td><td>1 回で全ドア解錠</td><td>1 回で運転席ドアのみ解錠、連続 2 回で全ドア解錠</td></tr>
<tr><td rowspan="4">ワイヤレスリモコンのトランクスイッチを押しての解錠操作</td><td rowspan="4">1 回長押し</td><td>1 回短押し</td></tr>
<tr><td>2 回押し</td></tr>
<tr><td>1 回長押し (初期設定よりも長め)</td></tr>
<tr><td>なし</td></tr>
<tr><td rowspan="6">スマートエントリー＆スタートシステム（→P. 25）とワイヤレスドアロック（→P. 36）共通</td><td rowspan="2">作動の合図（ブザー音量調整）</td><td rowspan="2">7</td><td>6 〜 1</td></tr>
<tr><td>OFF</td></tr>
<tr><td>作動の合図（非常点滅灯）</td><td>する</td><td>しない</td></tr>
<tr><td rowspan="2">解錠後、ドアを開けなかったときの自動施錠までの時間</td><td rowspan="2">30 秒</td><td>60 秒</td></tr>
<tr><td>120 秒</td></tr>
<tr><td>半ドア警告ブザー</td><td>する</td><td>しない</td></tr>
</table>

項目	機能の内容	初期設定	変更後
ドアロック (→P. 39)	車速感応式ドアロック	あり	なし
	運転席を開けたときの全ドア解錠	なし	あり
	シフトレバーを P にしたときの全ドア解錠	あり	なし
	シフトレバーを P 以外にしたときの全ドア施錠	なし	あり
	メカニカルキーによる解錠 (スマートエントリー＆スタートシステム装着車)	1回で全ドア解錠	1回で運転席ドア解錠、連続2回で全ドア解錠
	ドアキーによる解錠 (スマートエントリー＆スタートシステム非装着車)		
パワーウインドウ (→P. 77)	ドアキー連動開閉機能	なし	あり
	ワイヤレスリモコン連動開閉機能	なし	あり
ムーンルーフ (→P. 80)	ドアキー連動開閉機能	あり	なし
	ドアキー連動時の作動	開閉作動	開作動のみ
			閉作動のみ
	ドアキー連動作動時の開閉部位	スライドのみ	チルトのみ
	ワイヤレスリモコン連動開閉機能	あり	なし
	ワイヤレスリモコン連動時の作動	開閉作動	開作動のみ
			閉作動のみ
	ワイヤレスリモコン連動作動時の開閉部位	スライドのみ	チルトのみ
ライト自動点灯・消灯システム (→P. 163)	ライトセンサーの感度調整	レベル 3	レベル 1 ～ 5
	ライトを点灯するまでの時間	標準	長め

項目	機能の内容	初期設定	変更後
イルミネーション (→P. 259)	消灯までの時間	15 秒	7.5 秒
			30 秒
			OFF
	“ エンジン スタート ストップ ” スイッチ OFF 後の作動 (スマートエントリー＆スタートシステム装着車)	あり	なし
	エンジン スイッチ “LOCK ” 後の作動 (スマートエントリー＆スタートシステム非装着車)		
	解錠時の作動	あり	なし
	足元照明の点灯	あり	なし
	接近時のルームライトの点灯	あり	なし
エアコン (→P. 222)	AUTO スイッチを ON にしたとき、A/C（エアコン）スイッチが連動して ON になる	する	しない
クリアランスソナー (→P. 189)	バックソナーの検知開始距離	約 150 ㎝	約 60 ㎝
	ブザー音量	レベル 3	レベル 1 ～ 5
その他	周囲の明るさにより、メーターなどの照度を自動減光するためのセンサーの感度調節	レベル 3	レベル 1 ～ 5
	周囲の明るさにより、減光したメーターなどの照度をもとにもどすためのセンサーの感度調節	レベル 3	レベル 1 ～ 5
	リヤサンシェードリバース連動機能	あり	なし
	降車時運転席シート移動量調節	標準	OFF
			少なめ

知識

■車両カスタマイズについて

ムーンルーフの「ドアキー連動開閉機能」・「ワイヤレスリモコン連動開閉機能」は、それぞれ、パワーウインドウの「ドアキー連動開閉機能」・「ワイヤレスリモコン連動開閉機能」と併せて「あり」に設定しないと作動しません。
ムーンルーフの連動開閉機能は、ムーンルーフのみ作動させない場合に設定を変更してください。

初期設定が必要な項目

次の項目はバッテリーを再接続したり、メンテナンスを行ったあとなどに、システムを正しく働かせるために初期設定が必要です。

項目	初期設定が必要なとき	参照先
バックガイドモニター*	・バッテリーの充電、交換後の再接続時 ・ヒューズ交換後	別冊「ナビゲーションシステム取扱書」
インテリジェントパーキングアシスト*		

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

さくいん

アルファベット略語一覧

アルファベット略語	カタカナ表記
ABS	アンチロックブレーキシステム
ACC	アクセサリー
AFS ＊	アダプティブフロントライティングシステム
DISP ＊	ディスプレイ
ECO	エコノミー／エコロジー
ECU	エレクトリックコントロールユニット
EDR	イベントデータレコーダー
EPS	エレクトリックパワーステアリング
LED	ライトエミッティングダイオード
PCS ＊	プリクラッシュセーフティシステム
SRS	サプリメンタルレストレイントシステム
TRC	トラクションコントロール
VDIM ＊	ビークルダイナミクスインテグレーテッドマネージメント
VGRS ＊	バリアブルギアレシオステアリング
VSC	ビークルスタビリティコントロール

＊：車両型式などで異なる装備やオプション装備

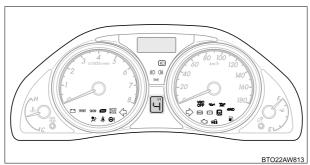
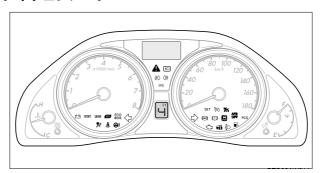
五十音順さくいん

れ

わ

症状別さくいん

症状	ページ	参照先
タイヤがパンクした	P. 358	パンクしたときは
エンジンがかからない	P. 368	エンジンがかからないときは
	P. 88	エンジンイモビライザーシステム
	P. 374	バッテリーがあがったときは
シフトレバーが動かない	P. 370	シフトレバーがシフトできないときは
水温計の針が赤いゾーンに入った	P. 378	オーバーヒートしたときは
エンジンルームから蒸気が立ちのぼった	P. 378	オーバーヒートしたときは
キーを無くした	P. 371	キーを無くしたときは
バッテリーがあがった	P. 374	バッテリーがあがったときは
ドアが施錠できない	P. 25 P. 36 P. 39	ドア
ぬかるみや砂地などで動けなくなった	P. 380	スタックしたときは
警告灯が点灯、点滅した	P. 343	警告灯がついたときは

常時発光式メーター

オプティトロンメーター

■警告灯一覧

ブレーキ警告灯
P. 343

ABS& ブレーキアシスト警告灯 P. 344

PCS 警告灯 P. 344

SRS エアバッグ／プリテンショナー警告灯 P. 344

エンジン警告灯 P. 344

運転席シートベルト非着用警告灯 P. 345

助手席シートベルト非着用警告灯 P. 345

マスターウォーニング P. 346

パワーステアリング警告灯 P. 344

充電警告灯 P. 343

	燃料残量警告灯 P. 345		半ドア警告灯 P. 345
4WD	4WD 警告灯 P. 344		油圧警告灯 P. 343
	ディスチャージヘッドライト オートレベリング警告灯 P. 344		油量警告灯 P. 344

警告メッセージが表示された

P. 347 警告メッセージが表示されたときは

警告音が鳴った

■警告灯の点灯、点滅、またはマルチインフォメーションディスプレイ*の警告メッセージを確認ください。

● 警告灯が点灯、点滅している（→P. 343）

● 警告メッセージが表示されている（→P. 347）

■警告灯の点灯、点滅や、マルチインフォメーションディスプレイ*に警告メッセージの表示がないとき、または車外で警告音が鳴ったときは、次のことを確認ください。

お車の状況	鳴ったときの状況	参照ページ
停車／駐車中	ドアを開けたとき	P. 29
	車外に出たとき	
	スマートエントリー&スタートシステムでロックセンサー部に触れたとき※	
走行中	シフトレバーを R にしたとき	P. 140
	シフトダウンしたとき	P. 140
	ブレーキを踏んだとき	P. 122

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

ガソリンスタンドでの情報

給油や交換などの際に必要になる項目をまとめてあります。

<table>
<tr><td>燃料の容量
(参考値)</td><td>71L</td></tr>
<tr><td>燃料の種類</td><td>無鉛レギュラーガソリン（4GR-FSE エンジン車）
無鉛プレミアムガソリン（2GR-FSE エンジン車）
P. 85, 382</td></tr>
<tr><td>タイヤが冷えているときの空気圧</td><td>標準タイヤ
<table><tr><td></td><td>前輪</td><td>後輪</td></tr><tr><td>215/60R16 95H</td><td colspan="2">250（2.5）kPa (kg/cm^2)</td></tr><tr><td>235/45R18 94W</td><td colspan="2">240（2.4）kPa (kg/cm^2)</td></tr></table>応急用タイヤ：420 (4.2) kPa (kg/cm^2)</td></tr>
<tr><td>エンジンオイル容量
(参考値)</td><td>オイルのみ交換時
FR：5.9L
4WD：6.0 L
オイルとフィルター交換時
FR：6.3L
4WD：6.4 L</td></tr>
<tr><td>エンジンオイルの種類</td><td>トヨタ純正モーターオイル
・ SM 0W-20 (API SM、EC/ILSAC GF-4、SAE 0W-20)
・ SM 5W-30 (API SM、EC/ILSAC GF-4、SAE 5W-30)
・ SM 10W-30(API SM、EC/ILSAC GF-4、SAE 10W-30)
・ SL 5W-20 (API SL、EC、SAE 5W-20)
・ SL 10W-30(API SL、EC、SAE 10W-30)</td></tr>
</table>

お問い合わせ、ご相談は
下記へお願いいたします。

トヨタ自動車株式会社　お客様相談センター

全国共通・フリーコール

フリーコール 0800-700-7700

オープン時間　365日　9:00～18:00

所在地　〒450－0002　名古屋市中村区名駅四丁目10の27
第二豊田ビル西館7階

「個人情報保護方針」については、
http://www.toyota.co.jpにて掲載しております。

トヨタ自動車株式会社
http://toyota.jp

マ-12

M 22526
01999ー22526
NAB-2009年10月 9 日
2009年10月19日 初版
マーク X